

古代における鉄製鋏先の研究

— 7世紀後半～11世紀の関東・東北を中心に—

林 正 之

要旨 近年東北地方で鉄製鋏先の出土例が増加し、鋏先研究の盛んな関東地方との比較研究が可能になった。本稿では、東北・関東の古代の鋏先を集成してその規格を検討し、鋏先出土遺跡の性格を分析して鋏先の生産・流通体制を考察した。その結果南東北以南では7世紀後半の国家による新規格導入以後、11世紀まで鋏先の規格が統一され、鋏先の生産・流通に国家や、国家に結びつく勢力が関与したことが判明した。他方北東北では、8世紀代から南東北以南とは異なる鋏先が作られ、9世紀末の鉄生産の隆盛とともに独自の規格が確立されて製鉄集落を中心に自給的な鋏先生産が展開したが、10世紀後半の集落再編でこれらの規格は断絶し、以後製鉄機能をもつ防禦性集落単位で多様な鋏先が生産されたことが判明した。

はじめに

スキ・クワの先端に装着した鉄製鋏先は、農耕・土木作業の最重要な道具であり、刀子や鎌より製造工程が複雑で技術的特徴が現れ易く、鉄器生産・流通の検討にも資する。本稿では、東北から関東の7世紀後半から11世紀代までの鉄製鋏先を分析する。7～11世紀はこれらの地域の鋏先の一つの画期である。また関東では鋏先研究が進んでいるが、古代国家の蝦夷経路を通じて関東と密接、特殊な関係を持った東北は、近年鋏先の出土例が増加するも、その研究は少ない。

本稿で扱う鋏先は、U字にえぐれた部分のV字溝に木製柄をはめ込む所謂風呂鋏で（図1）、5世紀中頃以降近代まで、日本の鋏先の基本形態であった。鋏先を取り付ける板を「だい」とよび、特に鋏先と接合する部分を「風呂」という。鋏先がスキ、クワいずれに装着されたか、鋏先自体か

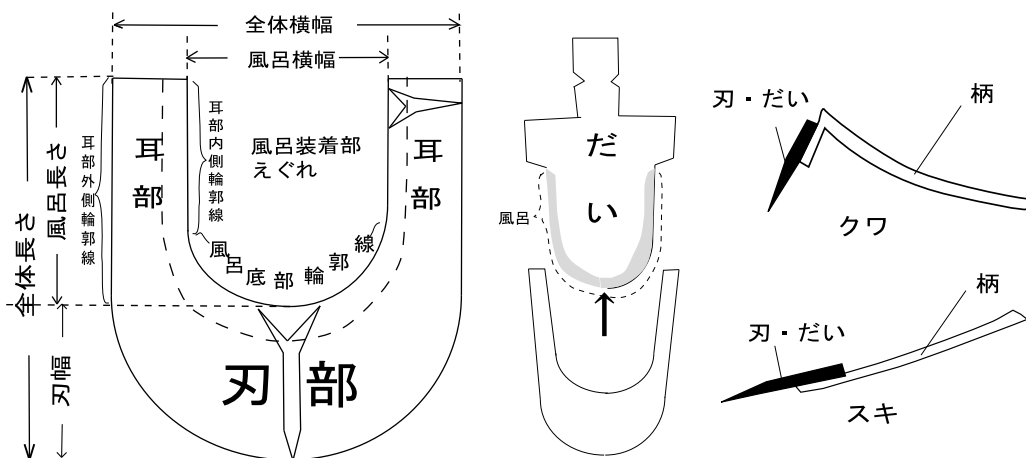


図1 鋏先概念図

らは判別困難であるから、本稿では鋏先は装着器具の如何に関わらず「鋏先」と一括して呼称し、道具としての鋏・鋤全体をさす時には引用文献以外「クワ」・「スキ」とカタカナで表記する。

第1章 研究史

今日に至る鋏先研究は、都出比呂志氏の「農具鉄器化の二つの画期」(都出 1967)を基礎とし、形状・大きさからの分類編年研究、出土数や分布状況からの所有状態研究の、二つの流れがある。

土井義夫氏は、関東地方の鋏先を a 類：凹字形、6 世紀初頭以降普及／b 類：U 字形、8 世紀～9 世紀初頭に普及／と分類され(土井 1971)、後に小型のものをクワ先、大型をスキ先に比定された(土井 1976)。

山口直樹氏は、関東地方の鋏先に大型(1 類)と小型(2 類)がありⁱ、双方段階的に大型化し凹字形から U 字形へと変化することを明らかにし、下表のようにまとめられた。また 1 類を浅耕運搬用のスキ、2 類を深耕用のクワとされた(山口 1978)。

	後期	晩 I 期	晩 II 期
1 類 (大型)	A1 (凹字形)	B2 (中間型)	C3 (U 字形)
2 類 (小型)	A1 (凹字形)	B2 (凹字形)	C3 (U 字形)

松井和幸氏は全国的視野から、土井 a 類を B 類、b 類を A 類とした上で、西日本中心に全国的に広がる A 類を、A1 類：刃先部がやや長く、先端部が直線気味、5 世紀初頭～前半／A2 類：U 字形を呈し刃の幅が耳の幅とほぼ同じ、5 世紀中頃以降古墳時代の主流になる／A3 類：刃先部が U 字形でかなり長く出ている、奈良・平安期／に細分され、B 類は 6 世紀前半に出現し、関東を中心とする東日本に分布することを明らかにされた。また、『延喜式』内膳式に、「鋏柄」と「鋤柄」に着ける刃先は一括して「鋏」と表記されていることなどから、スキ・クワの差は柄の形により、刃先は同一だったという見解を示された(松井 1987)。

なお東北部の鋏先編年として、高橋義介氏が、岩手県内の鋏先を、刃幅を規準に I～IV 類に分類された先駆的研究があるが(高橋義介 1984)、出土数の増加した今日、大きく変更を要するⁱⁱ。

鋏先の出土数・分布の分析は、堅穴住居の鉄器出土率の増加傾向から鉄器所有の画期を想定する原島礼二氏の先駆的研究を基礎とするが(原島 1968)、鉄製品の種類を無視した点が当初から批判された(宮原 1970)。土井義夫氏は、鋏先の出土が極端に少ない一方、鎌の出土は 9 世紀以降急増することから、9 世紀以降鎌は堅穴住居単位に普及したが、鋏先は依然単位集団ごとの所有だったと推定(土井 1971)、後に鎌を出土しない堅穴住居の例の増加から、鎌については所説を撤回された(土井 1976)。高橋一夫氏は『延喜式』主税式や正倉院文書義倉帳から、鉄や鋏の価格、農民の財力を考察され、鋏先の出土率増加と価格低下から量産化を認めつつも、依然高価だったと論証、越前桑原荘関係文書ⁱⁱⁱや『新猿楽記』^{iv}から、富豪層のクワ・スキ「集中的所有」を推定された。また国分期には「大集落」に最低一軒の小鍛冶があり、郡司・富豪層が鉄の生産・流通に大きく関与した可能性を示唆された(高橋一夫 1976)。

一方、鉄器依存の偶然性も早くから指摘され（都出 1967）、松村恵司氏は、腐食や再利用など鉄器遺存の条件を想定し、鉄器の存在を示す砥石や、家財の屋外持出しを受けない火災住居、自然的条件の差異を捨象しうる集落全域発掘事例の悉皆調査の重要性を強調された（松村 1991）。野崎進氏は、鋤先は出土数が少なく普及率推定は不可能とされ、集落小鍛冶遺構が小規模断続的な点から鉄器再利用は困難と指摘、完形、破片等鉄器の依存状況に応じて、安置・投棄など意味合いが異なると想定された（野崎 1988）。

以上を踏まえた上で、本稿では、他の鉄製農具との比較検討は行わず鋤先のみ焦点を絞って分析を行う。それに先立ち、東北から関東の鋤先および鋤先装着用だいを集成し、都道府県別に出土遺跡名の五十音順に番号を付した。第三章では、大きさ、形状から分類・編年を行い、関東・東北という隣接していながら歴史的に異質な地域を比較して双方の特徴を明らかにする。また第四章では、出土の偶然性を支持し、鋤先の出土数ではなく鋤先を出土した遺跡の属性の傾向を分析し、どういった場所が鋤先を遺物として出しているかを考える。

第3章 形状と大きさから見た比較

従来は鋤先全体の幅・長さ・形状に注目し、その形状や大きさを比較したが、これでは刃の摩耗等で誤差が生じる。本稿では刃に比べ摩耗が少なく、鋤先の形状を決めるもう一つの重要な要素である、風呂部えぐれの形状と大きさにも注目した。この場合鋤先装着用の木製だいもデータとして利用できる。縦軸を長さ、横軸を幅とし、風呂・刃全体それぞれの幅と長さの関係をグラフに示した。点の形は年代に応じ区別した。またグラフに線 $y=x$ を示し、これより上では、長さが幅を上回る「縦長」、下であれば幅が長さを上回る「横長」とした。

①南東北（宮城・山形・福島）と関東

グラフから、宮城・山形以南東北地方と関東地方の鋤先は7世紀後半から11世紀に至るまで、小型：風呂の幅 3~7cm 長さ 4~9cm。全体の幅 6~11cm 長さ 8~12cm / 大型：風呂の幅 12~16cm 長さ 12~18cm。全体の幅 16~21cm 長さ 18~24cm、に明確に分かれ、「縦長」のものが圧倒的で（山形県出土例は、一例を除き鋤先装着用の木製柄で、全て大型であった）、形状も、内側輪郭線（風呂装着部のえぐれの輪郭）は、耳部で上にいくほど直立に近くなるように緩やかに外傾し、刃部に近づくにつれ傾斜を益し、深い「縦長」を呈する文字通りのU字形を呈する。なお7世紀後半以前のこの地域の鋤先も参考までに集成を試みたが（図2）、6世紀代から7世紀代の鋤先は例外無く松井B類の凹字形で、7世紀後半から末に、凹字形からU字形への形状変化と大型化が急激に生じたことが再確認された。ただし埼玉・群馬には5世紀代の松井A2類に比定できるU字形鋤先の出土が注目されるが、ここでは詳述しない。

以上は山口氏や松井氏の説を補強するものだが、今回新たに、南東北でも7世紀後半、鋤先に関

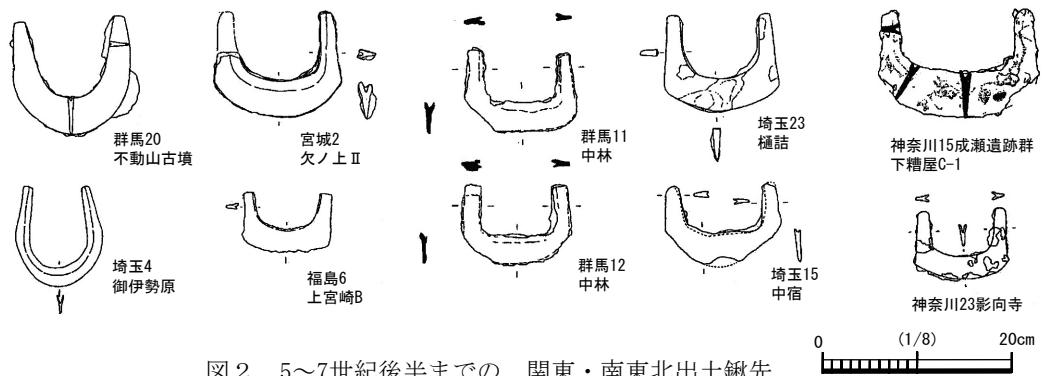


図2 5～7世紀後半までの、関東・南東北出土鉄先

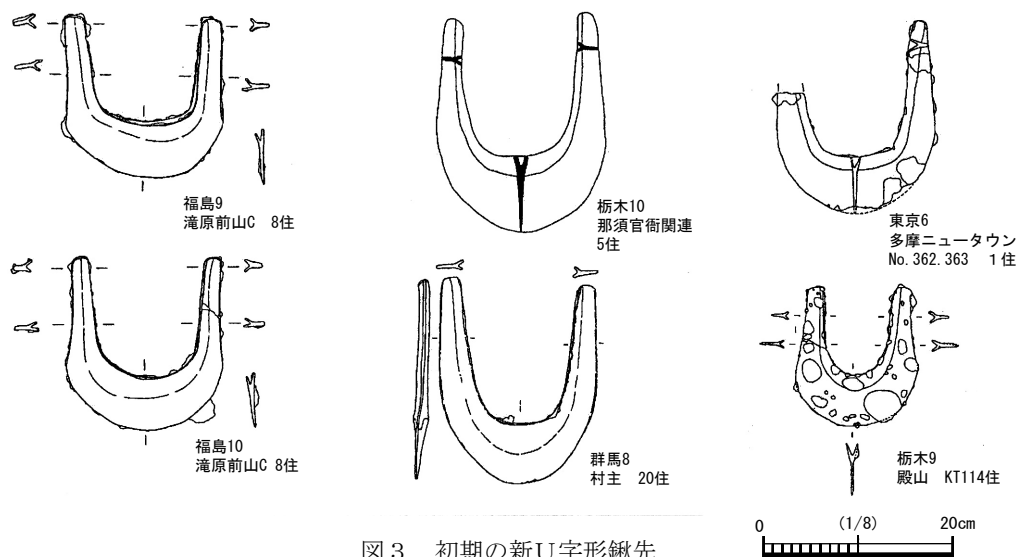


図3 初期の新U字形鉄先

東同様の急激な変化が生じ、それ以降の鉄先の規格が11世紀まで存続したことが判明した。これは畿内と同規格の高台付須恵器坏や暗文土師器の全国的製造、全国各地への鍛冶・製鉄・窯業に関わる大規模複合型手工業センターの成立という、手工業における7世紀後半の全国的規格統一と生産機構再編（菱田2007）、特に東日本における官衙附属の連房式鍛造鍛冶工場の出現等の現象に連動する（安間2007；佐々木2008）。鉄・窯業関連の大規模な手工業生産には、この時期成立した評家・国司の前身の関与が考えられるから、鉄先規格の変動は、国家による地方支配の新たな画期の、一つの反映と言える。なお、かかる新しいU字形鉄先を松井A3類と称してきたが、松井氏の分類があくまでも形状によるもので、松井A3類はA2類と厳密に区別できず、上述した地方社会の変動を反映し得ない点から、以後7世紀後半以降のこうした「縦長」U字形鉄先を、大・小型ともに、「新U字形鉄先」と称することとする。

古代における鉄製鍬先の研究

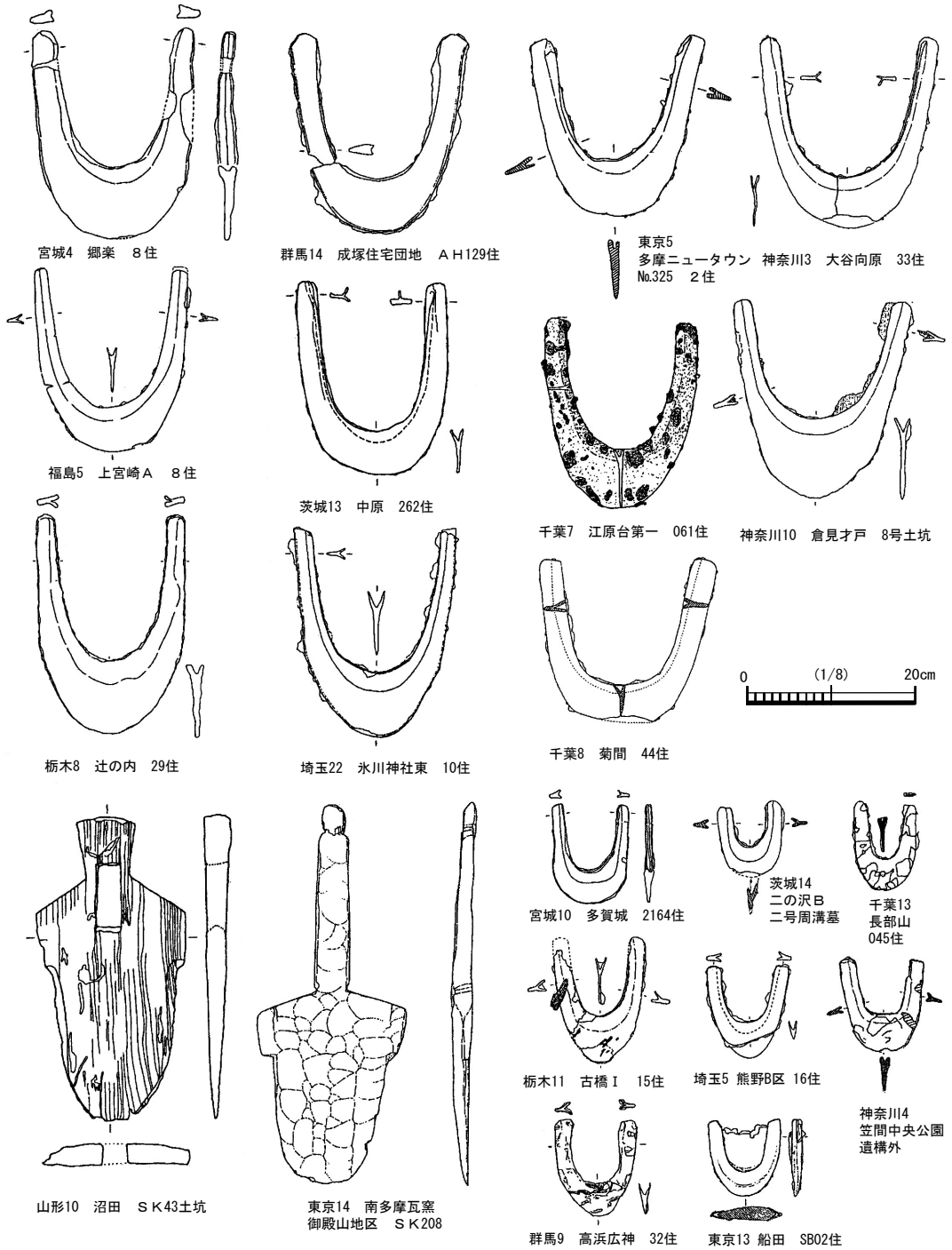
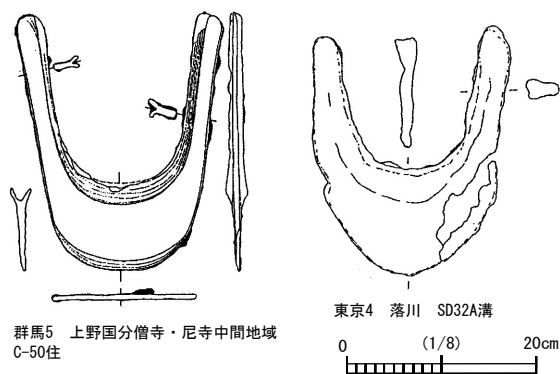


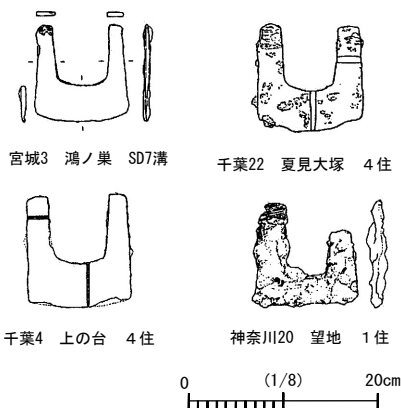
図4 8世紀後半～10世紀の新U字形鍬先とその装着用だい



群馬5 上野国分僧寺・尼寺中間地域 C-50住

東京4 落川 SD32A溝

図5 11世紀～12世紀の新U字形鋏先



宮城3 鴻ノ巣 SD7溝

千葉22 夏見大塚 4住

千葉4 上の台 4住

神奈川20 望地 1住

図6 凹字形鉄板（山口P類）

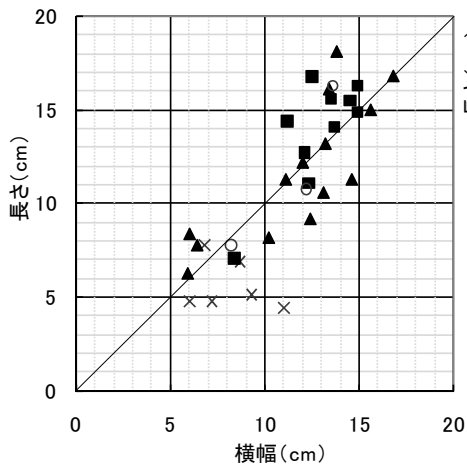
7世紀末から8世紀前半代の初期の新U字形鋏先は、(図3)、外側輪郭線(耳部外側から刃部の輪郭)が耳部の下にいくほど外に張り出すため、刃部のやや上で鋏先の全体幅が最大となる。これは松井B類のうち宮城2、埼玉15・23、神奈川21などの特徴と一致し、福島10と重なって出土した福島9は、風呂部が「横長」でB類との中間的形狀を呈することも、松井B類を製作した関東在地の工人が初期新U字形鋏先の製作に関与した可能性を示唆する。なお初期新U字形鋏先の殆どは大型だが、年代不明の栃木9は、縦長U字形の風呂の形状から、初期形式の小型新U字形鋏先の可能性が高い。耳部の外側輪郭線の張出しは見られなくなり、8世紀代後半以後は文字通りのU字形を呈するようになる(図4)。12世紀に入るまでこの形状は変わらない(図5)。

新U字形鋏先の地域性は、特に出土例の増える9世紀以降若干見られ、千葉県と神奈川県の大形鋏先には、耳が比較的狭く、また大きく外傾するため、風呂の形状が「横長」となり幅広な印象を受けるものが多い(千葉8、神奈川3・10)。また、小型鋏先の形状と大きさはばらつきが大きい。栃木県の9世紀代における小型新U字形鋏先は、他地域より一回り大きく作られている(栃木6・11・15)。しかし、かかる差異は非常に微妙なものに過ぎない。

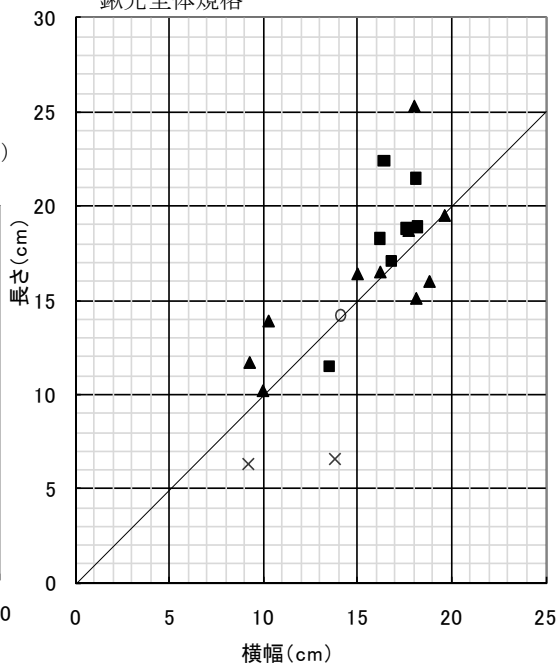
最後に、宮城3、千葉4・22、神奈川20など、新U字形鋏先出現後に現れる凹字形鉄板は(図6)、風呂装着のためのV字溝がなく、分布は宮城と南関東で新U字形鋏先の分布圏と重なり、年代は8世紀代に限られる。山口氏はこれを特殊な鋏先としてP類に分類され(山口1978)、松井氏は、これは鋏先の材料となる鉄板であり、風呂接合部を分かれた状態にしたまま二枚重ねて叩き合わせたとの見解を示された(松井1987)。しかし野崎氏は、この凹字形鉄板にしばしば木製柄が残存し、これ自体が柄を付けて用いられていたことから松井氏の説を否定され、残存柄の木目が刃に平行であることから、鋏先としての用途も疑問視される(野崎1988)。少なくとも実用品としての鋏先は、新U字形鋏先に統一されたと見て間違いはないであろう。

古代における鉄製鍬先の研究

グラフ1-1-1 南東北（宮城・山形・福島）
鍬先風呂規格

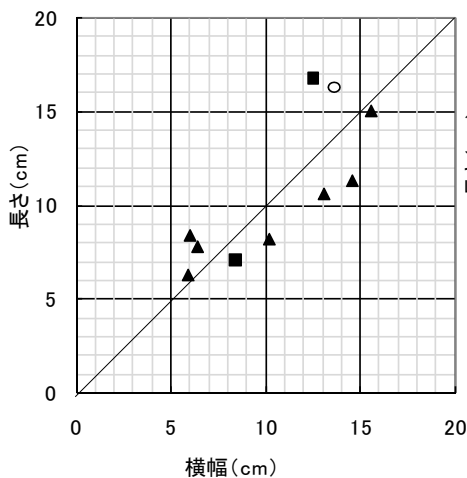


グラフ1-1-2 南東北(宮城・山形・福島)
鍬先全体規格

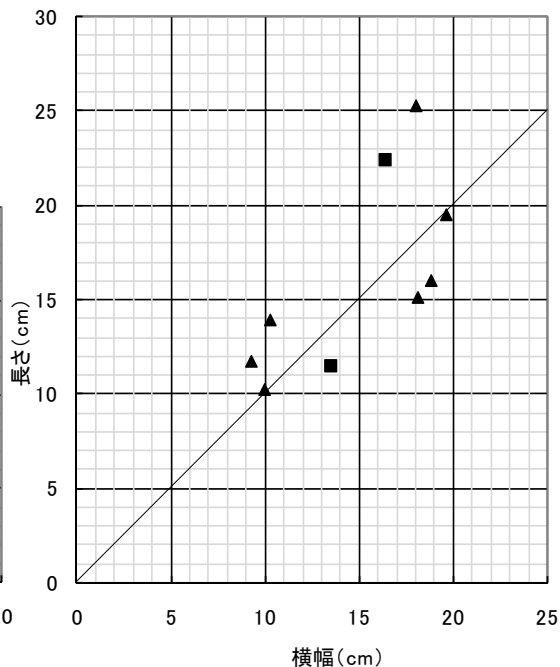


- × ~7世紀後半(参考)
- 7世紀末~8世紀
- ▲ 9世紀~10世紀
- ◆ 11世紀~
- 年代不明

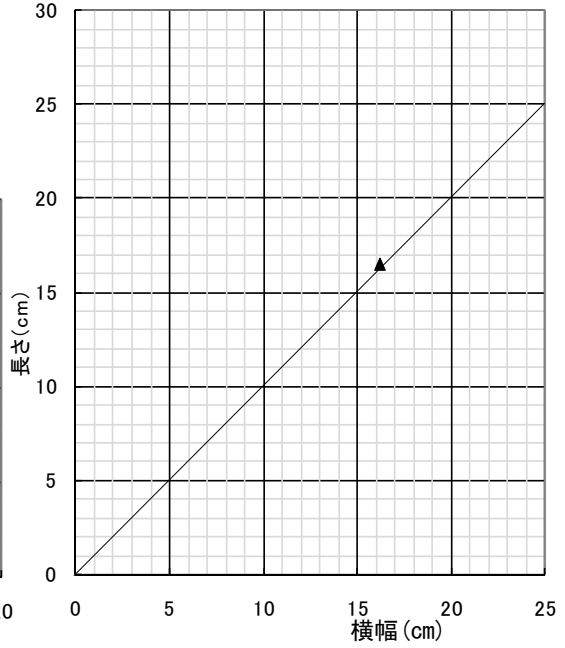
グラフ1-2-1 宮城県鍬先風呂規格



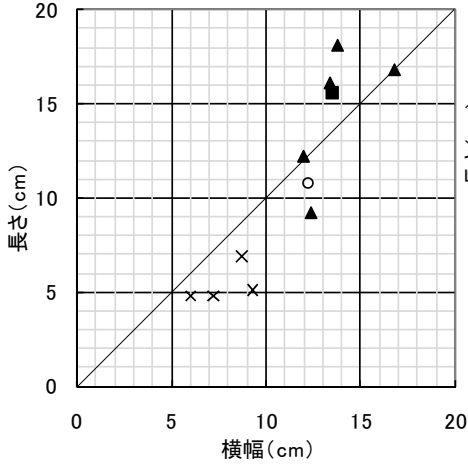
グラフ1-2-2 宮城県鍬先全体規格



グラフ1-3-2 山形県鍬先全体規格

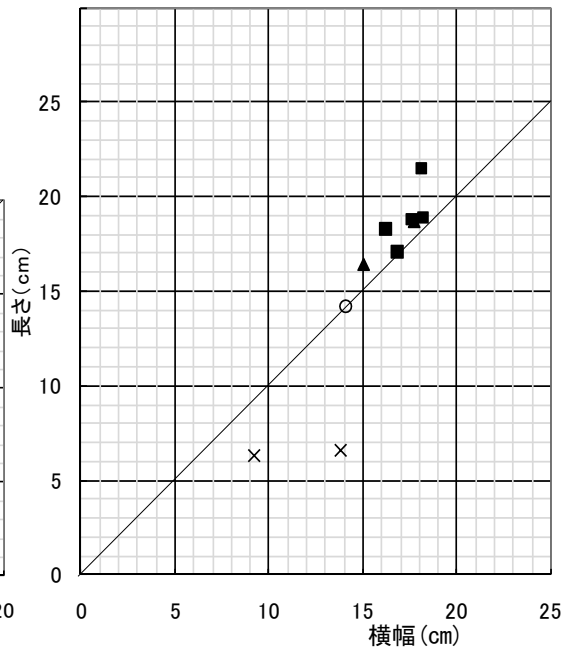


グラフ1-3-1 山形県鍬先風呂規格

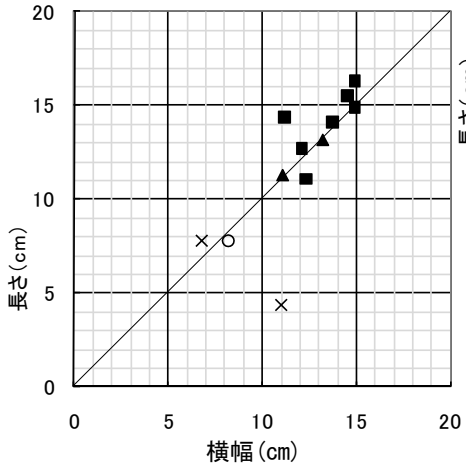


- × ~7世紀後半(参考)
- 7世紀末~8世紀
- ▲ 9世紀~10世紀
- ◆ 11世紀~
- 年代不明

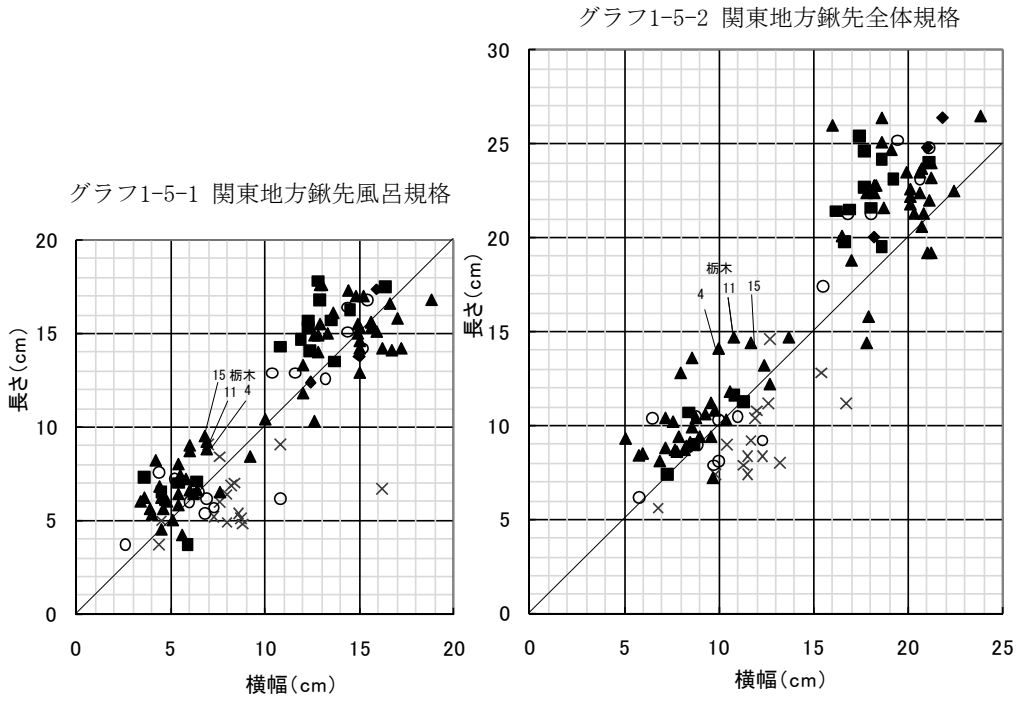
グラフ1-4-2 福島県鍬先全体規格



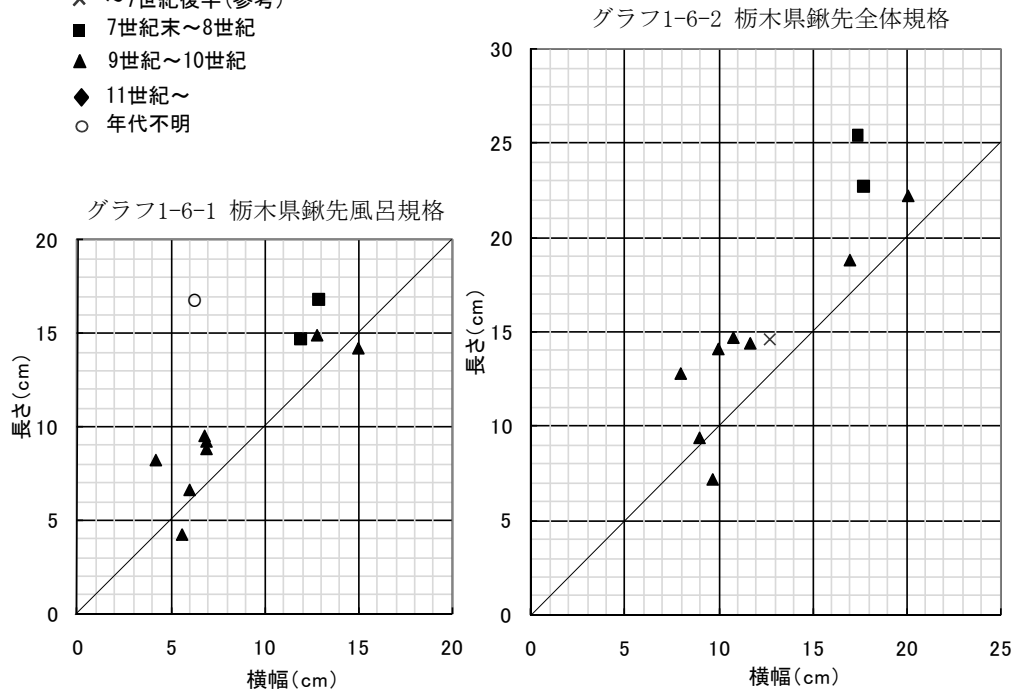
グラフ1-4-1 福島県鍬先風呂規格

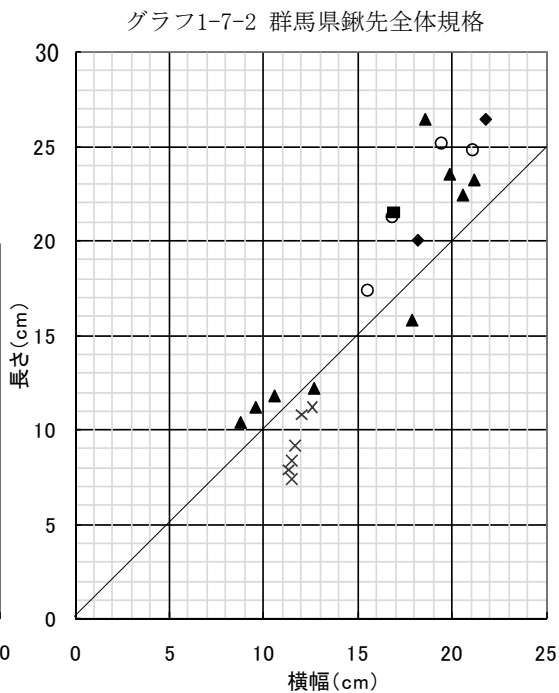
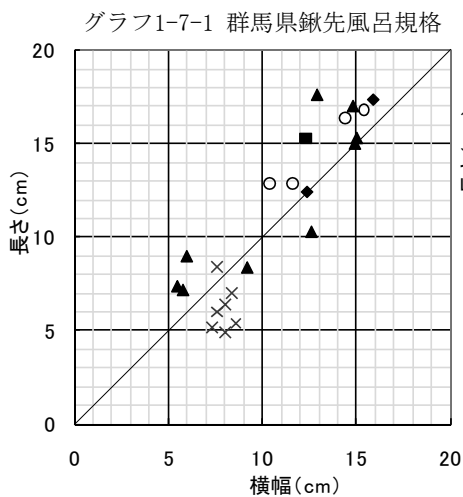


古代における鉄製鍬先の研究

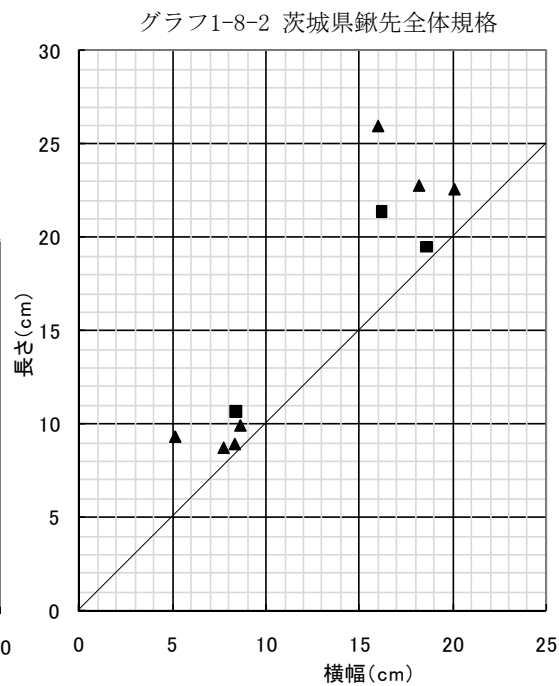
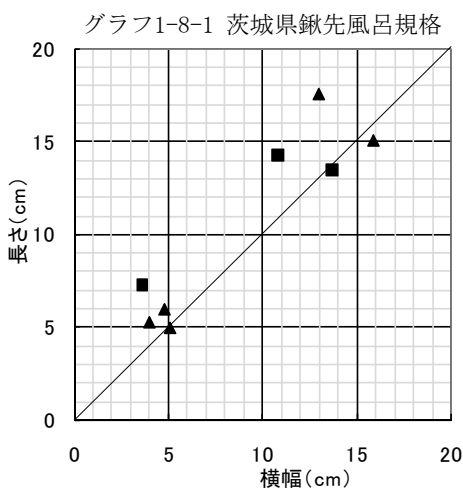


- × ~7世紀後半(参考)
- 7世紀末~8世紀
- ▲ 9世紀~10世紀
- ◆ 11世紀~
- 年代不明



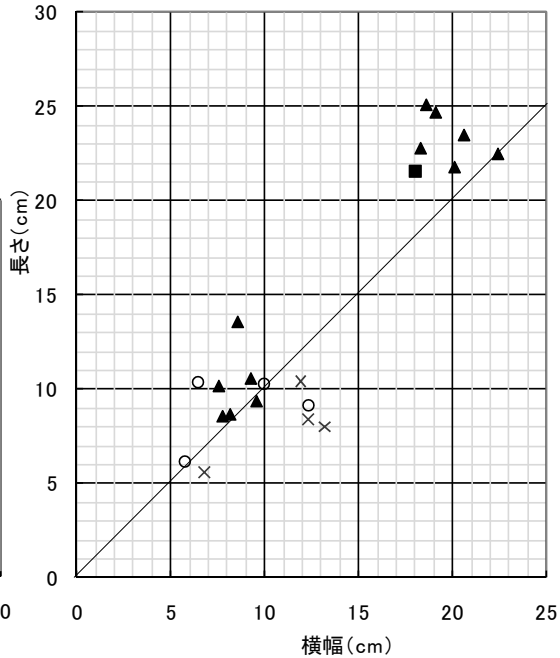


- × ~7世紀後半(参考)
- 7世紀末~8世紀
- ▲ 9世紀~10世紀
- ◆ 11世紀~
- 年代不明

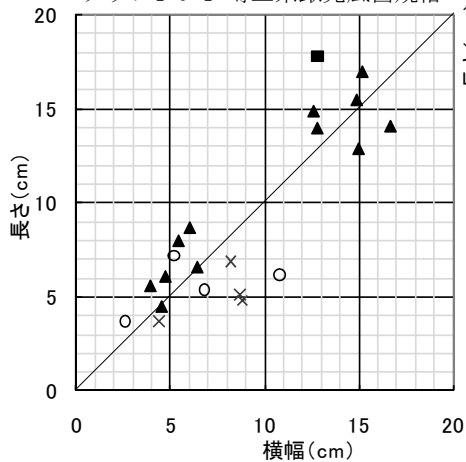


古代における鉄製鍬先の研究

グラフ1-9-2 埼玉県鍬先全体規格

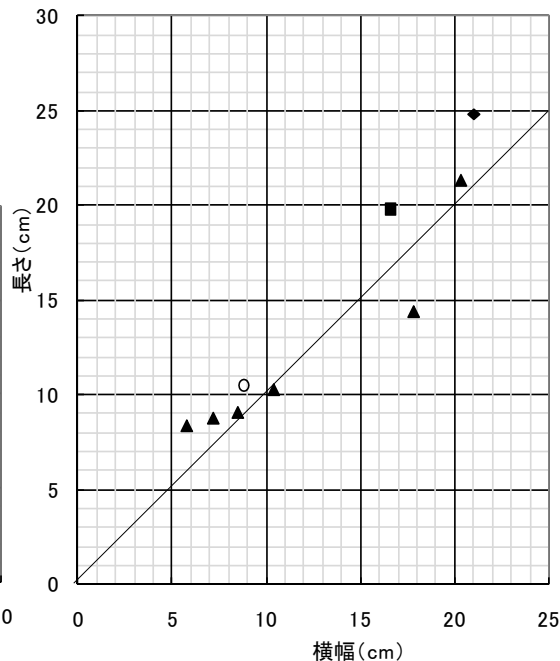


グラフ1-9-1 埼玉県鍬先風呂規格

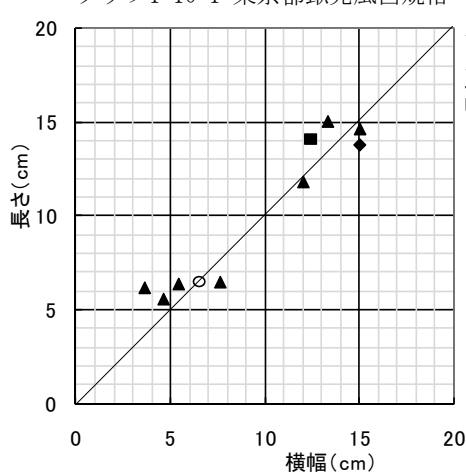


- × ~7世紀後半(参考)
- 7世紀末~8世紀
- ▲ 9世紀~10世紀
- ◆ 11世紀~
- 年代不明

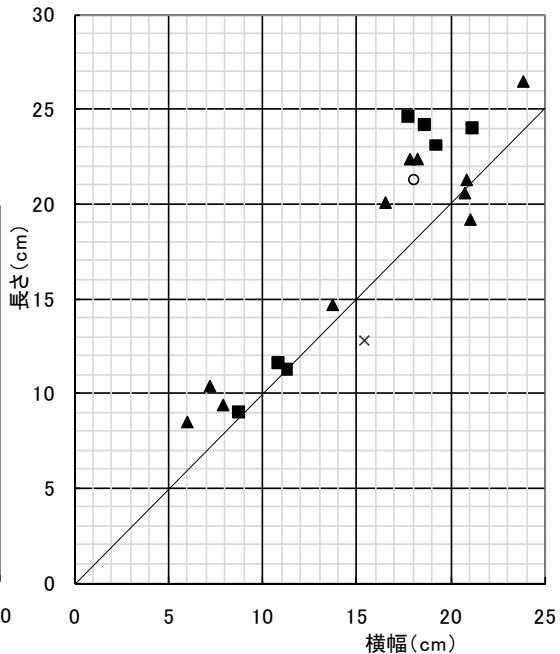
グラフ1-10-2 東京都鍬先全体規格



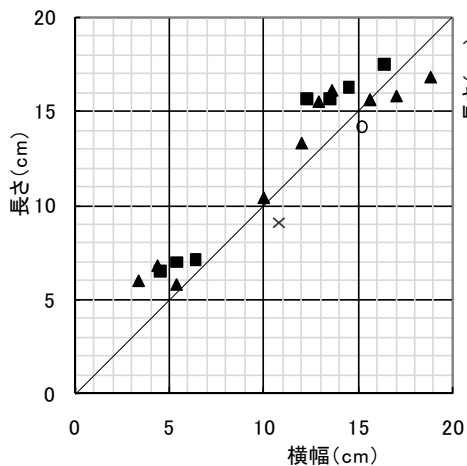
グラフ1-10-1 東京都鍬先風呂規格



グラフ1-11-2 千葉県銚先全体規格

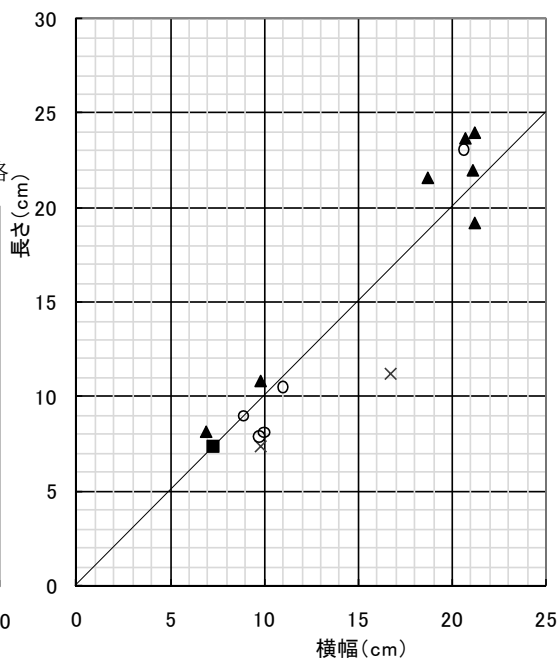


グラフ1-11-1 千葉県銚先風呂規格

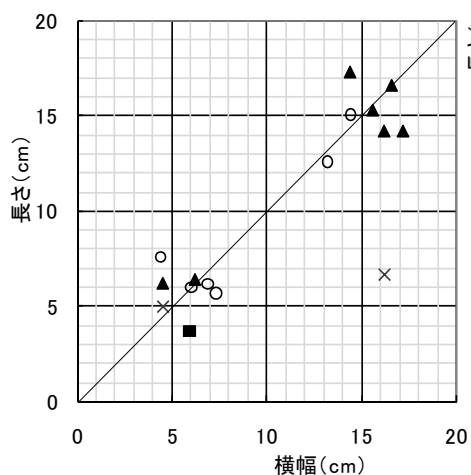


- × ~7世紀後半(参考)
- 7世紀末~8世紀
- ▲ 9世紀~10世紀
- ◆ 11世紀~
- 年代不明

グラフ1-12-2 神奈川県銚先全体規格



グラフ1-12-1 神奈川県銚先風呂規格



②北東北（岩手・秋田・青森）

秋田・岩手では9世紀末から10世紀半ばの殆どが、風呂部の幅10~14cm、長さ8~12cm、全体の幅14~19cm、長さ10~17cmに集中し、風呂・全体ともに「横長」で、新U字形鍬先大型・小型いずれの範囲からも外れる。青森県も、風呂幅8~12cm長さ8~13cm・全体幅15~19cm長さ15~20cmの範囲に大多数が集中し新U字形鍬先の範囲から外れるが、岩手・秋田とも様相を異にし、全体が「縦長」のものが圧倒的で、風呂部も「縦長」のものが比較的多い（グラフ2参照）。

まず青森・岩手・秋田の鍬先を地域ごとに編年した（表1~3）。原型推定が困難な破片は掲載しなかった。なお北東北では、915年に降下したと考えられている十和田a火山灰（T-aテフラ）や10世紀半ば頃降下したと考えられている白頭山—苦小牧火山灰（B-Tmテフラ）により、鍬先が集中する9世紀後半から10世紀の詳細な年代比定が可能である（小口2003）。

岩手や秋田では8世紀代の比較的早い段階から鍬先が見られ始める（図7）。最古のものは北上市の終末期古墳群、江釣子古墳群五条丸支群51号墳出土、松井B類に属する鍬先である（岩手13）。また二戸市馬場遺跡における7世紀末~8世紀前半の竪穴住居の床出土のもの（岩手29・30）、盛岡市本宮熊堂B遺跡の住居出土のもの（岩手37）も同じく最古級に属し、次いで紫波町稲村II遺跡の8世紀前半の住居出土のものがある（岩手5）。この4点は松井B類とも、既に東北南部以南を席卷していた新U字形鍬先とも異なり、在地で独自に作られたものと考えられる。

8世紀中頃以降9世紀、新たな状況が展開する（図8）。まず北東北のうち比較的南側、（太平洋側では盛岡盆地よりも南の北上川流域、日本海側では秋田城以南）では、秋田城址の8世紀半ばの住居址（秋田1）、稲村遺跡の8世紀末から9世紀初めにかけての住居址床面（岩手4）から大型の新U字形鍬先が出ている。また大見内遺跡の9世紀から10世紀始めの土坑や（秋田6）、胆沢城跡の9世紀後半の掘立柱建物柱穴（岩手2）からも、新U字形鍬先装着用の木製だいが出土している。また秋田県弘田柵跡の9世紀後半代の住居より出土した例は（秋田17）北東北唯一の小型新U字形鍬先の可能性があるが、風呂部の形がU字よりV字に近く、異形であることから即断はできない。この時期の北東北南側の地域では、鍬先や鍬先装着用のだいは全て新U字形鍬先で、多くは城柵関係遺跡からの出土である。

一方同時期の北東北北側の動向は、出土例が少なく不明な点が多いが、二戸市長瀬C遺跡の住居覆土より出土した例（岩手26）は、覆土にT-a火山灰が弓なりに落ち込んで堆積していることからT-a火山灰降下よりも前、遅くとも9世紀後半の住居廃絶が考えられ^{vi}、9世紀中葉以前の鍬先の可能性がある。青森県八戸地域の下田町ふくべ（3）遺跡からは、9世紀前~中葉の住居から鍬先が出土している（青森35）。いずれも「横長」で、風呂部のえぐれが浅い半円形を呈する在地独自の形状である。

そして北東北の新U字形鍬先は、大見内遺跡の木製だいと鷹巣町法泉坊沢II遺跡の9世紀後半から10世紀初頭の竪穴住居出土の鍬先（秋田16）を最後に北東北から姿を消すのである。なおこの秋田16は、管見では米代川以北で出土した唯一の新U字形鍬先で、耳幅が異様に広く、通常の

新U字形鋏先とはやや様相を異にする。

続いて915年のT-a火山灰の降下直前の9世紀後半から末期、北東部全域の鋏先に大きな変化が起こる。北東北各地、岩手県では盛岡盆地の本宮熊堂遺跡（岩手36）と台太郎遺跡（岩手20～22）、秋田県では鹿角盆地の中の崎遺跡（秋田14）、青森県では八戸の岩ノ沢平遺跡（青森7）、青

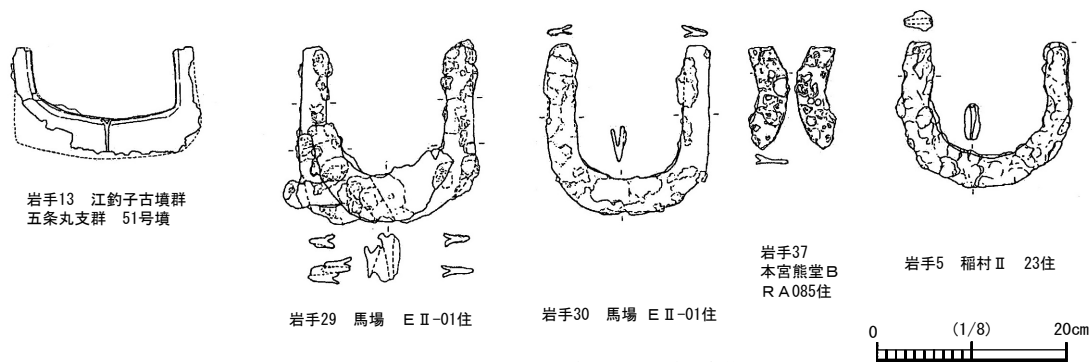


図7 北東北における7世紀～8世紀前葉の鋏先

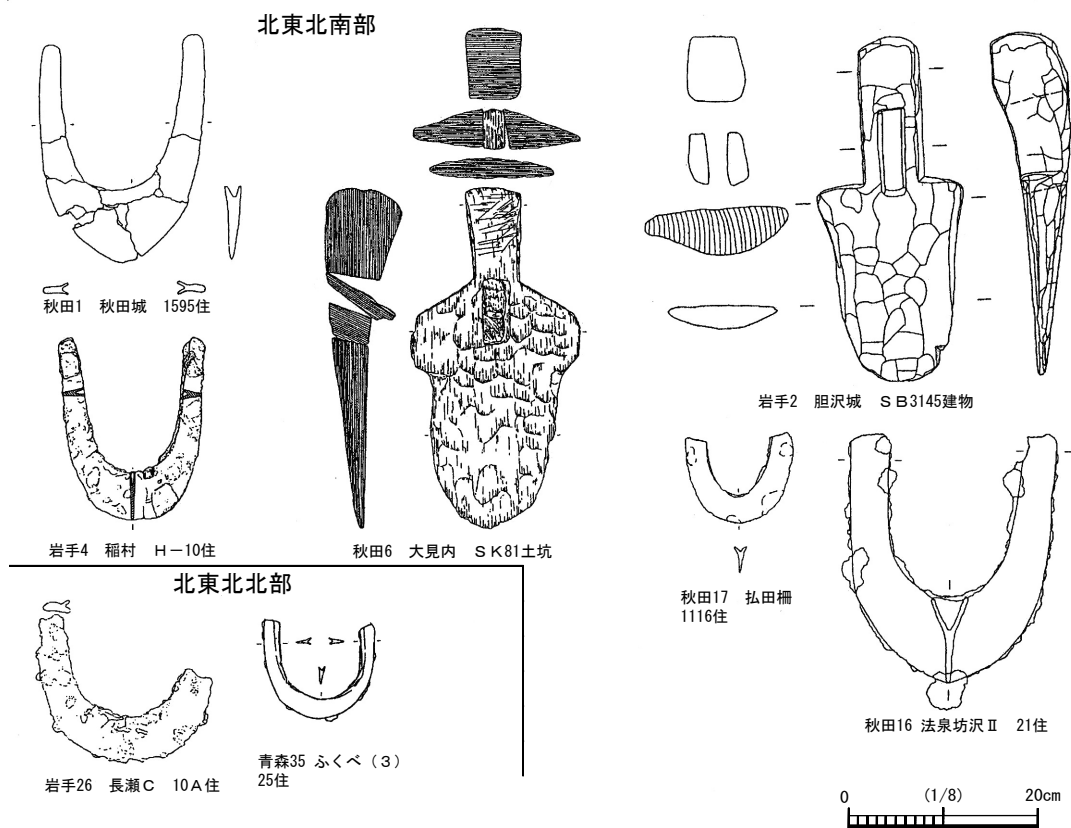


図8 北東北における8世紀半ば～9世紀半ばの鋏先

古代における鉄製鋏先の研究

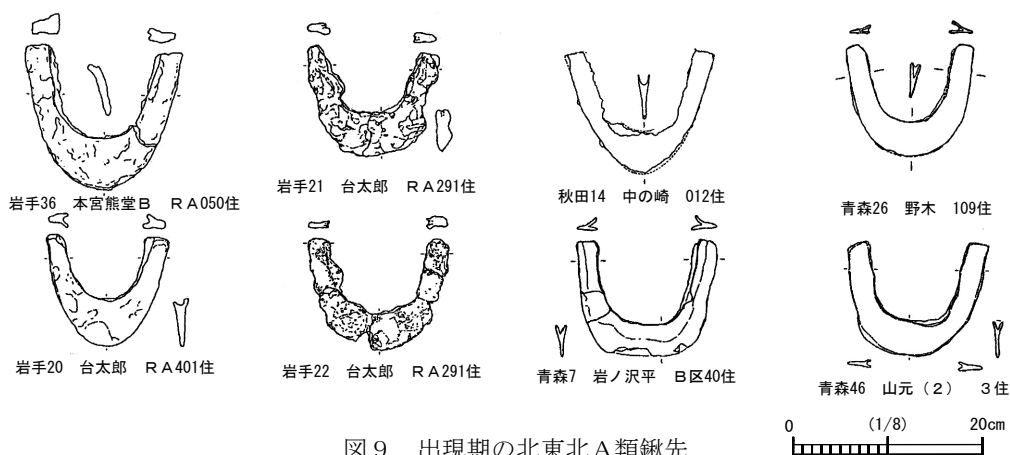


図9 出現期の北東北A類鋏先

森平野の野木遺跡（青森 26）、津軽の山元（2）遺跡（青森 46）などで、同時多発的に、風呂部のえぐれが浅く、耳部が緩やかに湾曲しながら外傾し、全体的に横に長くずんぐりした形状の独特の鋏先が現れる（図9）。

岩手県ではその後（図10）、宮古地域で、島田Ⅱ遺跡の10世紀第一四半期から半ばにかけての5軒もの竪穴住居から（岩手14～18）、また時期は不明だが、房の沢Ⅳ遺跡における終末期古墳の周溝および遺構外から（岩手36、37）この形式の鋏先が出土している。二戸地域でも10世紀半ばの大向上平遺跡（岩手7）、飛鳥台遺跡（岩手1）の住居址から出土し、時期は不明だが、九戸村江刺家遺跡の事例（岩手29）も出土例がある。

秋田県（図11）では、その後も鹿角地域で10世紀半ば頃までこの鋏先の分布が見られる（秋田14ほか）。雄物川下流域から秋田平野にかけての地域では、10世紀前半の上野遺跡の住居内（秋田3）や湯ノ沢F遺跡の墓坑内（秋田18）から出土して、大館地域では釈迦内中台Ⅰ遺跡の10世紀前半・中葉の住居から出土する（秋田11、12）。湯ノ沢F遺跡のものは、一回り小さい。

青森県（図12）ではその後、岩ノ沢平遺跡で10世紀前葉のものが（青森6）、七戸の大池館遺跡で10世紀中葉の同鋏先（青森8・9）が出土するが、後述のように異なる形式の鋏先も並存する。

また北上川下流域の宮城県柳津館山館址の10世紀前半代の住居からも出土が見られる（宮城15）。

以上のような鋏先を、北東北A類とよぶ。10世紀半ばの、B-Tm火山灰の降下期前後まで、岩手・秋田全域の鋏先はほぼこの北東北A類一色となる。

北東北A類全般について、風呂部えぐれが、風呂部の耳部と刃部のラインが角をなさない半円形に近い滑らかな曲線から方形へと変化する傾向みられるが、これは北東北A類が、岩手5、26、青森35などの北東北独自の半円形鋏先の系譜を引くものであることを示す（図7・8参照）。えぐれの形状が半円形に近いものは盛岡盆地に集中しており、形式学的にはこの地域に北東北A類の発祥を求めるのが妥当と考える。房の沢Ⅳ遺跡の終末期古墳から風呂部えぐれが方形の北東北

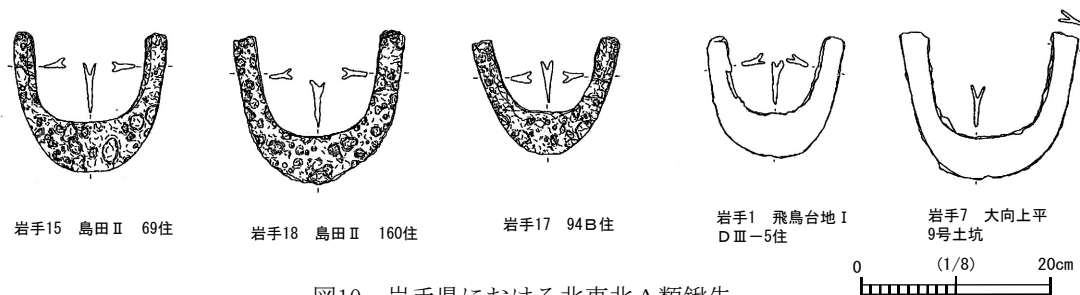


図10 岩手県における北東北A類鍬先

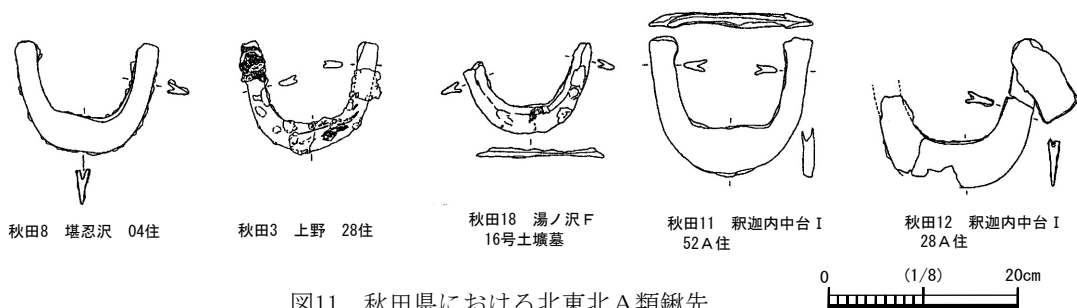


図11 秋田県における北東北A類鍬先

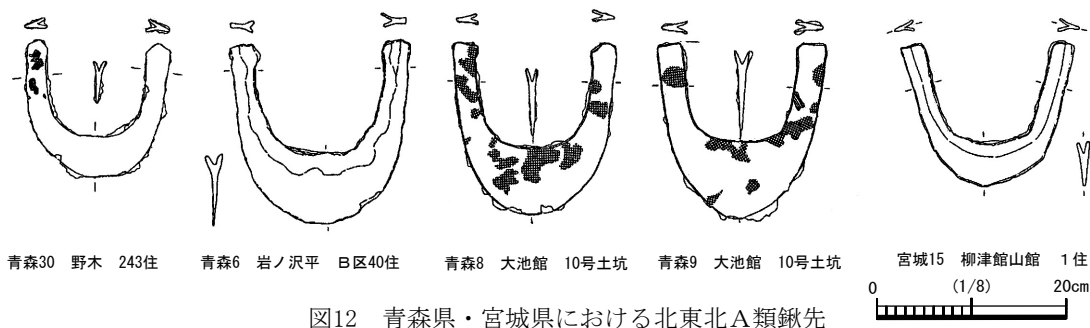


図12 青森県・宮城県における北東北A類鍬先

A類が出土したが、周濠や遺構外からの出土で厳密に年代を比定できず、A類の初出とはいえない^{vii}。岩手・秋田県では、時代が下るにつれ次第に大型のもの（岩手7、15、16、18秋田11・12）が現れ、島田II遺跡の岩手14と15～18、二戸地域の飛鳥台地I遺跡（岩手1）と大向上平遺跡（岩手7）のような大小の分化も見られるが、南東北以南のように顕著ではない。

青森県地方では先述の通り、9世紀後半以来北東北A類とは異なる鍬先が出現する。一つは風呂部えぐれが正方形を呈し、耳部上端が内側に向かって広がりストッパーとなり、耳部外側輪郭線があまり外傾せず、風呂部えぐれの底部ラインより下まで直線的に延びるもので、これを北東北B類と称する（図13）。もう一つは風呂部えぐれの輪郭線が円弧を描くようにカーブし、耳の中央部で最大幅となった後、上に行くにつれすぼまってストッパーとなるもので、耳部は外側輪郭線が風

呂部えぐれ底部より下まで直線的に延び、外傾の度合いが弱く、これを北東北C類と称する(図14)。また、事例は少ないが、U字形の風呂装着部えぐれをもつも、その幅10~12cm、長さ10~14cmと新U字形鍬先より一回り小さい鍬先もあり、これを北東北D類と呼ぶ(図15)。

青森平野では、南側台地上の野木遺跡から、北東北A類と並んで、9世紀後半から10世紀初頭にかけてのB(青森23)、C類(青森20、27、29)D類(青森25)が出土した。朝日山(2)遺跡でも住居址から一例(青森1)、墓坑から2例(青森2、3)D類が出土し、9世紀後半~10世紀初

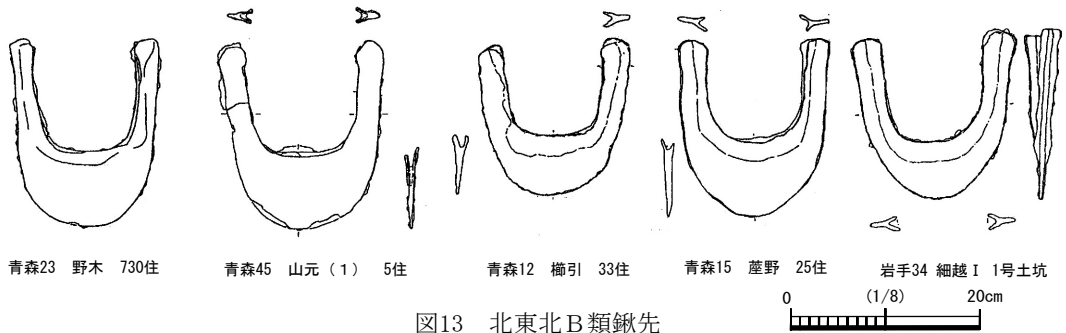


図13 北東北B類鍬先

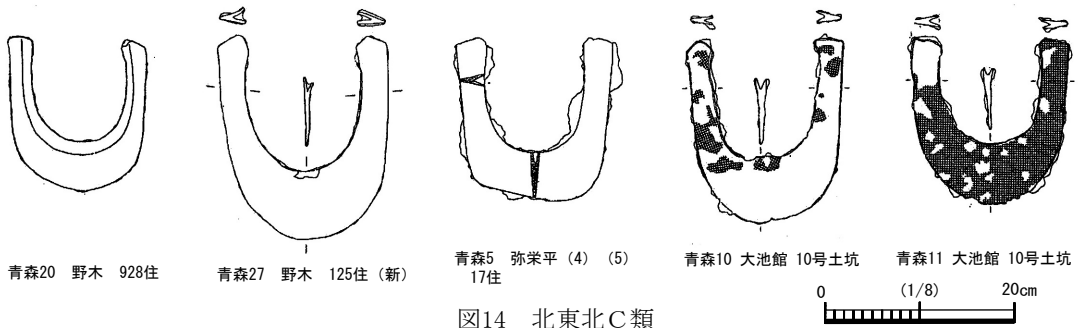


図14 北東北C類

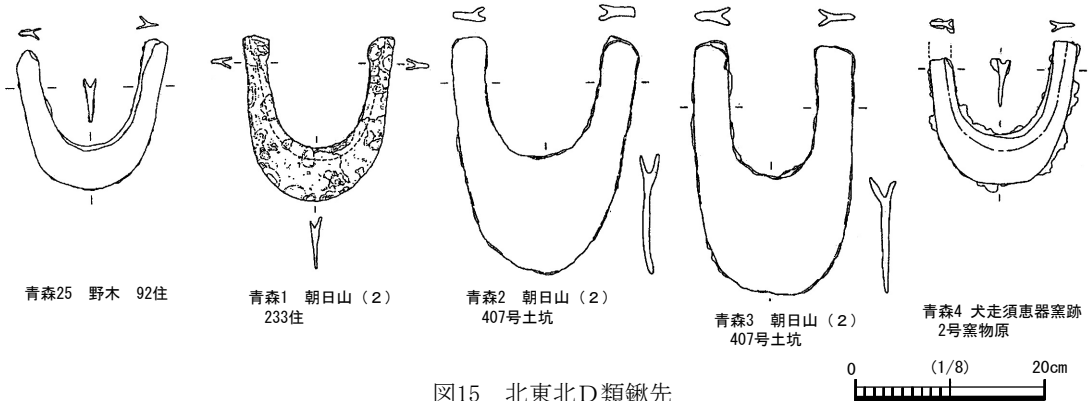


図15 北東北D類鍬先

頭に比定されるが、墓坑出土のものは、刃幅が異様に長く特殊である。

津軽地域でも、岩木川流域五所川原地域の山元(3)遺跡の9世紀末から10世紀初頭の住居内からの出土例(青森48)を嚆矢に、山元(1)遺跡の10世紀代竪穴住居出土(青森45)、深浦町葎野遺跡の10世紀代の竪穴住居出土(青森24)など北東北B類の出土が見られる。他に五所川原窯跡群犬走須恵器窯2号窯の物原から、10世紀初頭とされるD類が出土している。

上北北部では、六ヶ所村弥栄平(4)(5)遺跡の十世紀前半の住居からC類が出土している(青森5)。

八戸地域では、9世紀末から10世紀前半代に比定される八戸市櫛引遺跡住居出土(青森12)のように、北東北B類に近いものも現れる。

七戸周辺地域では、大地館遺跡の、10世紀中葉前後に比定され墓坑と考えられる土坑の覆土上層から4枚の鋏先が2枚ずつセットで布にくるまれ、重ねられて出土した。上二枚(青森8・9)は、北東北A類で、下二枚(青森10・11)は、風呂部えぐれの形状や耳の外傾度から北東北C類とみられる。同じ形式同士セットにしたのは、系譜の相違を意識したかのようなのである。

なお時期を厳密に比定できないが、宮古市細越I遺跡(岩手34)も北東北B類に分類できる。

以上の通り、9世紀末から10世紀中頃までの青森県地方の鋏先は、青森北部発祥の北東北B、C、D類と、岩手県発祥の北東北A類の4系統が交錯している。なお北東北B類のうち、風呂部輪郭線のなす角が緩やかな曲線を呈するもの(青森19)はC類との区別がつきにくいなど、分類には問題点もある。

10世紀前半から中葉の青森県におけるいずれの鋏先にも共通するのは、刃幅6cmを越えるものが多いことである。刃の摩耗、破損がない未使用品と見られる青森2・3・8～11と岩手14～18を比べると、前者の優位が明らかで、青森の鋏先は、鍛造の段階から岩手・秋田より長い刃をつけられていたといえる。

10世紀後半以降、北東北の鋏先は激減するとともに、北東北A～D類は見られなくなり、多様な鋏先が現れる。明確に大小の分化が見られ形状も新U字形に近い、古館遺跡(青森36・37)のような事例も現れる。しかし、出土例が極めて少なく、形式分類や新U字形との関係に言及することは目下困難である。

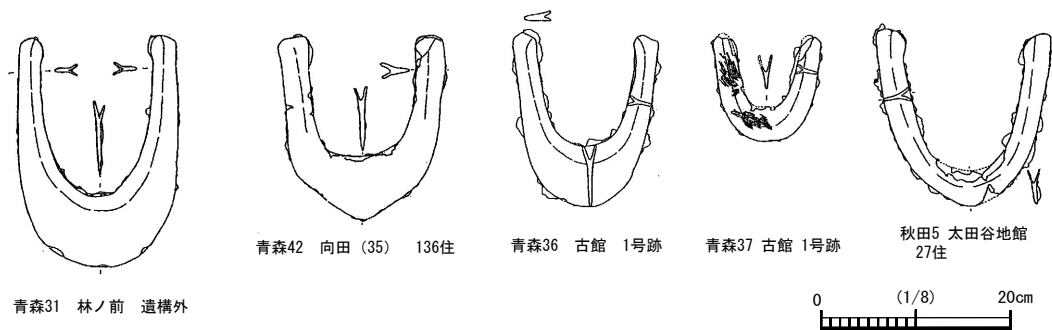
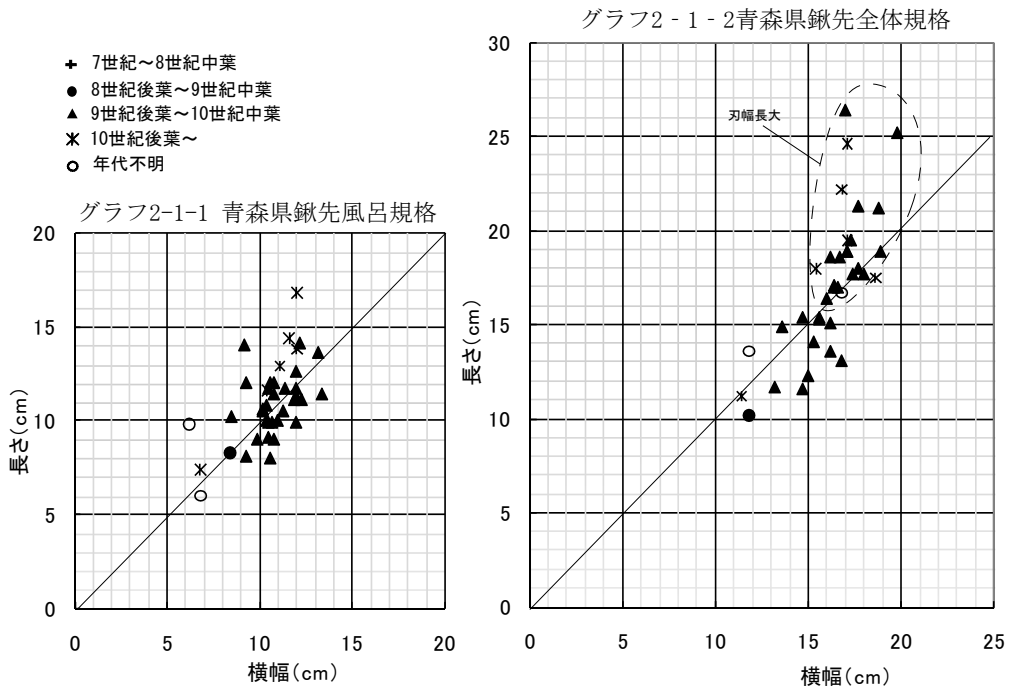


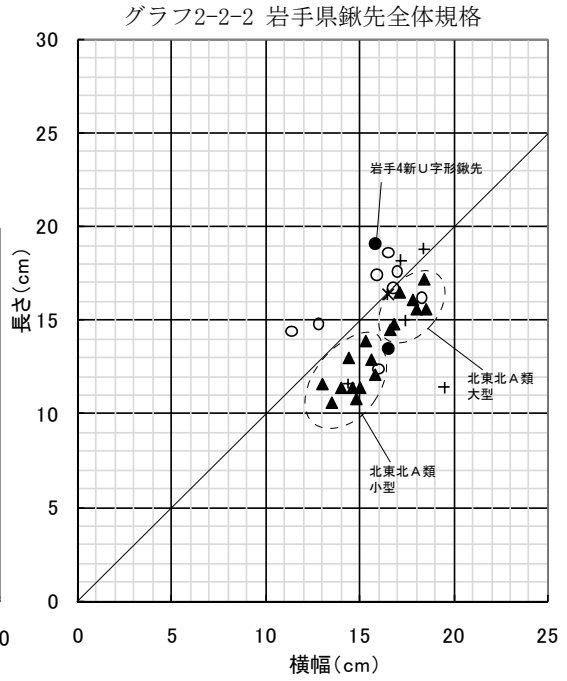
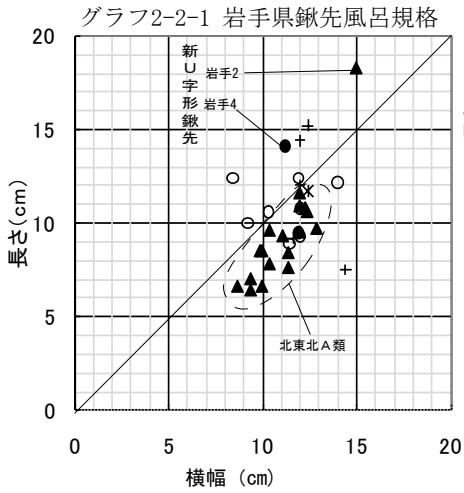
図16 10世紀後半～12世紀の北東北における鋏先

③小結

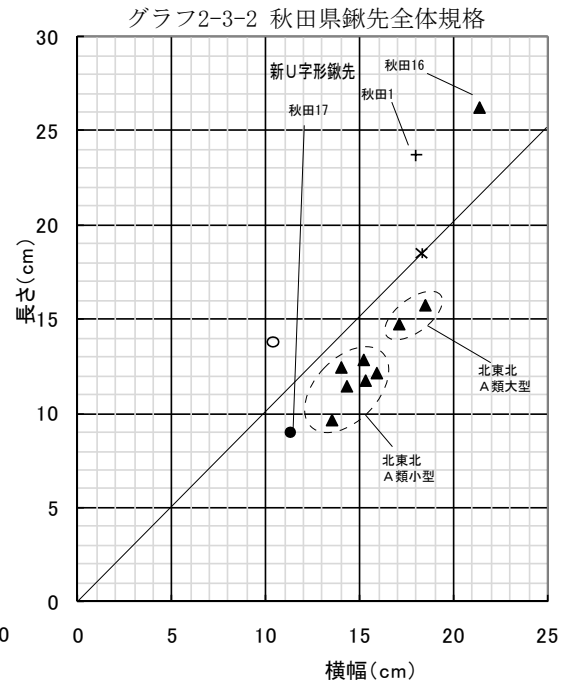
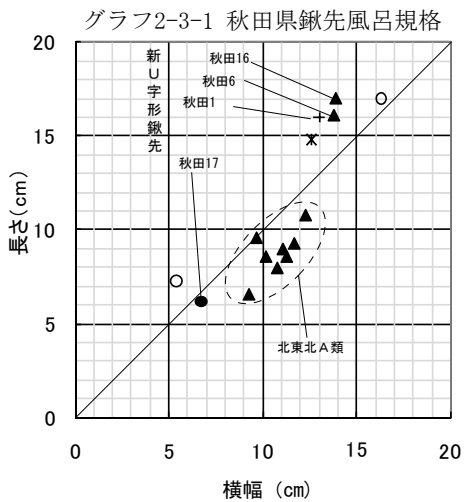
以上、7世紀後半以降南東北・関東と北東北では、全く異なる鋤先の系譜が展開した。前者では7世紀後半を境に、全ての鋤先が、「縦長」U字形を呈し大型と小型に分化する新U字形鋤先へと統一され、11世紀、鋤先出土が見られなくなるまで続いた。後者では7世紀末から8世紀前半、新U字形鋤先とは異なる独自の形状の鋤先が作られ、8世紀後半から9世紀、比較的南方で国家の蝦夷経略が直接及んだ地域に新U字形鋤先が入るも、10世紀初頭までに姿を消した。9世紀後葉から末期、秋田・岩手の北東北A類と青森の北東北B・C・D類という独自の鋤先系譜が展開したが、10世紀半ばには一挙に衰退し、以後やはり新U字形鋤先とは異なる多様な鋤先が11世紀にかけて用いられた。北東北の鋤先には、截然たる大小の区別は見られなかった。

大小の新U字形鋤先に機能差があることは、近世農書に、大型は一挙に浅く耕すのに適しているのに対し、小型は地面に深く突き刺さり深耕碎土に有効であると述べられる通りである（山口1978）^{viii}。したがって大小の鋤先の分化が小さい北東北では、鋤先の機能分化、ひいては農耕形態も、南東北以南と異なっていたことが示唆される。





- + 7世紀～8世紀中葉
- 8世紀後葉～9世紀中葉
- ▲ 9世紀後葉～10世紀中葉
- × 10世紀後葉～
- 年代不明



古代における鉄製鍬先の研究

表1 青森県出土鍬先編年 (1/20)




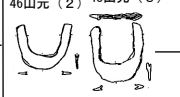

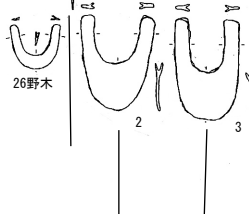



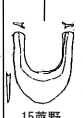





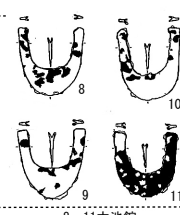
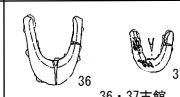

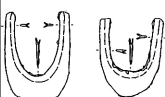

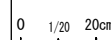
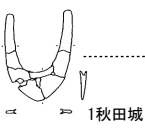



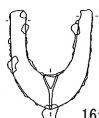











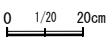
		津軽地域	青森平野	八戸周辺	七戸周辺	野辺地・六ヶ所
7世紀						
8世紀	前半					
	後半					
9世紀	前半					
	後半		20・23・25野木 	 35ふくべ(3) 7岩ノ沢平		
10世紀	前葉	4犬走窯址  46山元(2) 48山元(3) 	1~3朝日山(2)  26野木 	 12 櫛引 6岩ノ沢平 		5弥栄平 
	中葉	15籠野  47山元(2) 			8  10  9  11 	
	後葉				8~11大池館 	
	11世紀		 36 37 36・37古館	 40宮田館	 31 32 31・32林ノ前	
不明		 17高屋敷館				0 1/20 20cm 

表2 岩手県（ほか）出土鉄先編年（1/20）

	北上・水沢地域	盛岡周辺	二戸地域	宮古地域	その他
7世紀		37本宮熊堂B			
8世紀	前半 13五条丸51号墳	5稲村II	29 29・30馬場		
	後半				
9世紀	前半	4稲村			
	後半 2胆沢城	20台太郎 28野古A 36本宮熊堂B 21 21・22台太郎 22 35本宮熊堂B	26長瀬C		
10世紀	前葉		31府金橋	14 15 17 18	宮城15 柳津館山館
	中葉		1飛鳥台地I 7大向上平	16	
	後葉				
11世紀				34細越I 32房ノ沢IV	岩手11源道
不明	12鴻ノ巣館 3石田	25百目木	6江刺家 27中管根II		0 1/20 20cm

古代における鉄製鍬先の研究

表3 秋田県出土鍬先編年 (1/20)

	横手周辺	秋田平野～八郎潟	大館周辺	鹿角周辺
7世紀				
8世紀	前半			
	後半	 <p>1秋田城</p>		
9世紀	前半	 <p>17払田柵</p>	 <p>7開防D</p>	
	後半	 <p>6大見内</p>	 <p>16法泉坊沢Ⅱ</p>	
10世紀	前葉	 <p>3上野</p>	 <p>18湯ノ沢F</p>	 <p>12</p>
	中葉			 <p>11・12釈迦内中台Ⅰ</p>
	後葉			 <p>14</p>  <p>13</p>  <p>8</p>  <p>9</p> <p>13・14中の崎 8・9壺忍沢</p>
11世紀				 <p>5太田谷地館</p>
不明		 <p>15中谷地</p>	 <p>10地藏岱</p>	

第4章 鉄先出土遺跡の属性

鉄先と出土遺跡の関係を見る研究は、出土率から普及率、所有状況を考察するものが主流だが、鉄先は出土数が少なく統計的処理が困難であるとともに（野崎 1988）、貴重品であって（高橋一夫 1976）、長期に亘って使用された上、破損後原料鋼として再利用された可能性も想定でき、その場合殆どの鉄先は遺物として残らない。しかし出土した鉄先は、その遺跡で製作・流通・使用・保管・投棄のいずれかの過程にあったことは確かである。本稿では鉄先出土遺跡を網羅的、統計的に概観し、鉄先が出土する場所の性格や傾向を考え、鉄先の生産、流通、消費をめぐる社会的条件を考察する。なお扱う範囲は前章で判明した7世紀後半から12世紀にかけての時期に限定し、7世紀中葉以前の出土例については対象外とする。

①南東北および関東地方（図17・18参照）

宮城県……多賀城（宮城9・10）や新田柵推定地（宮城11）、多賀城周辺の集落、郷楽遺跡（宮城4）や鴻ノ巣遺跡（宮城3）から出土している。南小泉遺跡も（宮城12～14）、国分寺や初期陸奥国府と関係の深い郡山遺跡に近接する。沢田山西遺跡（宮城5）は桃生城から2キロに位置する。10世紀前半の北東北A類を出土した柳津館山館遺跡（宮城15）も、桃生城から北上川を5キロほど離れた位地にあるが、出土鉄先の年代が桃生城の存続期間に一致しない。清水遺跡は（宮城6～8）官衙や寺院から離れて存在する大集落であるが、円面硯が出土し、地域行政の中心と考えられている（宮城県教育委員会 1981）。

山形県……浮橋（山形1）、上高田（山形2）、沼田（山形10）、宮の下遺跡（山形11）など9世紀以降の出羽国府、柵輪城周辺に大型新U字形鉄先装着用だいの出土が集中する。これらの集落は柵輪城造営前後に発生し、国衙との深い関連が想定され（山形県教育委員会 1984）、大量の木製品を出した上高田、宮の下遺跡は木工生産への関与も想定される（山形県埋蔵文化財センター 1996）。一帯の東側には8世紀後半～9世紀の窯業地帯が展開する。同じく木製柄と、木簡や円面硯、炭化米6俵を出した笹原遺跡（山形3）は置賜郡広瀬郷衙の最上川船着場と考えられ（米沢市教育委員会 1981）、鉄先を出土した三条遺跡（山形4）は古代最上郡の中心地と見られている（山形県埋蔵文化財センター 2001）。

福島県……推定白川郡衙（関和久遺跡）に隣接する上宮崎A遺跡の8世紀後半の住居（福島5）、やや南に離れた滝原前山C遺跡の、7世紀第三四半期の住居址から出土している（福島9・10）。鍛冶屋遺跡は（福島4）、9世紀代中心の拠点集落で、「主家」や「厨」などの墨書土器、灰釉陶器を出し、郷家的遺跡とされる（福島県教育委員会 2001）。郡山市弥明遺跡も、古墳期から奈良期の遺跡が集中し、郡山盆地の中心地域である（福島13）（福島県教育委員会 1992）。

大型鉄先用木製だいが出土したいわき市大猿田遺跡（福島3）は、木簡から推定磐城郡衙の根岸遺跡に属する官の木製品工房と判明している（飯塚 2000）。関林D遺跡（福島8）は、白川、岩瀬

図17-0 南東北鋤先出土遺跡分布図

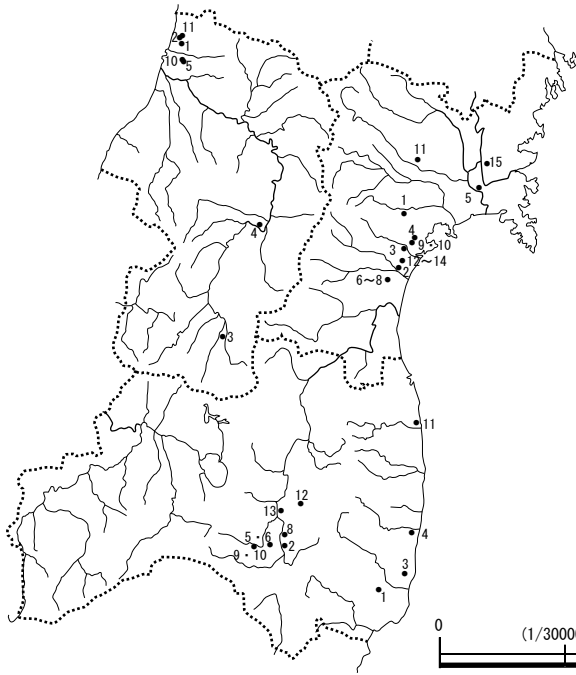
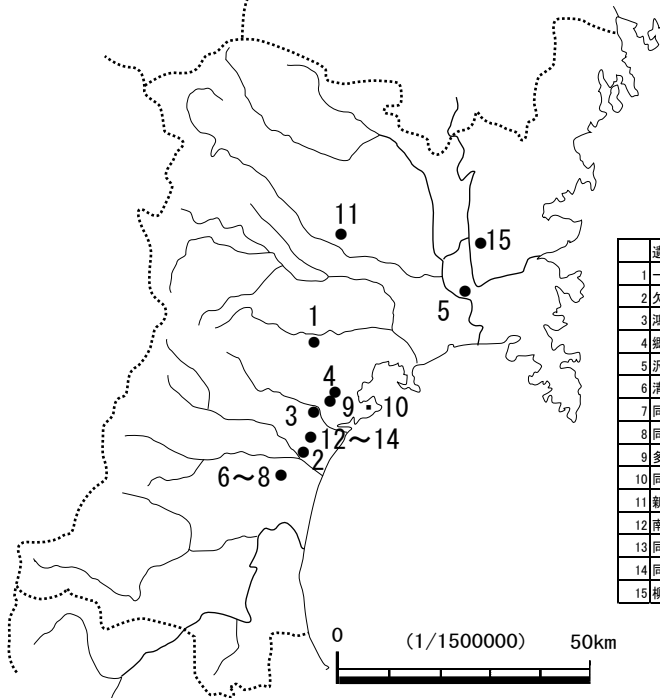


図17-18凡例

- ①国衙・城柵・国分寺、郡衙・郡寺・郡衙出先機関
その周辺集落、郷の中心集落からの出土例
- ②大規模手工業生産地帯からの出土例
イ、その工場で生産された鋤先、柄の出土例
ロ、工房での作業や工房関係者の生活に使われた鋤先の出土例
○、イ・ロ、いずれとも決め難い場合
- ③丘陵地開発を行う集落からの出土例

- | | |
|----------|--------------|
| 状態 | 形式 |
| ○完形 | 新U大:新U字形鋤先大型 |
| △一部破損 | 新U小:新U字形鋤先小型 |
| ×破片 | 凹特:凹字形鉄板 |
| 年代 | A:北東北A類 |
| 01:第一四半期 | 凹字:松井B類 |
| 02:第二四半期 | |
| 03:第三四半期 | |
| 04:第四四半期 | |

図17-1 宮城県鋤先出土遺跡分布図

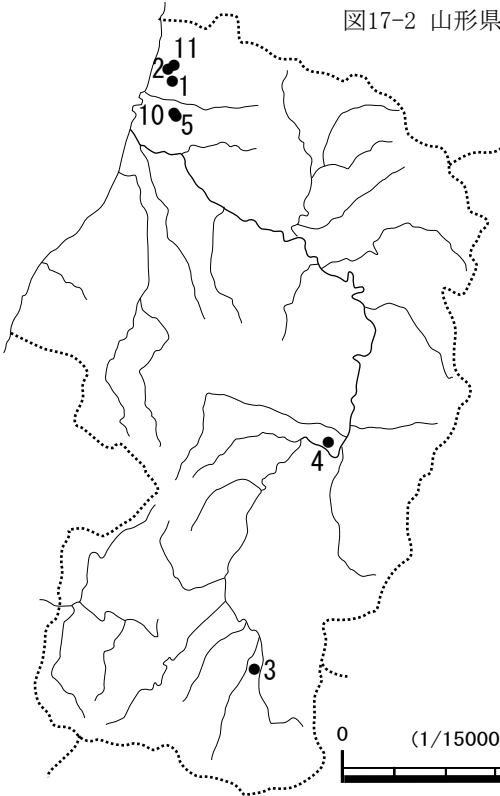


宮城県鋤先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 一里塚遺跡	○	A?	不明	○		
2 次ノ上Ⅱ遺跡	△	凹字	7C末~8C初	○		
3 鴻ノ巣遺跡	○	凹特	8C後~9C	○		
4 郷楽遺跡	○	新U大	9C前~後	○		
5 沢田山西遺跡	△	新U大	9C	○		
6 清水遺跡	○	新U小	平安	○		
7 同上	○	新U大?	平安	○		
8 同上	△	新U小	不明	○		
9 多賀城跡	△	新U大	不明	○		
10 同上	○	新U小	9C前葉	○		
11 新田柵跡推定地	△	新U大	8C?	○		
12 南小泉遺跡	×	新U大	10C前後	○		
13 同上	×	※	10C前後	○		
14 同上	×	※	不明	○		
15 柳津館山館跡	○	A	10C前半	○		

0

図17-2 山形県鉄先出土遺跡分布図



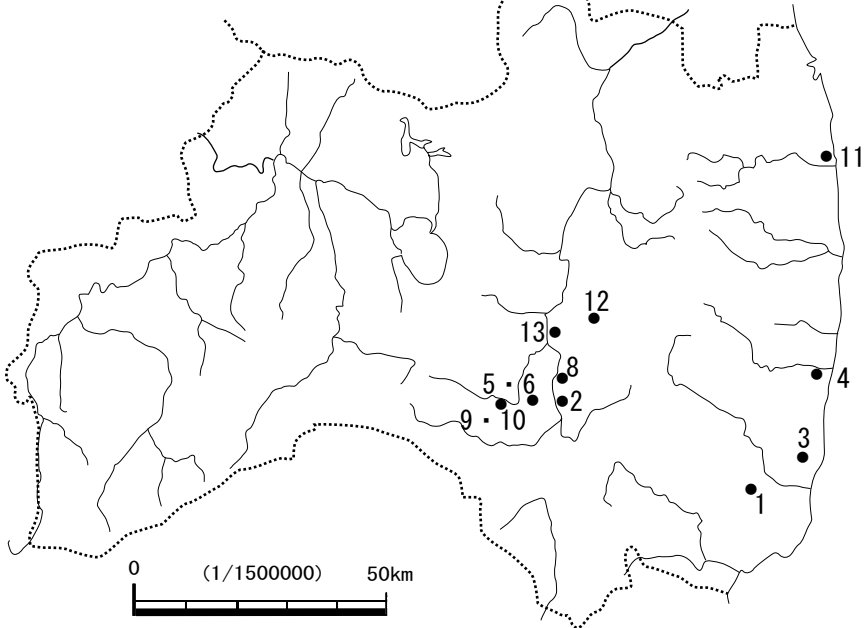
山形県鉄先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 浮橋遺跡	△	新U大	10C前半	○		
2 上高田遺跡	△	新U大	10C01	○	イ?	
3 笹原遺跡	○	新U大	8C中～9C後	○		
4 三条遺跡	△	新U大	古代～中世	○		
5 蔵田遺跡	○	新U大	8C末葉	○		
10 沼田遺跡	○	新U大	9C後半	○		
11 宮の下遺跡	○	不明	9C後半以前	○	イ?	

福島県鉄先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 石坂遺跡	△	新U小	平安～中世			
2 江平遺跡	○	新U大	8C中葉	○		
3 大猿田遺跡	○	新U大	8C中葉		イ	
4 鍛冶屋遺跡	×	新U大	9C後半	○		
5 上宮崎A遺跡	○	新U大	8C後半	○		
8 開林D遺跡	○	新U大	9C後半	○	○	
9 滝原前山C遺跡	○	(古)新U大	7C03	○		
10 同上	○	(古)新U大	7C03	○		
11 島打沢A遺跡	○	新U大	8C前半	○	□	○
12 深作B遺跡	○	新U大	9C前～中葉			○
13 芥明遺跡	○	(古)新U大	7C後～8C	○		

図17-3 福島県鉄先出土遺跡分布図



郡境に位置する郡の出先機関とも推定され福島県中通りを代表する須恵器窯のそばにあり、9世紀後半には柱穴の深さが1mを超える掘立柱建物や、鍛造鍛冶工房を擁しており、通常の集落とは異なっている（福島県教育委員会 1999）。8世紀前半の炭焼窯作業床面より鋏先が出土した鳥打沢A遺跡（福島 11）は、金沢地区の奈良・平安期の製鉄遺跡の一つで製鉄用の木炭も製造し、鋏先の著しい損耗は炭焼関連作業への使用のためと考えられる。5キロ南には同期の京塚沢須恵器窯、4キロ西に植松廃寺、1キロ南に行方郡衙の可能性のある和泉廃寺があり、郡衙付近丘陵上の手工業センターといえる（福島県教育委員会 1994）。

他に、それまで遺跡のなかった小丘陵の裾に9世紀以降営まれた深作B遺跡は（福島 12）、丘陵地開発にあたった小集落といえる（三春町教育委員会 1995）。

栃木県……下野国分寺跡の溝内の（栃木 5・6）ほか、那須官衙正倉院そばの竪穴住居からも出土している（栃木 10）。平安期の住居から一例（栃木 13）出土した向原南遺跡は、推定河内郡衙（多功南原遺跡）の2キロ北方、古代寺院上神主廃寺の1キロ南方に位置し、瓦で竈を造る住居もあって寺院との関係が深かった（日本窯業史研究所 1995）。宮の内B遺跡は（栃木 12）上神主廃寺の北方4キロに、砂田遺跡は（栃木 7）多功南原遺跡の5キロ北西に所在する。井頭遺跡（栃木 1）は、推定芳賀郡衙（塔法田遺跡）や郡寺大内廃寺から3キロの地に、9世紀後半の鋏先（栃木 15）を出土した免の台遺跡も、塔法田遺跡の7.5キロ北方に位置する。

9世紀代の2点（栃木 2・3）が出土した小山市金山遺跡は、9世紀中～後葉の鉄精錬・鉄器鍛造工房で、1キロ南方には同時期の製鉄工房の大境遺跡が、8キロ南方には9世紀中頃操業の浜ノ台窯跡がある。9世紀中葉以後この一帯に工人が集められ手工業地帯が形成されたのである（栃木県教育委員会 1996）。その背後には、下野一国規模の流通を統制する、国衙や富豪層等の勢力の存在が考えられる。

群馬県……国分僧寺・尼寺中間地域の住居址より、10世紀代（群馬 6）、11世紀代（群馬 5）の鋏先が出土し、西三社免遺跡（群馬 15）は国分寺より約1キロ西方にある。国分寺周辺・国衙推定域から約7キロ西方の下芝五反田遺跡（群馬 7）は、推定東山道（国府ルート）、及び群馬郡衙別院の八木院と推定される大八木屋敷遺跡に近接する（群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999）。森下中田遺跡（群馬 30）も8～9世紀代の布目瓦や瓦塔を出土し、付近に郡衙の所在も想定される（昭和村教育委員会 1998）。太田市成塚住宅団地遺跡（群馬 13・14）は、1キロ西方に推定新田駅家の七堂遺跡、入谷遺跡が、0.8キロ西方に寺井廃寺があり、地域行政の要衝であった（太田市教育委員会 1992）。渋川市半田中原・南原遺跡（群馬 17）は、掘立柱建物の集中などの官衙的様相や、隣接する溝に囲まれた無遺構地帯から、有馬島牧の可能性が指摘されている（渋川市教育委員会 1994）。高崎市高浜広神遺跡（群馬 9）は東南東3キロのところろに里見廃寺があり、沼田市町田十二原遺跡（群馬 21）は、墨書土器から「宮田寺」と称する村落内寺院が付近に所在する（沼田市教育委員会 1993）。

9世紀、10世紀前半代の鋏先を各々出土した、太田市東今泉鹿島遺跡（群馬 18）、二の宮遺跡（群

馬 16) は、周辺に奈良・平安期の大集落が展開し、古代山田郡衙の所在が推定され、古東山道も付近を通過する(群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007)。また 8 世紀代の製鉄遺跡、峰山遺跡や、その周辺の菅ノ沢・強戸口須恵器窯跡など、古代上野の手工業センターに隣接する。手工業関連遺跡からの出土例は他に、奈良期操業の月夜野古窯跡付近で、創業期と同時期の鋏先を出した大集落、村主遺跡(群馬 8)がある(群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986)。

茨城県……つくば市中原遺跡は(茨城 13)掘で区画された掘立柱建物群や鍛冶遺構、多数の灰釉・緑釉陶器や帯金具が出土した。また推定河内郡衙の西坪遺跡や推定河内郡寺の九重廃寺跡に隣接し、河内郡の中核である(茨城県教育財団 2001)。上野陣馬遺跡は(茨城 1・2) 2 キロ北方に所在する。水戸市二の沢 B 遺跡は(茨城 14) 付近に古代那珂郡郡寺とされる大渡廃寺跡があり、那珂郡の中心とされる(茨城県教育財団 2003)。大塚遺跡(茨城 3)や、宮後遺跡(茨城 16、17)は地域の拠点集落、桜町遺跡群に位置する。大塚遺跡は、平安期の行政中核と見られるコの字形掘立柱建物列を擁し、円面硯や「曹カ司」(庁舎の意)などと書かれた多量の墨書土器が出土した奥谷遺跡とも近接することから、官衙関連集落と考えられる(茨城県教育財団 2005)。宮後遺跡も平安期に灰釉陶器や円面硯多数と緑釉陶器が出土している。鹿島市内 No.82 遺跡は(茨城 4・5) 推定鹿島郡衙、神野向遺跡の 3 キロ北方にあり、柵列に囲まれた掘立柱建物を有し通常の集落とは異なる(鹿嶋市教育委員会 1998)。つくば市島名熊の山遺跡(茨城 9～11)は河内郡島名郷に比定され、L 字形掘立柱建物列が郷の中核施設と考えられる。なお 9 世紀以降鍛冶址や多数の鉄製紡錘車が出土し、鍛造鍛冶や繊維生産など手工業関連の中心的集落へと転じた(茨城県教育財団 2007)。

鹿の子 C 遺跡(茨木 6～8)は、8 世紀後半から 9 世紀、主に兵器製造等鍛造鍛冶にあたった国衙附属の大工房であった。鋏先が同工房の製品かは不明だが、いずれも破片や使い込まれたものなので、工房で使用されたか他から回収されたものと思われる。

埼玉県……熊野遺跡(埼玉 5)は榛沢郡衙正倉院の中宿遺跡に隣接する。この北西、将監塚・古井戸遺跡(埼玉 6・7)も地域の中心で、「厨」「大家」などの墨書土器が出土する。東松山市西浦遺跡周辺(埼玉 16)は円面硯や帯金具が出土し官衙との関連が想定され、付近に古代寺院勝呂廃寺がある(埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997)。若葉台遺跡群(埼玉 26)も同寺に近い。吉野原遺跡(埼玉 25)、氷川神社東遺跡(埼玉 22)は足立郡の中心、式内氷川神社に近く、特に後者は神社に隣接し、その鋏先出土住居はベッド状遺構や仏像埋納坑を有し、床面から灯明皿多数が出土して、宗教施設の様相を呈する(大宮市遺跡調査会 1993)。

なお先述の熊野遺跡付近は、9 世紀以降、宮西・西浦北・中宿・菅原遺跡など小型堅型炉を用いた製鉄遺跡が集中するほか、西側丘陵上に古墳後期から平安期の須恵器の生産拠点、末野窯跡群があり、製鉄・窯業中心の北武蔵の手工業センターであった。製鉄地帯北端の将監塚・古井戸遺跡でも、9 世紀頃から鉄器が急速に普及し、住居址の四割から鉄製品が出土する。製鉄遺跡の一つ、中堀遺跡では、10 世紀第三四半期の堅穴住居(図 2)の竈の左脇から 5 枚の完形大型鋏先が、鎌、馬具、鉗、金槌等と重なって出土した(埼玉 10～14)(図 3)。同遺跡は 7 世紀後葉以来遺跡がなか

った地域に、9世紀突如出現し10世紀末まで営まれ、付近の勅使河原という地名などから、9世紀前半武蔵国におかれた勅旨田に関わる集落の可能性が考えられている。遺跡は鉄・銅・漆加工・紡績など職能ごとの工房区画や寺院関係の区画を擁する多角的総合的経営体で、交易で入手した灰釉陶器や平安京的生活用具も多数出土する(田中1997)。大量に出土した鉄滓は製錬・精錬に伴うものと確認され、付近の砂鉄を始発原料に、製鉄～鍛造の全行程を本遺跡で行ったと想定される。鋏先出土住居は、鉄加工関係区画に属し屋外に鍛冶炉七基、住居床面に鍛冶道具の鉗、金槌が確認されたことから、鍛造鍛冶の工房関連施設と考えられる。

元荒川流域でも9世紀後半、製鉄が始まり¹⁸、台耕地(Ⅱ)遺跡(埼玉8、9)もその一つである。

手工業生産遺跡からの出土例として他に、鳩山窯跡群の工人住居からの出土がある(埼玉19・20)。大型で刃先が摩耗し、粘土採掘に酷使された痕跡とみられる。

東京都……国分寺や国府、その周辺の出土が多い(東京8・15～19)。落川遺跡(東京2～4)は、国府の対岸、多摩中流域の低地に古墳前期から12世紀まで続く拠点集落で、No.16遺跡(東京12)もこれに隣接する。中里峽上遺跡(東京9)、赤羽台遺跡(東京1)は豊島郡衙に接する。

多摩川を挟んで国府の対岸に位置する多摩丘陵からの出土例が目立つ。国分寺の瓦生産を機に窯業地帯となった南多摩窯跡(東京14)では鋏先装着用木製だいが、粘土採掘坑に突き刺さった状態で出土し、鋏先装着クワの粘土採掘への使用を示唆する。船田遺跡(東京13)、風間遺跡群(神奈川16)も近接する。他に多摩ニュータウンNo.325遺跡(東京5)やNo.362・363遺跡(東京6)、鶴川遺跡群(東京7)など、丘陵上の1～3軒程度の小集落からも出土が見られる。

千葉県……官衙官寺自体からの出土例は少ないが、佐倉市高岡大山遺跡(千葉10)は、コの字形掘立柱建物列や倉庫ブロックから官衙的性格が想定される(印旛郡市文化財センター1993)。

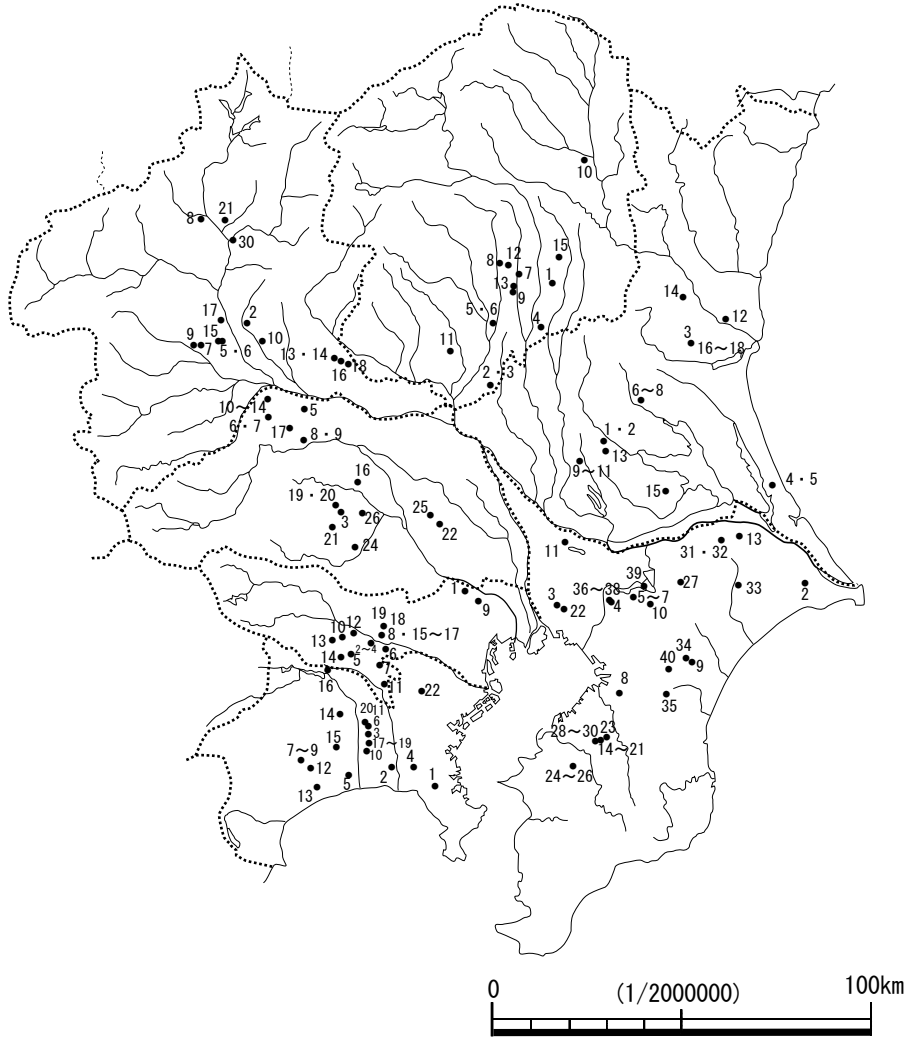
一方丘陵上に営まれた郷クラスの拠点集落や工房関連集落からの出土が目立つ。下総では、村上込の内(千葉36～38)、上の台遺跡(千葉4)は印旛郡村神郷の中心的大集落の一部で、小鍛冶工房を有し、鉄器・鉄滓・墨書土器多数、官との関係を示す石帯も出土した。佐倉市江原台遺跡・江原台第一遺跡も(千葉5～7)、墨書土器や鉄製品多数、灰釉陶器が出土する拠点集落であった。香取市古屋敷遺跡(千葉31・32)も、墨書土器や鉄器多数、灰釉・緑釉陶器を出土し、「山幡」墨書土器から山幡郷の中心とされる。東和田遺跡(千葉27)は川栗郷の中心で、周辺には、古代寺院と想定される吉倉大久保・吉倉白ヶ峰遺跡の他、野毛平遺跡や取香川上流の取香・御幸畑遺跡などの製鉄遺跡が集中する(印旛郡市文化財センター1999)。夏見大塚遺跡(千葉22)、印内遺跡(千葉3)は、葛飾郡栗原郷の奈良・平安期の大集落の一部で、印内遺跡出土の平安期の漆紙文書は、行政との関連を示唆する。

他に古代神社に関連した例として、香取神宮に隣接する長部山遺跡がある(千葉13)。

上総では、菊間廃寺や瓦窯に近接する市原市菊間遺跡(千葉8)は、住居竈材に瓦が用いられるなど寺院との関連が深い(千葉県都市公社1974)。

古代山辺郡域の丘陵上集落から出土が集中する。山田水呑遺跡(千葉40)は山口郷の中心とな

図18-0 関東地方鉄先出土遺跡分布図



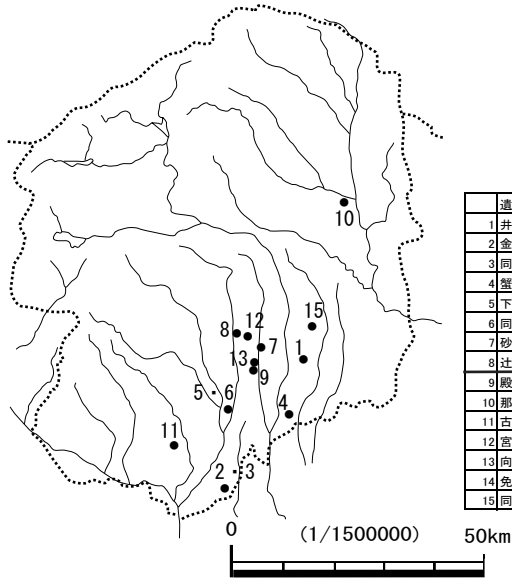


図18-1 栃木県鋳先出土遺跡分布図

栃木県鋳先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 井頭遺跡	○	新U小	奈良～平安	○		
2 金山遺跡	×	新U大	9C		□	
3 同上	△	新U小	9C中		□	
4 蟹が入遺跡	×	大	平安	○		
5 下野園分寺跡	○	新U大	9C後	○		
6 同上	○	新U小	9C後	○		
7 砂田遺跡	×	新U大	8C後	○		
8 社の内遺跡	○	新U大	8C後	○		
9 殿山遺跡	○	(古)新U小	7C代			
10 那須官衙関連	○	(古)新U大	7C末～8C前	○		
11 古橋I遺跡	○	新U小	9C後	○		
12 宮の内B遺跡	○	新U小	平安	○		
13 向原南遺跡	○	新U大	平安	○		
14 兔の内台遺跡	○	凹字	古墳後期			
15 同上	○	新U小	9C後	○		

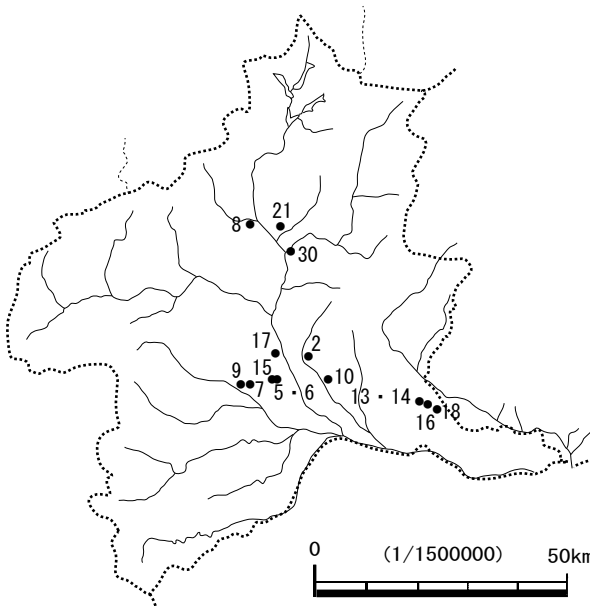
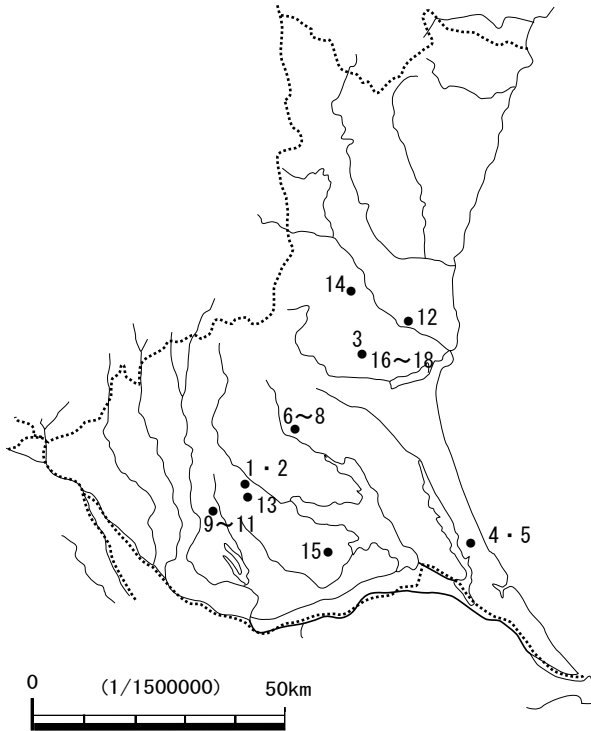


図18-2 群馬県鋳先出土遺跡分布図

群馬県鋳先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
2 上百駄山遺跡	○	新U大	平安	○		
5 園分僧・尼寺中間	○	新U大	11C前半			
6 同上	△	新U大	10C	○		
7 下芝五反田遺跡	○	新U大	不明			
8 村主遺跡	○	(古)新U大	7C末～8C前		□	
9 高浜広神遺跡	○	新U小	10C前	○		
10 富田下大日遺跡	○	新U大	9C中	○		
13 成塚住宅団地	○	新U大	不明	○		
14 同上	○	新U大	9C後半	○		
15 西三社免遺跡	○	新U大	9C04	○		
16 二の宮遺跡	○	新U小	10C前半	○	□	
17 半田中原・南原	×	大	奈良	○		○
18 東今泉鹿島遺跡	○	新U小	9C中	○	□	?
21 町田十二原遺跡	○	新U大?	平安?	○		
22 堀・下原遺跡	×	※	不明			
30 森下中田遺跡	○	新U大	8C	○		

図18-3 茨城県鍬先出土遺跡分布図



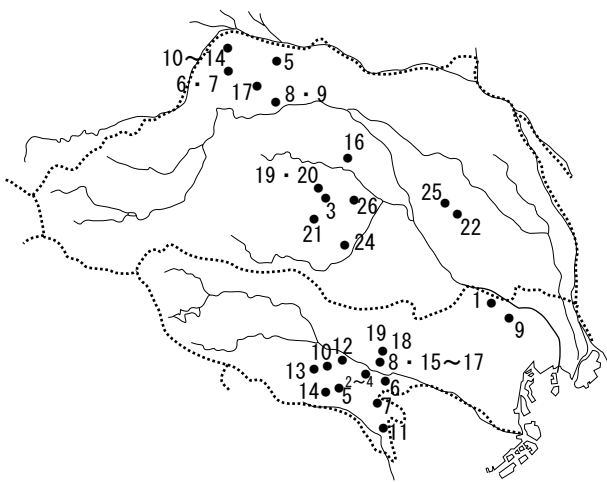
茨城県鍬先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 上野陣場遺跡	△	新U小	9C中～後葉	○		
2 同上	×	新U小	9C中～後葉	○		
3 大塚遺跡	×	大	9C前			
4 鹿島市内No.82	○	新U小	8C前半	○		
5 同上	×	新U大	8C前半	○		
6 鹿の子C遺跡	×	新U大	8C後～	○	□?	
7 同上	×	新U小	8C後～	○	□?	
8 同上	△	新U大	8C後～	○	□?	
9 島名熊の山遺跡	○	新U大	8C中	○		
10 同上	×	※	9C後	○	□?	
11 同上	△	新U小	9C後	○	□?	
12 武田西場遺跡	○	新U小	平安			
13 中原遺跡	○	新U大	9C前葉	○		
14 二の沢B遺跡	○	新U小	9～10C	○		
15 原畑遺跡	○	新U大	9C～10C中			
16 宮後遺跡	×	(古)新U大	8C前葉	○		
17 同上	○	新U大	8C後	○		
18 同上	×	小?	不明	○		

埼玉県鍬先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
3 稲荷前遺跡	△	新U小	不明			
5 熊野遺跡B区	○	新U小	9C後半	○		
6 得笠塚・古井戸	×	新U大	9C02	○		
7 同上	×	壑?	8C末～9C01			
8 台耕地(Ⅱ)遺跡	○	新U小	10C01	○	□	
9 同上	×	新U小	10C01	○	□	
10 中堀遺跡	○	新U大	10C03	○	イ	
11 同上	○	新U大	10C03	○	イ	
12 同上	○	新U大	10C03	○	イ	
13 同上	○	新U大	10C03	○	イ	
14 同上	○	新U大	10C03	○	イ	
16 西浦遺跡	△	新U小	不明	○		
17 沼下遺跡	△	新U小	9C末～10C初	○		
19 鳩山窯跡群	△	新U大	8C03		□	○
20 同上	△	新U大	8C末～9C前		□	○
21 伴六遺跡	○	新U小	10C前		□	
22 水川神社東遺跡	○	新U大	9C中～後	○		
24 宮ノ越遺跡	△	新U小	平安?		□	
25 吉野原遺跡	○	新U小	10C後	○		
26 若葉台遺跡群	○		10C～	○		

図18-4 埼玉県・東京都鍬先出土遺跡分布図

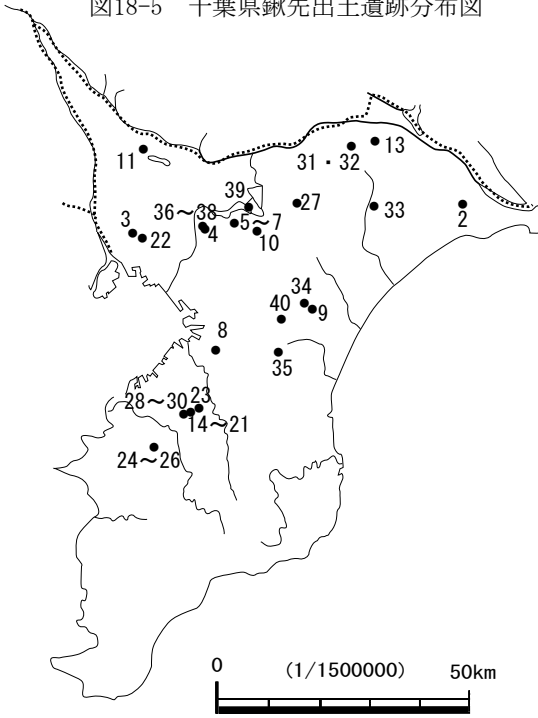


東京都鍬先出土遺跡一覧

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 赤羽台遺跡	×	新U大	平安	○		
2 落川遺跡	×	新U大	10C04	○		
3 同上	×	新U小	9C04	○		
4 同上	○	新U大	12C前半	○		
5 TN.No.325遺跡	○	新U大	10C後			○
6 TN.No.362/363	△	(古)新U大	8C前			○
7 鶴川遺跡群K地点	○	新U小	9～10C			○
8 都府府中美好町	△	特?	平安	○		
9 中里峠上遺跡	△	新U小	10C半	○		
10 中田遺跡	×	大	8C前			
11 なすな原遺跡	△	新U小	10C01			○
12 No.16遺跡	△	新U小	古代～中世	○		○
13 船田遺跡	○	新U小	平安			○
14 南多摩窯跡群	○	新U大	9～10C		□	○
15 美好町一丁目	×	新U大	不明	○		
16 武蔵国府間遺	○	新U大	9C後～10C前	○		
17 同上	△	新U大	9C前	○		
18 武蔵園分寺	△	新U小	10C?	○		
19 武蔵台遺跡	×	新U大	不明	○		

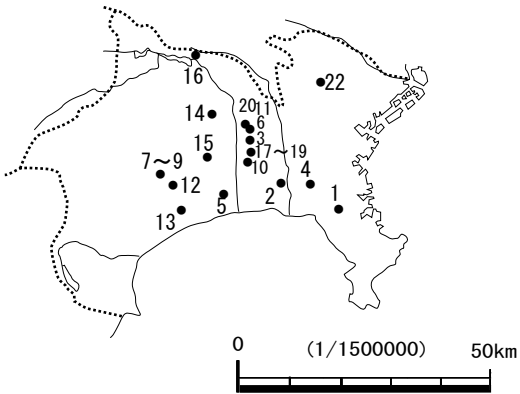
千葉県鋤先出土遺跡一覧

図18-5 千葉県鋤先出土遺跡分布図



遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
2 岩井安町遺跡	○	新U大	8C後	○		
3 印内遺跡第1地点	○	新U大	奈良末~平安	○		
4 上の台遺跡	○	凹特	8C中	○		
5 江原台遺跡	×	新U小	11C	○		
6 江原台第一遺跡	×	新U大	不明	○		
7 同上	○	新U大	8C末~9C	○		
8 菊間遺跡	○	新U大	8C後半~9C	○		
9 久我台遺跡	○	新U小	8C後半	○	□	○
10 高岡大山遺跡	×	新U大	平安前期	○		
11 中馬場遺跡	×	特	国分	○		
13 長部山遺跡	○	新U小	10C	○		
14 永吉台遠寺原	○	新U大	9C前	○	□	○
15 同上	×	※	10C中	○	□	○
16 同上	○	新U小	9C後	○	□	○
17 永吉台西寺原	×	新U小	9C中	○	□	○
18 同上	×	新U大	9C後	○	□	○
19 同上	×	新U小	10C後	○	□	○
20 同上	×	※	9C末~10C初	○	□	○
21 同上	×	新U大	10C前	○	□	○
22 夏見大塚遺跡	○	凹特	8C代	○		
23 萩ノ原遺跡	○	新U大	前	○	□	○
24 花山遺跡	×	※	8C		□	○
25 同上	○	新U大	8C		□	○
26 同上	×	※	8C		□	○
27 東和田遺跡	○	新U大	9C中	○		
28 文脇遺跡	×	新U大	8C	○	□	○
29 同上	○	新U大	9~10C	○	□	○
30 同上	×	新U大	同上	○	□	○
31 古屋敷遺跡	×	※	9C前~中	○		
32 同上	△	新U小	9C前~中	○		
33 南借当遺跡	△	新U大	不明	○		
34 南外輪戸遺跡	△	新U大	9C後半	○	□	○
35 南委台遺跡	○	新U大	8C中葉	○		
36 村上込の内遺跡	×	※	奈良末?	○	□	○
37 同上	×	※	奈良末?	○	□	○
38 同上	○	新U大	奈良末?	○	□	○
39 山田虎ノ作遺跡	×	新U小	平安			
40 山田水呑遺跡	×	※	8C前	○		

図18-6 神奈川県鋤先出土遺跡



神奈川県鋤先出土遺跡

遺跡名	状態	形式	年代	①	②	③
1 池子遺跡群	○	新U大	不明			○
2 池ノ辺遺跡	○	新U大	不明	○		
3 大谷向原遺跡	○	新U大	9C01	○		
4 笠間中央公園	○	新U小	8~9C		イ	○
5 橋之内遺跡	○	新U大	9C中~後	○		
6 上浜田遺跡	×	新U大	10C代	○		
7 草山遺跡	×	新U小	9C中	○		
8 同上	×	新U小	不明	○		
9 同上	×	新U小	不明	○		
10 倉見才戸遺跡	○	新U大	10C後	○		
11 国分尼寺関連	○	新U大	9C	○		
12 下大槻臺遺跡	×	新U大	9C初~9C02	○		
13 天神谷戸遺跡	○	新U小	8C前	○		
14 鳶尾遺跡	△	新U小	奈良~平安	○		
15 成瀬遺跡群	△	新U小	古代	○		
16 風間遺跡群	○	新U大	10C04		□	○
17 本郷遺跡	×	新U大	8C中~9C	○		
18 同上	○	新U小	不明	○		
19 同上	×	新U大	9C?	○		
20 望地遺跡	○	凹特	不明	○		
22 数根不動原遺跡	×	新U小	9C04~10C初	○		

る大集落で、大量の鉄滓が出土し、鉄関連生産が示唆される(山田遺跡調査会 1977)。久我台遺跡(千葉 9)は管屋郷中心の道庭遺跡に隣接し、大量の鍛錬鍛冶滓や大小輪片、少量の精錬滓の出土から、鉄器生産工場の可能性が指摘される(千葉県文化財センター 1988)。南外輪戸遺跡(千葉 34)は、1 キロ北に山辺郡印を出した滝台遺跡、1 キロ南に岡山郷中心の大集落、作畑遺跡が所在する。南麦台遺跡(千葉 35)は草野郷の中心集落、砂田中台遺跡に近接し、2 キロ北方には鍛造鍛冶工場の鐘つき堂遺跡や、粘土採掘場と窯跡を擁する坂ノ越遺跡など大工房センターを控える。

望陀郡域の丘陵上工房遺跡の出土も多い。萩ノ原遺跡(千葉 23)は、出土鉄先と同時期の奈良末～平安初期の製鉄・鍛造工房兼工人集落で、永吉台遺跡(千葉 14～21)も、9 世紀前半～11 世紀初めの土師器工房兼工人集落であり、文脇遺跡(千葉 28～30)もこれに隣接する。工房操業は、版築基壇や瓦塔を伴う川原井廃寺の造営に始まると考えられている(君津都市文化財センター 1985, 日本文化財研究所 1977)。木更津市花山遺跡(千葉 24～26)は付近の丘陵上に二重山、山ノ下製鉄遺跡や上名主ヶ谷瓦窯群が展開する。

神奈川県……武蔵国域では、風間遺跡群(神奈川 16)の他、藪根不動原遺跡は(神奈川 22)北西 3 キロに都築郡衙の長者原遺跡、北東 3 キロの神隠内山遺跡に 10 世紀前半の方形館がある。

相模国域では、海老名市の望地遺跡(神奈川 20)、大谷向原遺跡(神奈川 3)、本郷遺跡(神奈川 17～19)、寒川町倉見才戸遺跡(神奈川 10)など相模国分寺周辺集落からの出土が極めて多い。平塚市構之内遺跡(神奈川 5)国府推定地に接する。藤沢市池ノ辺遺跡(神奈川 2)は、金銅製帯金具や灰釉陶器多数を出土し官衙との関係が想定される(池ノ辺遺跡調査会 1980)。秦野市域では、7 世紀末～10 世紀半ばの集落、草山遺跡(神奈川 7～9)は、平安期の緑釉陶器を出土し、3 キロ南東の下大槻峯遺跡(神奈川 12)も東西の道状遺構や大溝を規準に、集落全体が区画される特殊な景観を呈し、これらが地域の中心的集落であった可能性は高い。

横浜市栄区と鎌倉市の境界の笠間中央公園遺跡は、精錬炉を有し、遺構外出土の小型鉄先(神奈川 4)と精錬炉の鉄滓の非金属成分の類似から、鉄先がここで精錬された鉄から製作されたと判明した。栄区内では精錬炉 18 基や砂鉄を伴う堅穴 1 基を擁する製鉄遺跡、上郷深田遺跡もあり、製錬・精錬・鍛造の一連の作業を行う鉄生産センターであった(横浜市ふるさと歴史財団 2003)。

以上より、鉄先出土遺跡に次の傾向が読み取れる。①国府・城柵・国分寺、郡衙・郡寺・郡衙出先機関、それらの周辺集落や郷の中心集落など、地域行政の結節点からの出土例が圧倒的に多い。②窯業や製鉄にかかわる大規模手工業生産地帯とその周辺からの出土も多く、イ)その遺跡で製造された鉄先や柄が出土する場合(確実なのは福島県大猿田遺跡、埼玉県中堀遺跡、神奈川県笠間中央公園遺跡の三例)。ロ)工房での作業や工房関係者の生活に使われた鉄先が出土する場合(福島県鳥打沢 A 遺跡、埼玉県鳩山窯跡群、東京都南多摩窯跡、ほか工房周辺集落からの出土例多数)、の二つに分けられる。③丘陵地開発にあたった村落からの出土例も多い(福島県深作 B 遺跡や多摩丘陵、房総の丘陵地集落)。①～③は、互いに重なる部分もあり截然と三分できるわけではない。

特に①や②の傾向は、鉄先の生産・流通に、国家や国家に結びつく地方勢力が関与したことを示

唆する。②のイ)は工房運営者の鋤先の製造自体への関与を、ロ)は運営者による設備投資としての工房、工人への鋤先給付を意味する。また③にも、耕地開拓や製鉄、窯業、木工等の工業開発を推進する官衙、富豪等の勢力の関与が想定される(飯塚 2000 ; 松崎 1990)。なお②イ)の確実な事例が三例と極めて少なく、殆どの鋤先出土遺跡は製鉄、鍛造、木工などの生産遺跡から離れている。これは鋤先の自給性の低さと同時に、鋤先の分配、流通圏の広さを示す。鋤先規格が広域かつ長期に亘り一定に保たれるのも、国家による規格統一の他、少数の生産地で作られた鋤先が広域に流通するこうした体制が関係すると思われる。

なお、工房や開発の運営主体の性格の時期的変遷は考慮せねばならない。7世紀後半から8世紀には、製鉄、鍛冶工房を設立し、雑徭等の動員体制を確立した国郡衙(浅香 1971)等律令制下地方行政機関が、鋼から鋤先を製造し、周辺集落や工房、開発の要地へと流通させたのであろう。しかし9世紀以降、金山遺跡や中堀遺跡をはじめ手工業や開発の新たな拠点が作られ、生産・流通体制が大きく変容した。かかる新体制の運営には、国郡衙と提携、対抗しつつ、律令地方支配体制の枠組みの外から台頭してきた新興私営田領主層の関与も想定できる(田中 2003)。特に8、9世紀官営工房による手工業生産が行われた多摩丘陵では、11世紀以降、独自に製鉄・鉄器を生産しつつ奥地へと開発を進め、小規模な土地経営を行った勢力の存在が論証されている(松崎 1990)。

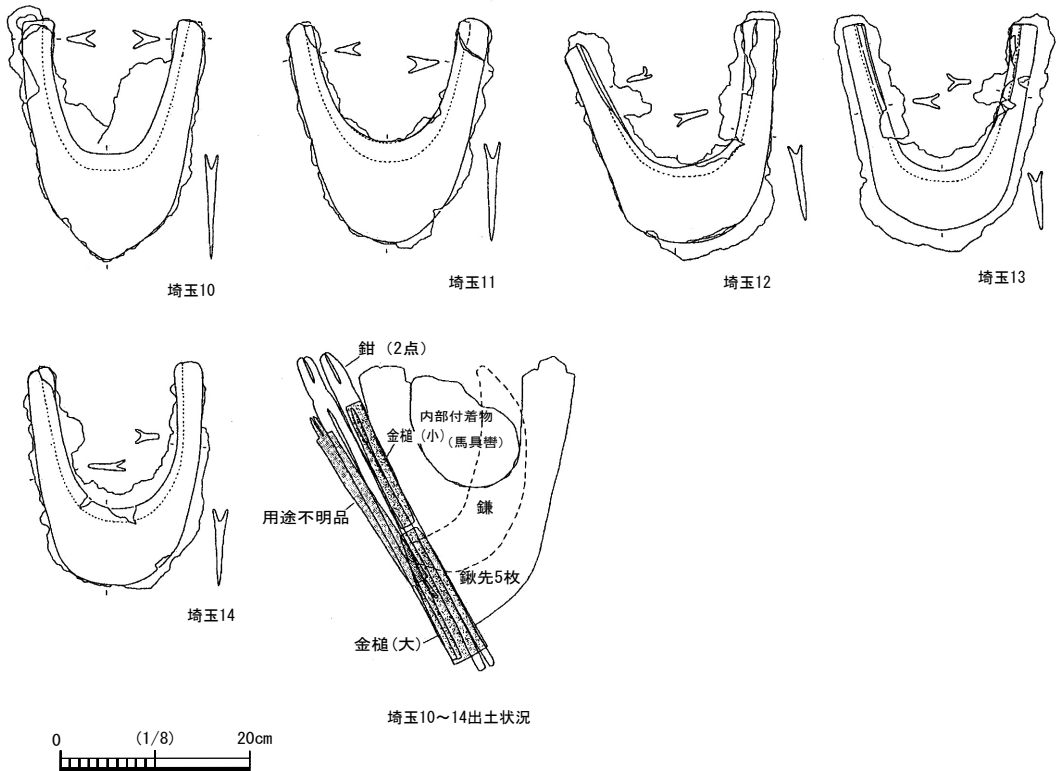


図19 中堀遺跡 鋤先出土状況

なお中堀遺跡の例は、鋏先生産の具体相を示す好個の事例である（図 19）。工房に重ねられた 5 枚の鋏先は、耳部のめくれ（埼玉 12、13）などから、補修のため保管されていたとされるが（瀧瀬 1997）、使用に支障を来す損傷はなく、刃幅も 6～11cm と、鋏先の中で最も広いため、工房で製作された新製品と考える。5 枚重ねられたことは、鋏先が数枚ずつ一括製造されたことを示唆する。また風呂の形状が、同時に生産された鋏先の間で既に異なることも確認でき、まちまちな形状のだいに合うよう鋏先を造ったことが伺える。鉄の方が木より可塑的で、だいの形に合わせ易いためであろう。特に埼玉 12、13 の耳部外反と V 字溝のめくれは、めくれている側の耳の溝にだいの一方の縁を固定した後、他方の耳を熱し、金槌で叩いて風呂の形に合わせて曲げ、溝を叩き締めて固定することで、装着を容易にする工夫と思われる。以上から、木器、鉄器それぞれの工房で、だいと鋏先が別途一括して作られ、おそらく鍛造工程の最後でだいに装着されたと推察される。

②北東北（図 20 参照）

北東北の鋏先出土遺跡の傾向は時期により大きく変動する。以下画期を追ってその動向を見る。**7 世紀から 9 世紀……**9 世紀代までの鋏先の出土は、終末期古墳への副葬 1 例（岩手 13）の他、奈良期以来多くの竪穴住居を擁し、周辺に終末期円墳群を控える中心的遺跡からの出土が多い。7 世紀末～8 世紀前半の鋏先を出土した馬場遺跡（岩手 29・30）や、9 世紀代と見られる鋏先が出土した長瀬 C 遺跡（岩手 26）は、馬淵川中流二戸地域の奈良期以来の集落群の一部である（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1990）。8 世紀前半の鋏先が出土した稲村 II 遺跡（岩手 5）、7 世紀末から 8 世紀代の鋏先の破片を出土した本宮熊堂遺跡（岩手 37・38）は、北上川中流域の 8 世紀の大集落の一角である（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001・2006）。8 世紀半ばの鋏先を出土したふくべ (3) 遺跡（青森 35）周辺は、奥入瀬川下流域で奈良・平安期の集落が集中し、7 世紀から 9 世紀の北東北有数の終末期古墳群が造営された（青森県教育委員会 2005）。

上述の遺跡出土の鋏先は、新 U 字形鋏先とは異なる独特の規格で、在地で製造されたことは確実である。その原料鋼は『三代格』延暦六年（787）正月二十一日官符に、蝦夷が公民・王臣との交易で鉄を入手し「農器」にしているとあり、交易による南方からの入手が想定されるが、志波城で 9 世紀初頭の精錬炉が、城柵の影響圏外にある三陸の山田町上村遺跡でも 8 世紀の可能性のある製鉄炉が検出され（八木 1999）、これらが原料鋼の供給源だった可能性も否定できない。

8 世紀中頃以降 9 世紀代まで新 U 字形鋏先やその装着だいを出土する遺跡は、8 世紀中頃の鍛造鍛冶工房関連竪穴住居から一例出土した秋田城跡（秋田 1）、9 世紀後半のクワだいを出土した胆沢城跡（97 年度調査）（岩手 2）、小型鋏先を出土した払田柵跡（秋田 17）など、城柵やその関連遺跡である。時期不明だが、新 U 字形鋏先装着用と見られる木製踏みスキが出土した中谷地遺跡（秋田 15）も、秋田郡衙と推定される石崎遺跡や秋田城の付近に位置する。目下、城柵関連遺跡出土鋏先は全て新 U 字形鋏先であり、新 U 字形鋏先と律令国家との密接な関係を傍証する。

城柵関連遺跡以外では、9 世紀～10 世紀初頭のクワだいを出土した雄物川町大見内遺跡（秋田 6）

古代における鉄製鋤先の研究

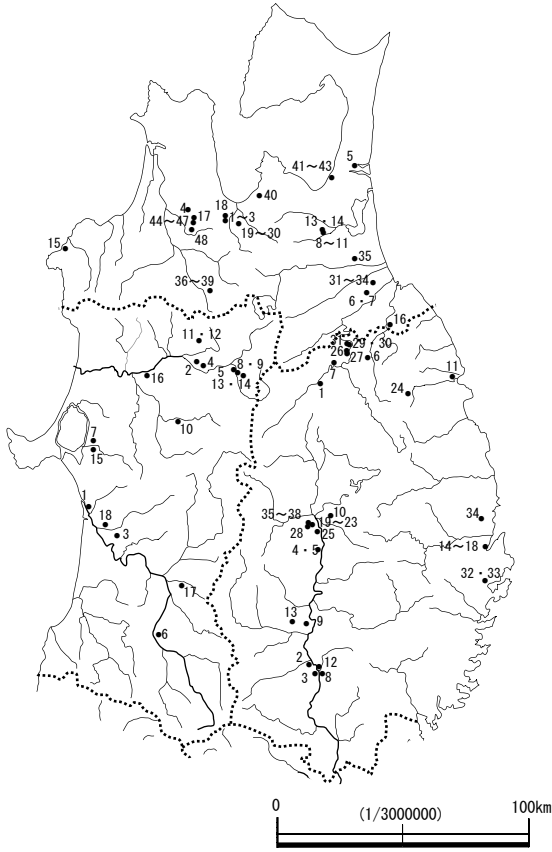


図20-1 青森県鋤先出土遺跡分布図

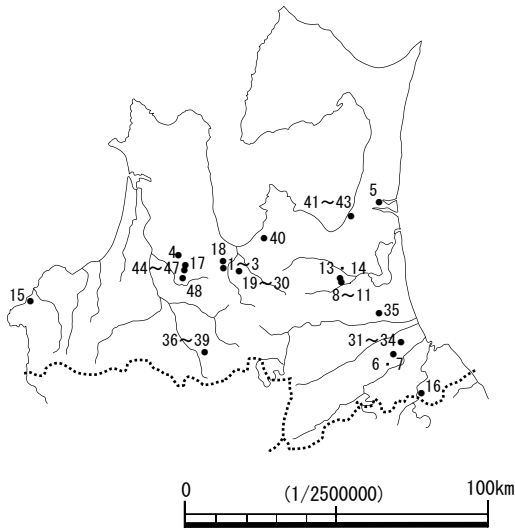


図20-0 北東北鋤先出土遺跡分布図

形式 年代
 A:北東北A類 01:第一四半期
 B:北東北B類 02:第二四半期
 C:北東北C類 03:第三四半期
 D:北東北D類 04:第四四半期
 新U大:新U字形鋤先大型
 新U小:新U字形鋤先小型
 凹字:凹字形鋤先(松井B類)
 特:上記以外特殊形式

青森県鋤先出土遺跡一覧

(○該当する △可能性がある)

新	遺跡名	状	形式	年代	城	大	防	製	鉄	其
					柵	麻	御	鉄	鋤	他
					街	塚	集	製	先	工
							落	造		業
										生
										産
										工
										業
1	朝日山(2)遺跡	○	D	9C後~10C前			○	○	○	
2	同上	○	D	9C後~10C前			○	○	○	
3	同上	○	D	9C後~10C前			○	○	○	
4	大走須磨器蓋跡	△	D	10C01以前						○
5	跡	○	C	10C前						○
6	岩ノ沢平遺跡	○	A	10C前				○	○	○
7	同上	○	A	9C後葉				○	○	○
8	大池館遺跡	○	A	10C中葉中心						○
9	同上	○	A	10C中葉中心						○
10	同上	○	C	10C中葉中心						○
11	同上	○	C	10C中葉中心						○
12	橋引遺跡	○	B	9C末~10C初						
13	倉経(2)遺跡	△	特	古代						
14	同上	×	※	10C後~						
15	厩野遺跡	○	B	10C					○	○
16	砂子遺跡	○	B	9C後~10C前			○			
17	高根敷館遺跡	○	特	古代					○	○
18	近野遺跡	○	A	平安					○	○
19	野木遺跡	○	C7B?	9C末~10C初			○	○	○	○
20	同上	○	C	9C後半			○	○	○	○
21	同上	×	※	10C初				○	○	○
22	同上	×	※	※				○	○	○
23	同上	○	B	9C後半				○	○	○
24	同上	○	A	10C前				○	○	○
25	同上	○	D?	9C末~10C初				○	○	○
26	同上	○	A	9C末~10C初				○	○	○
27	同上	○	C	10C01				○	○	○
28	同上	○	A	平安				○	○	○
29	同上	○	C	平安				○	○	○
30	同上	○	A	平安				○	○	○
31	林ノ前遺跡	○	特	10C03~11C末				○	○	○
32	同上	○	特	10C03~11C末				○	○	○
33	同上	×	※	10C03~11C末				○	○	○
34	同上	×	※	10C03~11C末				○	○	○
35	志<C>(3)遺跡	○	特	9C前~中葉			○			
36	古館遺跡	○	特	11C~12C				○	○	○
37	同上	○	特	同上				○	○	○
38	同上	×	不明					○	○	○
39	同上	×	不明					○	○	○
40	空田館遺跡	○	特	10C後~11C						
41	向田(35)遺跡	×	※	11C前				○	△	○
42	同上	○	特	11C前				○	△	○
43	同上	×	※	11C前				○	△	○
44	山元(1)遺跡	○	不明	10C中葉				○		
45	同上	○	B	10C				○		
46	山元(2)遺跡	○	A	9C末~10C初				○		
47	同上	△	A	10C中葉				○		
48	山元(3)遺跡	○	B	9C後~10初				○		

岩手県鍬先出土遺跡一覧

(○該当する △可能性がある)

図20-2 岩手県鍬先出土遺跡分布図

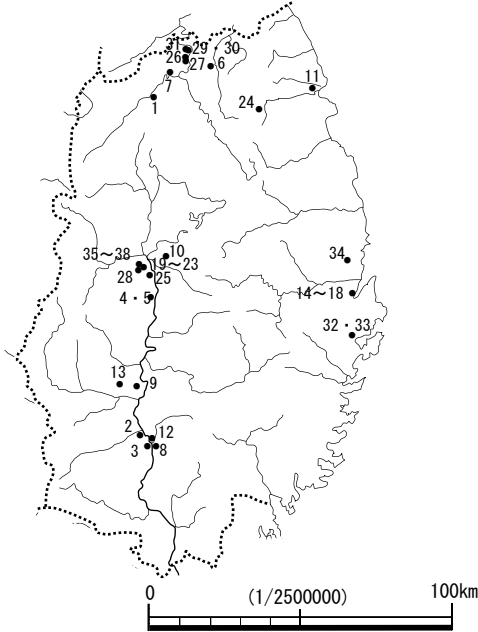
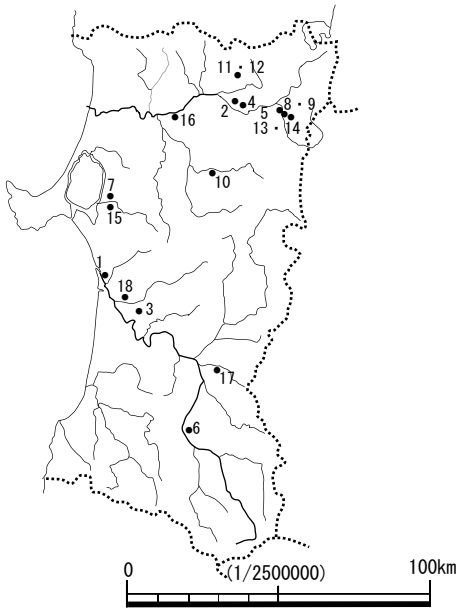


図20-3 秋田県鍬先出土遺跡分布図



秋田県鍬先出土遺跡一覧

(○該当する △可能性がある)

遺跡名	状態	形式	年代	城 柵 官 衙	大 集 落	防 御 性 集 落	製 鉄 遺 跡	鉄 精 錬	その他 鉄 関 連 生 産 工 房	その他 工 房
1 飛鳥台地 I 遺跡	○	A	10C中葉							○
2 胆沢城跡	○	新U大	9C後	○						
3 石田遺跡	○	特	平安							
4 稲村遺跡	○	新U大	8C末~9C初	○	○					
5 稲村 II 遺跡	○	特	8C前半	○	○					
6 江刺家遺跡	○	A	平安				△	○	○	
7 大向上平遺跡	○	A	10C中葉						○	
8 落合 I 遺跡	○	特	平安?							
9 上川岸 II 遺跡	○	特	9C後葉~10C代						○	
10 上八木田 I 遺跡	○	A	9C末~10C初							
11 源道遺跡	○	特	10C後~11C							
12 湯ノ巣館遺跡	○	A	平安							
13 五条丸51号墳	△	凹字	7~8世紀		○					
14 島田 II 遺跡	○	A	10C01	○	○	○	○	○	○	
15 同上	○	A	10C01		○	○	○	○	○	
16 同上	○	A	10C02		○	○	○	○	○	
17 同上	○	A	10C01		○	○	○	○	○	
18 同上	○	A	10C01		○	○	○	○	○	
19 台太郎遺跡	×	※	平安?		○					
20 同上	○	A	9C後?		○					
21 同上	○	A	9C後~10C前		○					
22 同上	○	A	9C後~10C前		○					
23 同上	△	A	9C後~10C前		○					
24 高屋敷遺跡	○	特	9C後半?							
25 百目木遺跡	○	特	平安?		○					
26 長瀬C遺跡	△	A?	9C代		○					
27 中曾根 II 遺跡	○	特	奈良		○					
28 野古A遺跡	△	A	9C後~10C初		○					
29 馬場遺跡	○	特	7C末~8C前		○					
30 同上	○	特	7C末~8C前		○					
31 府金橋遺跡	△	特	10C前葉							
32 厚の沢IV遺跡	○	A	不明		○	○				
33 同上	○	A	不明		○	○				
34 細越 I 遺跡	○	特	古代							○
35 本宮熊堂B遺跡	○	A	9C後~10C前		○					
36 同上	○	A	9C後							
37 同上	×	特	7C末~8C前		○					
38 同上	×	特	7C末~8C前		○					

遺跡名	状態	形式	年代	城 柵 官 衙	大 集 落	防 御 性 集 落	製 鉄 遺 跡	鉄 精 錬	その他 鉄 関 連 生 産 工 房	その他 工 房
1 秋田城跡	○	新U大	8C中葉	○						○
2 池内遺跡		図柵	~10C前							
3 上野遺跡	○	A	10C前					○	○	
4 鍋釣遺跡	×	※	平安							
5 太田谷地館跡	○	特	平安末葉?			○	○	○		
6 大見内遺跡	○	新U大	9C~10C初				○		○	
7 開防遺跡D地区	△	特	9C~10C	○						
8 塚忍沢遺跡	○	A	10C前				○	○	○	
9 同上	○	A	10C前				○	○	○	
10 地蔵伝遺跡	○	特	古代					○		
11 歌遊内中台 I	○	A	10C半ば				○			
12 同上	△	A	10C01				○			
13 中の崎遺跡	○	A	10C前						○	
14 同上	○	A	9C末~10C前		○				○	
15 中谷地遺跡	○	新U大	不明	○						
16 法泉坊沢 II 遺跡	○	新U大?	9C後~10C初				○	○	○	
17 弘田柵跡	○	新U小?	9C前半	○						
18 湯ノ沢F遺跡	△	A	10C代							

は、奈良期の須恵器窯、末館窯跡や奈良・平安期の栗林製鉄跡など、運営に国家の関与が想定される手工業センターに近接する（秋田県教育委員会 2005）。稲村遺跡（岩手 4）は、文献上の「斯波村」周辺にあり、平安初期、南の胆沢地域とともに、律令国家と強い関係を持った（菊池 2003）^{xi}。国家による蝦夷侵略と同時期に、斯波村比定地域で新 U 字形鋏先が現れることは、国家との接触の反映の一つといえる。

北東北の新 U 字形鋏先出土遺跡は、国家の東北経略と深く関わり、日本海側は秋田平野から雄物川流域、太平洋側は北上川中流域と、北東北の南側に限定される。なお秋田城の例から、城柵付属の鍛冶工房で新 U 字形鋏先製作の技術を持つ工人により製作されたと考えられる。

9 世紀後半・末期から 10 世紀中葉……盛岡では 9 世紀前半志波城存続中は集落群が消滅したが、城移転後の 9 世紀後半に復活し、その中の本宮熊堂 B、台太郎、野古 A 遺跡から北東北 A 類が現れた（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002）。本宮熊堂 B 遺跡は鉄滓から鍛錬鍛冶が確認されるも^{xii}、製鉄・精錬跡は未詳である。盛岡盆地のかかる大集落は 10 世紀前葉に終焉する。

北東北北部では、9 世紀後半から 10 世紀前半、それまで遺跡が少なかった青森県上北北部、津軽の岩木川流域、五所川原地域で集落が急増する。津軽におけるかかる新興集落の堅穴住居は、張り出しや竈側に附属する掘立柱建物など、米代川流域の特徴を持ち、秋田県からの移民が想定されている（佐藤 2004）。最初期の北東北 B・C 類を出した青森平野の野木遺跡（青森 20・23）、津軽最初の 9 世紀末の鋏先を出土する五所川原地域の山元（2）遺跡（青森 46）も、かかる新開拓集落であった。

なおこの頃米代川流域、津軽・青森平野、三陸海岸、二戸、八戸など北東北各地の集落で、製鉄や鉄精錬、鍛造鍛冶が爆発的に開始される（松本 2006）^{xiii}。野木遺跡や山本遺跡も鉄精錬・鍛造を行い、10 世紀末までの北東北の鋏先出土遺跡の多くは、製鉄や精錬に関係する。

岩手県二戸地域、飛鳥台地 I 遺跡（岩手 1）は、堅穴住居の 40%から鉄滓が出土し、精錬以下の工程が行われていた可能性が高い（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988）。江刺家遺跡（岩手 6）でも、鞆羽口や、成分分析で砂鉄からの製鉄由来と判明した大量の鉄塊、鉄滓が出土した。宮古市島田 II 遺跡（岩手 14～18）は、製鉄炉 1 基と 40 基の鍛冶炉が出土し、製鉄から鍛造までを行う工人集落であった（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004）。

秋田県では、雄物川下流域の上野遺跡から（秋田 3）、椀形滓や鉄塊が出土し、精錬を行った可能性が高い（秋田県教育委員会 2000）。米代川流域では、法泉坊沢 II 遺跡（秋田 16）から製錬滓・精錬滓や鍛冶炉の炉壁が出土しており、製精錬から鍛造までの一連の工程を行う工房と判明している（秋田県教育委員会 1998）。大館市釈迦内中台 I 遺跡（秋田 11・12）も製鉄炉が検出されている（秋田県教育委員会 2008）。鹿角市の堪忍沢遺跡（秋田 8・9）では、13 基の製鉄炉が検出されており、炉内の砂鉄は地元のものと判明している（秋田県教育委員会 1987）。

青森県青森平野周辺では、野木遺跡の他、青森市朝日山（2）遺跡から（青森 1～3）製鉄・精錬炉が出土している。津軽地域では、山元（1）～（3）遺跡周辺に鋏先出土が集中し（青森 4、17、

44～48)、深浦町葦野遺跡(青森15)でも、鍛冶炉や、鉄をさらにとり出すべく破碎された大量の椀形滓が出土し、少なくとも精錬以下の工程が想定される。八戸地域では、岩ノ沢平遺跡(青森6・7)で9世紀代の鍛冶遺構が検出され、鉄滓や鍛造剥片、69号住居に廃棄された砂鉄から、製鉄、鍛造の全工程を行ったと見られる(青森県教育委員会2000)。七戸周辺では、墓坑より四点出土した大池館遺跡(青森8～11)で、鉄滓若干と羽口が出土し、鉄加工を行ったことは確実である(青森県教育委員会1998)。

成分分析が少なく断定できないが^{xiv}、製鉄・精錬集落出土鉄先は原料鋼の段階から自集落で作った可能性が高く、南東北・関東に比し極めて自給的である。狭い範囲に生産地が多数存在すれば、その各々が独自の規格の鉄先を製造しうる。しかし鉄先はだいの密着のため、えぐれを風呂の形状に合わせねばならず、だいと鉄先の交換の便宜のため必然的に規格の統合を志向する。この時期の北東北の鉄先が北東北A～D類の4形式に統合され、秋田・岩手県では北東北A類一色となるも、青森県では4形式の鉄先が同一遺跡に並存するという現象はこの二つの条件によると考えられる。なお、製鉄・精錬・鍛造の各工程の遺構が一集落にまとまる例も多く、製鉄から鍛造までの技術は一連の体系である可能性が高い。したがって鎌、刀子より製造工程が複雑な鉄先に、製鉄から鍛造までを含めた鉄関連技術の体系の差異が発現した可能性があり、他の鉄関連遺構との関係を踏まえつつ今後検討すべき課題である。

10世紀後半以降……10世紀後半、北東北では周濠をもつ防禦性集落が出現し、他の集落は衰える(佐藤2004)。北東北A～D類の断絶は、鉄先を生産していた鉄生産関連集落の廃絶に連動する。

10世紀後半から11世紀の鉄先を出した林ノ前遺跡(青森31～34)や、11世紀前半の鉄先を出した向田(35)遺跡(青森41～43)、11世紀から12世紀の鉄先を出土した古館遺跡(青森36～39)は内部に製鉄施設を備えた防禦性集落である。秋田県太田谷地館跡(秋田5)も、製鉄や鍛冶の跡があり、周囲を空堀が巡ることから防禦性集落の様相を呈する(秋田県教育委員会1988)。この時期の北東北の鉄先は、防禦性集落単位で生産、使用されていたと推定される。

③小結

以上、7世紀後半から11世紀代までの、関東から東北にかけての鉄製鉄先について、宮城・山形以南の南東北・関東地方と岩手・秋田以北の北東北とでは、鉄先の規格も、その生産、消費、流通過程も異なることが明らかになった。前者においては、鉄先の規格や生産、流通に国家の地方支配に関係する勢力が強い影響を与えており、拠点的な工房で一括生産された「新U字形鉄先」が、行政上重要な結節点となる集落や、手工業生産・開発拠点を対象として流通した。これに対し後者では、8世紀半ばから9世紀にかけて、一時新U字形鉄先が、東北経略を目指す古代国家の動きとともに南側に進出したことがあったものの、それ以前の8世紀代から独自の規格の鉄先が存在しており、9世紀末から10世紀の製鉄ラッシュとともに、鉄生産工房を有する各地の集落で、自前の鉄から鉄先を作って保有する自給性の高い鉄先生産が行われたが、その製造技術体系は、北東北A

～D類のいずれかの系譜へと統合されていた。防禦性集落成立後も、自集落の製鉄遺跡で鋏先を作る体制は続いたが、出土例僅少のため、製造技術の系譜関係を見ることは難しい。

おわりに

ここまで関東・東北の鋏先について、規格や生産・流通体制を巡るいくつかの地域的傾向を明らかにすることができた。しかし、蕨手刀や終末期円墳の形状から東北部との強い関わりが想定されている中部地方を（松本 2006）比較対象の範囲とする余裕がなかった点、製鉄・鍛造遺跡全体や、他の鉄製品の動向を十分に考慮せず、鋏先出土遺跡のみから鋏先の生産・流通に言及した点など、片手落ちといわざるを得ない。この他にも至らないところが多々あると思われる。御批判御叱正を頂ければ幸いである。

謝辞

本稿は、2009年1月に東京大学文学部に提出した「古代における鉄製鋏先の研究」という主題の卒業論文を再構成したものである。執筆に当たっては東京大学考古学研究室の今村啓爾先生、大貫静夫先生、佐藤宏之先生から多大なるご指導を頂いた。また東北芸術工科大学の福田正宏氏、青森県中泊町教育委員会の斎藤淳氏からは有意義な御教示を頂いた。末筆ながら、記して深く感謝致します。

註

- ⁱ 凹字形の段階の鋏先は出土例が少なく、明確に大型と小型に分化しているとはいえないという見解も出されている（古庄 1994）。
- ⁱⁱ 北東北の鋏先については、他に小川貴司氏が、青森県内の出土例を集成されている（小川 1980）。
- ⁱⁱⁱ 天平宝字七年五月三日、越前国使解『大日本古文書 4』所収文書に、大領生江臣東人による鋏、鎌の一括購入が記されている。
- ^{iv} 『新猿楽記』には富豪田中豊益が「水旱の年を思ひ鋏を調へ」という記述がある。
- ^v 装着用V字形溝とだいの風呂が重なる部分については、V字形ソケット溝の深さは耳部では深くて1cm、刃部では深くて2cmとわずかな上、溝の奥まで風呂が食い込むわけではなく、地中で長期に亘る腐食、摩耗を考えると誤差の範囲に収めることができるだろう。
- ^{vi} 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981
- ^{vii} 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998
- ^{viii} 堀部尚志・岡光男校注 1980『耕家春秋』日本農書全集 4, 農山漁村文化協会, 所収第七 農具の図。
- ^{ix} 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997
- ^x 千葉県鋏先は大村直氏によりに集成がなされている（大村 1996）。
- ^{xi} 菊池氏の見解による（菊池 2003）。また『類聚国史』延暦十一年五月甲戌条に、「斯波村の夷胆沢公阿奴志己ら、王化に帰せんとするも伊治村の俘に妨げられ果たさざるを訴える」とあり、国家への接近を図る斯波地域の動向が伺える。814年遺跡周辺に徳丹城が設置されたのも、当地と律令国家との深い関わりを背景としている。

- xii 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006
元慶の乱後の荒廃による、人口の「三分之一」の、出羽国から「奥地」への「逃入」（『三代実録』元慶三年（879年）三月二日壬辰条）、915年の噴火による降灰など、様々な要因が想定されている。
- xiii 松本建速氏は、製鉄・鍛造ともに津軽、米代川流域が中心で、太平洋側ではあまり行われなかったと指摘されたが（松本2006）、その後太平洋側の三陸や二戸、八戸で製鉄、鍛造鍛冶遺跡が確認された。
- xiv 赤沼英男氏は、9世紀後半～10世紀中葉、津軽・北海道地域と八戸地域砂子遺跡では鉄器の原料鋼の組成が異なることを論証された（赤沼2000）。

〈引用・参考文献〉

〈論文関連〉

- 赤沼英男 2000「出土遺物の組成からみた砂子遺跡における鉄器製作とその使用」青森県教育委員会『砂子遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 280:297-336
- 浅香年木 1971『日本古代手工業史の研究』法政大学出版局
- 安間拓巳 2007『日本古代鉄器生産の考古学的研究』溪水社
- 飯塚武司 2000「古代手工業生産における木工」『考古学研究』47(3):63-83
- 大村直 1996「鉄製農工具の組成比」『史館』28:76-105
- 小川貴司 1980「出土鉄製品とその問題点」『碓ヶ関村古館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書 54, 青森県教育委員会, 462-606
- 小口雅史 2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題——十和田 a と白頭山（長白山）を中心に——」『日本律令制の展開』吉川弘文館, 421-456
- 菊池賢 2003「古代台太郎ムラについての若干の考察」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター『台太郎遺跡第44次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 422:139-146
- 佐々木稔 2008『鉄の時代史』雄山閣
- 佐藤智生 2004「第6章 考察」青森県教育委員会『向田（35）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 373:99-150
- 都出比呂志 1967「農具鉄器化の二つの画期」『考古学研究』13(3):36-51
- 高橋一夫 1976「製鉄遺跡と鉄製農具」『考古学研究』22(3):92-102
- 高橋義介 1984「岩手県における奈良・平安時代の鉄製品について」『岩手県埋蔵文化財センター紀要』4:71-90
- 瀧瀬芳之 1997「金属製品」埼玉県埋蔵文化財調査事業団『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 190:1237-1271
- 田中広明 1997「中堀遺跡の特色と歴史的 성격」『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 190:1339-1391
- 田中広明 2003『地方の豪族と古代の官人』柏書房
- 都出比呂志 1969「—書評—原島礼二著『日本古代社会の基礎構造』」『日本史研究』107:66-71
- 土井義夫 1971「関東地方における住居址出土の鉄製農具について」『物質文化』18:14-27
- 土井義夫 1976「鉄製農具研究ノート」『季刊どるめん』10:97-109
- 野崎進 1988「古代の鉄製U字形鋸・鋤先をめぐる」『古代集落の諸問題 玉口時雄先生古稀祈年考古学論文集』玉口時雄先生古稀記念事業会, 108-127
- 原島礼二 1968『日本古代社会の基礎構造』未来社
- 菱田哲郎 2007『古代日本 国家形成の考古学』諸文明の起源 14, 京都大学学術出版会
- 古庄浩明 1994「古代における鉄製農具の所有形態——6世紀から10世紀の南関東を中心として」『考古学雑誌』
- 堀部尚志・岡光男校注 1980『耕家春秋』日本農書全集 4, 農山漁村文化協会

古代における鉄製鋤先の研究

- 松井和幸 1987「日本古代の鉄製鋤先，鋤先について」『考古学雑誌』72(3): 30-58
- 松崎元樹 1990「丘陵地における古代鉄器生産の諸問題－多摩ニュータウン遺跡群の検討－」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』8:35-66
- 松村恵司 1991「古代集落と鉄器所有」『日本村落史講座』4 政治1（原始・古代・中世），雄山閣，92-114
- 松本建速 2006『蝦夷の考古学』同成社
- 宮原武夫 1970「－書評－原島礼二著『日本古代社会の基礎構造』」『歴史学研究』364: 43-47
- 八木光則 1999「岩手県における律令期の鉄・鉄器生産」『東北地方に見る律令国家と鉄・鉄器生産』1999年度（第6回）鉄器文化研究会，15-31
- 山口直樹 1978「関東地方土師時代後・晩Ⅰ・晩Ⅱ期における農具について」『駿台史學』415:71-124

〈報告書関連〉

青森県

- 青森県教育委員会 1975『近野遺跡発掘調査報告書（Ⅱ）』青森県埋蔵文化財調査報告書 22
- 青森県教育委員会 1980『碓ヶ関村古館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書 54
- 青森県教育委員会 1986『弥栄平（4）（5）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 106
- 青森県教育委員会 1993『山元（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 159
- 青森県教育委員会 1994『山元（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 171
- 青森県教育委員会 1998『高屋敷館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 243
- 青森県教育委員会 1999『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 263
- 青森県教育委員会 2000『砂子遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 280
- 青森県教育委員会 2000『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 281
- 青森県教育委員会 2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 287
- 青森県教育委員会 2003『尾上山遺跡・蘆野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 347
- 青森県教育委員会 2003『朝日山（2）遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書 350
- 青森県教育委員会 2004『朝日山（2）遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書 368
- 青森県教育委員会 2004『向田（35）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 373
- 青森県教育委員会 2005『倉越（2）遺跡・大池館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 389
- 青森県教育委員会 2005『通目木遺跡・ふくべ（3）遺跡・ふくべ（4）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 392
- 青森県教育委員会 2005『山元（1）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 395
- 青森県教育委員会 2006『宮田館遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書 411
- 青森県教育委員会 2006『林ノ前遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 415
- 青森県教育委員会 2006『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越（2）遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 417
- 青森市教育委員会 2001『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書 54
- 五所川原市教育委員会 1998『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書 21

岩手県

- 岩手県埋蔵文化財センター 1981『紫波町稲村遺跡・中田遺跡・古屋敷遺跡（昭和53年度、54年度）』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書 19
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 22
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984『江刺家遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 70

- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1984 『府金橋発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 72
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『飛鳥台地 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 120
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 『源道遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 138
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1990 『馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 137
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1991 『上川岸 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 153
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『本宮熊堂 B 遺跡第 1 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 226
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『上八木田 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 227
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998 『房の沢 IV 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 287
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『大向上平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 335
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『稲村 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 348
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『台太郎遺跡第 18 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 369
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『台太郎遺跡第 26 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 416
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『島田 II 遺跡第 2 ～ 4 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 450
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『本宮熊堂 B 遺跡第 24 次・本宮熊堂 B 遺跡第 25 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 470
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『本宮熊堂 B 遺跡第 27 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 487
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007 『野古 A 遺跡第 23・24・29 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 501
- 都南村教育委員会 1979 『岩手県紫波郡都南村百目木遺跡 ― 発掘調査報告書 ―』
- 水沢市教育委員会 1998 『胆沢城跡 - 平成 9 年度発掘調査概報』
- 宮古市教育委員会 1992 『細越 I 遺跡 芋野 II 遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 36
- 山形村教育委員会 1995 『高屋敷遺跡』山形村埋蔵文化財調査報告書 5

秋田県

- 秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅷ 柏木森遺跡・中の崎遺跡・明堂長根遺跡』秋田県文化財調査報告書 106
- 秋田県教育委員会 1987 『西山区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I 堪忍沢遺跡』秋田県文化財調査報告書 152
- 秋田県教育委員会 1988 『西山区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 太田谷地館跡』秋田県文化財調査報告書 172

古代における鉄製鍬先の研究

- 秋田県教育委員会 1991『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 餌釣遺跡』秋田県文化財調査報告書210
- 秋田県教育委員会 1995『払田柵跡－第98次～101次調査概要－』秋田県文化財調査報告書258
- 秋田県教育委員会 1997『池内遺跡 遺構篇』秋田県文化財調査報告書268
- 秋田県教育委員会 1998『法泉坊沢Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書278
- 秋田県教育委員会 2000『上野遺跡』秋田県文化財調査報告書295
- 秋田県教育委員会 2001『中谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書316
- 秋田県教育委員会 2003『開防遺跡・貝保遺跡』秋田県文化財調査報告書361
- 秋田県教育委員会 2005『大見内遺跡・館野遺跡』秋田県文化財調査報告書386
- 秋田県教育委員会 2008『釈迦内中台Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書426
- 秋田県教育委員会 2008『地蔵岱遺跡』秋田県文化財調査報告書434
- 秋田市教育委員会 1984『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上E 湯ノ沢A 湯ノ沢C 湯ノ沢E 湯ノ沢F』
- 秋田城を語る友の会 2000『秋田城跡（平成11年度）』

宮城県

- 仙台市教育委員会 1983『南小泉遺跡』仙台市文化財調査報告書55
- 仙台市教育委員会 2000『欠ノ上Ⅱ遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書264
- 仙台市教育委員会 2004『鴻ノ巣遺跡 第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書280
- 多賀城調査研究所 1970『多賀城跡 昭和45年度発掘調査概報』宮城県多賀城跡調査研究所年報
- 多賀城調査研究所 1992『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報
- 田尻町教育委員会 1998『新田柵跡推定地』田尻町文化財調査報告書3
- 宮城県教育委員会 1981『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅴ』宮城県文化財調査報告書77
- 宮城県教育委員会 1984『柳津館山館跡』宮城県文化財調査報告書102
- 宮城県教育委員会 利府町教育委員会 1991『利府町郷楽遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書134, 利府町文化財調査報告書5
- 宮城県教育委員会 1999『一里塚遺跡 第44・47次発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書179
- 宮城県教育委員会 2004『沢田山西遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書196

山形県

- 山形県教育委員会 1984『俵田遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告77
- 山形県教育委員会 1984『沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告78
- 山形県教育委員会 1986『西沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告101
- 山形県教育委員会 1989『月光川左岸地区県営ほ場整備事業 浮橋遺跡 下長橋遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告141
- 山形県埋蔵文化財センター 1996『宮の下遺跡発掘調査報告書』
- 山形県埋蔵文化財センター 1998『上高田遺跡 第2・3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書57
- 山形県埋蔵文化財センター 2001『三条遺跡 第2・3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書93
- 米沢市教育委員会 1981『笹原遺跡発掘調査報告書』

福島県

- いわき市教育委員会 1977『白穴横穴群調査報告』

- いわき市教育委員会 1987『石坂遺跡 古代から近世の集落跡の調査』いわき市埋蔵文化財調査報告 17
 福島県教育委員会 1989『国営総合農地開発事業矢吹地区遺跡発掘調査報告書 4』福島県文化財調査報告書 206
 福島県教育委員会 1992『国営総合農地開発事業母畑地区遺跡発掘調査報告 32 弥明遺跡』福島県文化財調査報告書 278
 福島県教育委員会 1994『原町火力発電所関連遺跡調査報告Ⅳ』福島県文化財調査報告書 297
 福島県教育委員会 1998『常磐自動車道遺跡調査報告 11 大猿田遺跡（二次）』福島県文化財調査報告書 341
 福島県教育委員会 1998『福島空港・あぶくま南遺跡遺跡発掘調査報告 1』福島県文化財調査報告書 352
 福島県教育委員会 1999『福島空港公園遺跡発掘調査報告書 1』福島県文化財調査報告書 358
 福島県教育委員会 2001『常磐自動車道遺跡調査報告 24 鍛冶屋遺跡（2次調査）』福島県文化財調査報告書 377
 福島県教育委員会 2002『福島空港・あぶくま南遺跡遺跡発掘調査報告 12』福島県文化財調査報告書 394
 三春町教育委員会 1995『田村西部工業団地関連遺跡調査報告Ⅱ』三春町文化財調査報告書 21

栃木県

- 山武考古学研究所 1994『栃木県芳賀町免の内台遺跡Ⅱ』栃木県芳賀町文化財報告 16
 下野古代文化研究会 1975『井頭遺跡』栃木県埋蔵文化財報告 14
 栃木県教育委員会 1992『下野国分寺跡Ⅷ 遺物篇』栃木県埋蔵文化財調査報告書 123
 栃木県教育委員会 1992『辻の内遺跡・柿の内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書 127
 栃木県教育委員会 1994『金山遺跡Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告書 148
 栃木県教育委員会 1996『宮の内 A 遺跡・宮の内 B 遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書 175
 栃木県教育委員会 1996『金山遺跡Ⅳ』栃木県埋蔵文化財調査報告書 179
 栃木県教育委員会 2000『那須官衙関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告書 235
 栃木県教育委員会 2001『古橋Ⅰ・Ⅱ遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書 247
 栃木県教育委員会 2007『東谷・中島地区遺跡群 8 砂田遺跡（4～6・18・19・23・24区）』栃木県埋蔵文化財調査報告書 305
 日本窯業史研究所 1990『栃木県二宮町 蟹が入遺跡』
 日本窯業史研究所 1992『栃木県上三川町 上ノ原・向原南遺跡』
 日本窯業史研究所 1995『栃木県上三川町殿山遺跡Ⅰ』
 芳賀町教育委員会 1985『免の内台遺跡発掘調査概報』

群馬県

- 赤城村教育委員会 2005『宮田諏訪原遺跡Ⅰ・Ⅱ 榛名山噴火軽石・火山灰に埋没した古墳時代祭祀遺跡』赤城村埋蔵文化財発掘調査報告書 30
 赤堀村教育委員会 1978『赤堀村地蔵山の古墳 2』群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告 8
 安中市教育委員会 1991『嶺・下原遺跡』
 太田市教育委員会 1986『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報 二の宮遺跡（第Ⅱ次）』
 太田市教育委員会・群馬県企業局 1992『成塚住宅団地遺跡Ⅱ-3 遺物図版篇』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992『上野国分僧寺・尼寺中間地域（6）』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 126
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999『下芝五反田遺跡 奈良・平安時代以降篇』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 250

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999『高浜広神遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 252
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『富田漆田遺跡・富田下大日遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 372
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007『東今泉鹿島遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 403
 群馬町教育委員会 1983『中林遺跡調査概報』群馬町埋蔵文化財調査報告書 6
 群馬町教育委員会 1990『西三社免遺跡』群馬町埋蔵文化財調査報告書 29
 子持村教育委員会 1990『黒井峯遺跡発掘調査報告書（本文篇）』子持村文化財調査報告書 11
 渋川市教育委員会 1994『半田中原・南原遺跡』渋川市発掘調査報告書 41
 昭和村教育委員会 1998『森下中田遺跡』昭和村埋蔵文化財発掘調査報告書 8
 沼田市教育委員会 1993『沼田北部地区遺跡群Ⅱ（町田十二原遺跡）』
 藤岡市教育委員会 1993『平井地区1号古墳 範囲確認調査報告書Ⅷ』
 富士見村教育委員会 1995『上百駄山遺跡・寺間遺跡・孫田遺跡』

茨城県

- 茨城県教育財団 1983『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5』茨城県教育財団文化財調査報告書 20
 茨城県教育財団 2001『中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告書 170
 茨城県教育財団 2002『上野陣場遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告書 182
 茨城県教育財団 2003『二の沢 A 遺跡 二の沢 B 遺跡（古墳群） ニガサワ古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告書 208
 茨城県教育財団 2005『宮後遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告書 241
 茨城県教育財団 2005『大塚遺跡Ⅰ』茨城県教育財団文化財調査報告書 242
 茨城県教育財団 2006『島名熊の山遺跡Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告書 264
 茨城県教育財団 2007『島名熊の山遺跡Ⅷ』茨城県教育財団文化財調査報告書 280
 鹿島市教育委員会 1998『鹿島市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書19』鹿島の文化財 105
 勝田市文化・スポーツ振興公社 1993『武田Ⅵ 1992年度武田遺跡群発掘調査の成果』勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告 8
 美浦村教育委員会 1996『興津地区遺跡群 高野台遺跡・原畑遺跡・稲荷山遺跡』美浦村教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告書 7

埼玉県

- 大宮市遺跡調査会 1986『吉野原遺跡 下加南遺跡』大宮市遺跡調査界報告別冊 3
 大宮市遺跡調査会 1993『氷川神社東遺跡 氷川神社遺跡 B-17号遺跡』大宮市遺跡調査界報告 42
 大宮市遺跡調査会 1994『市内遺跡発掘調査報告 根切遺跡（第2次調査）C-108号遺跡（第2次調査）』大宮市遺跡調査界報告別 11
 岡部町教育委員会 1999『中宿遺跡Ⅲ』埼玉県大里郡岡部町埋蔵文化財調査報告書 4
 埼玉県遺跡調査会 1982『宮ノ越遺跡』埼玉県遺跡調査界報告 44
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982『毛呂山団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書 伴六』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 11
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告ⅩⅣ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 16
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ 台耕地（Ⅱ）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 33

- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1988『将監塚・古井戸 歴史時代篇Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 71
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989『御伊勢原Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 79
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991『樋詰・砂田前Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 102
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994『稻荷前遺跡 (B・C区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 145
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997『山王裏 / 上川入 / 西浦野本氏館跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 184
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 190
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2000『熊野 / 新田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 251
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2007『飯積遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 334
- 鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会 1991『鳩山窯跡群Ⅲ 工人集落篇 (1)』鳩山窯跡群発掘調査報告書 3
- 鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会 1992『鳩山窯跡群Ⅳ 工人集落篇 (2)』鳩山窯跡群発掘調査報告書 4
- 鶴ヶ島町教育委員会 1984『若葉台遺跡群 J・K・L 地点発掘調査概報』

東京都

- 落川遺跡調査会 1986『日野市落川遺跡調査概報Ⅳ』
- 北区教育委員会 2000『中里峽上遺跡Ⅱ 田端西台通遺跡Ⅳ 田端不動坂遺跡Ⅳ 田端町遺跡Ⅱ』北区埋蔵文化財調査報告 28
- 国分寺市遺跡調査会 2001『武蔵国分寺跡発掘調査概報 25 昭和 55 ～ 59 年度僧寺域内等の調査』
- 東京都埋蔵文化財センター 1983『多摩ニュータウン遺跡 昭和 57 年度 (第 1 分冊)』東京都埋蔵文化財センター調査報告 4
- 東京都埋蔵文化財センター 1988『多摩ニュータウン遺跡 昭和 61 年度 (第 1 分冊)』東京都埋蔵文化財センター調査報告 9
- 東京都埋蔵文化財センター 2007『日野市 No.16 遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 312
- 東京造形大学津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団 1992『南多摩窯跡群』
- 東北新幹線赤羽地区遺跡調査会 1992『赤羽台遺跡』
- 都立府中病院内遺跡調査会 1995『武蔵国分寺跡西方地区 武蔵台遺跡Ⅱ』
- 中田遺跡調査会 1967『八王子中田遺跡 古墳時代集落址の調査』
- なすな原遺跡調査団 1996『なすな原遺跡 No.2 地区調査』
- 野村不動産株式会社 2008『武蔵国府関連遺跡調査報告』
- 府中市教育委員会 府中市遺跡調査会 1999 a『武蔵国府関連遺跡調査報告 22 国府地域の調査 18 武蔵国分寺跡調査報告 2 南方地域の調査 2』
- 府中市教育委員会 府中市遺跡調査会 1999 b『武蔵国府関連遺跡調査報告 23 国府地域の調査 19』天神町遺跡調査報告 3・府中市埋蔵文化財調査報告 23
- 船田遺跡調査会 (第Ⅱ次) 1972『船田 東京都八王子市船田遺跡の第Ⅱ次調査』
- 町田市教育委員会 1972『鶴川遺跡群』雄山閣
- 守屋栄介 2001『東京都日野市落川遺跡』

千葉県

- 印旛郡市文化財センター 1993『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅳ』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書 71
- 印旛郡市文化財センター 1994『印旛村道山田平賀線予定地内埋蔵文化財調査報告書』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書 81

古代における鉄製鋳先の研究

- 印旛郡市文化財センター 1999『千葉県成田市川栗遺跡群Ⅰ子の神遺跡2・3・4次 東和田遺跡第2次』
印旛郡市文化財センター発掘調査報告書152
- 江原台第一遺跡発掘調査団 1979『江原台』
- 香取郡市文化財センター 1991『長部山遺跡』
- 香取郡市文化財センター 1999『古屋敷遺跡』
- 君津郡市文化財センター 1985『千葉県袖ヶ浦町永吉大遺跡群』君津郡市文化財センター発掘調査報告書
12
- 君津郡市文化財センター 1988『千葉県木更津市花山遺跡』君津郡市文化財センター発掘調査報告書38
- 君津郡市文化財センター 1992『千葉県袖ヶ浦市文協遺跡』君津郡市文化財センター発掘調査報告書69
- 山武郡市文化財センター 1994『南麦台遺跡』山武郡市文化財センター発掘調査報告書18
- 千葉県都市公社 1974『市原市菊間遺跡』
- 千葉県文化財センター 1977『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ 第1次・第2次調査』
- 千葉県文化財センター 1988『東金市久我台遺跡』
- 千葉県文化財センター 1991『多古町南借当遺跡』千葉県文化財センター調査報告195
- 千葉県文化財センター 1994『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他』千葉県文化財センター調査報告245
- 千葉県文化財センター 1994『海上町岩井安町遺跡』千葉県文化財センター調査報告247
- 東金市菅谷古墳群及び南外輪戸遺跡調査会 1985『東金市菅谷古墳群及び南外和戸遺跡 滝・木浦Ⅱ遺跡発
掘調査報告所』
- 東京大学文学部考古学研究室 1969『我孫子古墳群』我孫子町教育委員会
- 夏見大塚遺跡調査団 1975『夏見大塚遺跡』
- 日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団 1972『中馬場遺跡 妻子原遺跡』
- 日本住宅公団東京支社、千葉県都市公社 1974『八千代市村上遺跡群』
- 日本鉄道建設公団 千葉県都市公社 1973『小金線』
- 日本文化財研究所 1977『千葉県萩ノ原遺跡発掘調査報告』日本文化財研究所調査報告5
- 山田遺跡調査会 1977『山田水呑遺跡』

神奈川県

- 池ノ辺遺跡調査会 日本考古学研究所 1980『池ノ辺 神奈川県藤沢市池ノ辺遺跡の調査』
- 海老名市遺跡調査会 1992『海老名市大谷向原遺跡』
- 神奈川県教育委員会 1975『鷲尾遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告7
- 神奈川県教育委員会 1979『上浜田遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告15
- 神奈川県立埋蔵文化財センター 1990『草山遺跡Ⅲ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告18
- 神奈川考古学財団 1998『下大槻峯遺跡(No.30)Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告35
- 神奈川考古学財団 1999『池子遺跡群Ⅷ』かながわ考古学財団調査報告44
- 神奈川考古学財団 2000『天神谷戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告75
- 構之内遺跡発掘調査団 1994『神奈川県平塚市構之内遺跡発掘調査報告書』
- 倉見才戸遺跡発掘調査団 2001『神奈川県高座郡寒川町倉見才戸遺跡第4次発掘調査報告書』
- 相武考古学研究所 1989『神奈川県海老名市相模国分尼寺関連遺跡第1次調査発掘調査概報』
- 成瀬第二地区遺跡調査会 都市基盤整備公団 2002『神奈川県伊勢原市成瀬第二地区遺跡群』
- 法政大学多摩校地城山地区遺跡調査委員会 1989『法政大学多摩校地城山地区風間遺跡群発掘調査報告書』
- 本郷遺跡調査団 1988『海老名本郷(V)』
- 本郷遺跡調査団 1989『海老名本郷(VII)』
- 本郷遺跡調査団 1996『海老名本郷(XIV)』
- 望地遺跡調査団 1984『神奈川県海老名望地遺跡調査報告書 海老名望地遺跡』

谷原遺跡調査団 1972『谷原 神奈川県相模原市谷原遺跡の調査』
 蕨根不動原遺跡調査団 2007『横浜市都筑区蕨根不動原遺跡発掘調査報告書』
 影向寺遺跡第2次発掘調査団 1986『川崎市宮前区 影向寺遺跡 第2次発掘調査報告書』
 横浜市ふるさと歴史財団 2003『笠間中央公園遺跡発掘調査報告書』

図表出典一覧

- 図2 安中市教育委員会 1991『嶺・下原遺跡』、埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989『御伊勢原Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書79、仙台市教育委員会 2000『欠ノ上Ⅱ遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書264、福島県教育委員会 1998『福島空港・あぶくま南遺跡遺跡発掘調査報告1』福島県文化財調査報告書352、群馬町教育委員会 1983『中林遺跡調査概報』群馬町埋蔵文化財調査報告書6、埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991『樋詰・砂田前Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書102、岡部町教育委員会 1999『中宿遺跡Ⅲ』埼玉県大里郡岡部町埋蔵文化財調査報告書4、谷原遺跡調査団 1972『谷原 神奈川県相模原市谷原遺跡の調査』、影向寺遺跡第2次発掘調査団 1986『川崎市宮前区 影向寺遺跡 第2次発掘調査報告書』
- 図3 福島県教育委員会 1989『国営総合農地開発事業矢吹地区遺跡発掘調査報告書4』福島県文化財調査報告書206、栃木県教育委員会 2000『那須官衙関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』栃木県埋蔵文化財調査報告書235、群馬埋蔵文化財調査事業団1986『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』、東京都埋蔵文化財センター 1983『多摩ニュータウン遺跡 昭和57年度(第1分冊)』 東京都埋蔵文化財センター調査報告4、日本窯業史研究所 1995『栃木県上三川町殿山遺跡Ⅰ』
- 図4 宮城県教育委員会 利府町教育委員会 1991『利府町郷楽遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書134、利府町文化財調査報告書5、福島県教育委員会 1998『福島空港・あぶくま南遺跡遺跡発掘調査報告1』福島県文化財調査報告書352、栃木県教育委員会 1992『辻の内遺跡・柿の内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書127、太田市教育委員会・群馬県企業局 1992『成塚住宅団地遺跡Ⅱ-3 遺物図版篇』、茨城県教育財団 2001『中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告書170、大宮市遺跡調査会 1993『氷川神社東遺跡 氷川神社遺跡 B-17号遺跡』大宮市遺跡調査報告42、東京都埋蔵文化財センター 1988『多摩ニュータウン遺跡 昭和61年度(第1分冊)』 東京都埋蔵文化財センター調査報告9、千葉県文化財センター 1977『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ 第1次・第2次調査』、千葉県都市公社 1974『市原市菊間遺跡』、海老名市遺跡調査会 1992『海老名市大谷向原遺跡』、倉見才戸遺跡発掘調査団 2001『神奈川県高座郡寒川町倉見才戸遺跡第4次発掘調査報告書』、山形県教育委員会 1984『沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告78、東京造形大学宇津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団 1992『南多摩窯跡群』、多賀城調査研究所 1992『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報、栃木県教育委員会 2001『古橋Ⅰ・Ⅱ遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告書247、群馬埋蔵文化財調査事業団 1999『高浜広神遺跡』群馬埋蔵文化財調査事業団調査報告書252、茨城県教育財団 2003『二の沢A遺跡 二の沢B遺跡(古墳群) ニガサワ古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告書208、埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2000『熊野/新田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書251、船田遺跡調査会(第Ⅱ次) 1972『船田 東京都八王子市船田遺跡の第Ⅱ次調査』、香取郡市文化財センター 1991『長部山遺跡』、神奈川県教育委員会 1975『鳶尾遺跡』 神奈川県埋蔵文化財調査報告7
- 図5 群馬埋蔵文化財調査事業団 1992『上野国分僧寺・尼寺中間地域(6)』群馬埋蔵文化財調査事業団調査報告書126、守屋栄介 2001『東京都日野市落川遺跡』
- 図6 仙台市教育委員会 2004『鴻ノ巣遺跡 第7次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書280、千葉県文化財センター 1994『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他』千葉県文化財センター調査報告245、夏見大塚遺跡調査団 1975『夏見大塚遺跡』、望地遺跡調査団 1984『神奈川県海老名望地遺跡調査報告書 海老名望地遺跡』

- 図7 松井和幸 1987「日本古代の鉄製鍬先, 鋤先について」『考古学雑誌』72(3): 30-58、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1990『馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 137、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『本宮熊堂 B 遺跡第 27 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 487、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001『稲村Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 348
- 図8 秋田城を語る友の会 2000『秋田城跡(平成 11 年度)』、岩手県埋蔵文化財センター 1981『紫波町稲村遺跡・中田遺跡・古屋敷遺跡(昭和 53 年度、54 年度)』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書 19、秋田県教育委員会 2005『大見内遺跡・館野遺跡』秋田県文化財調査報告書 386、水沢市教育委員会 1998『胆沢城跡-平成 9 年度発掘調査概報』、秋田県教育委員会 1995『払田柵跡-第 98 次-101 次調査概要-』秋田県文化財調査報告書 258、秋田県教育委員会 1998『法泉坊沢Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書 278、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 22、青森県教育委員会 2005『通目木遺跡・ふくべ(3)遺跡・ふくべ(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 392
- 図9 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『本宮熊堂 B 遺跡第 24 次・本宮熊堂 B 遺跡第 25 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 470、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002『台太郎遺跡第 26 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 416、秋田県教育委員会 1984『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅷ 柏木森遺跡・中の崎遺跡・明堂長根遺跡』秋田県文化財調査報告書 106、青森県教育委員会 2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 287、青森市教育委員会 2001『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書 54、青森県教育委員会 1994『山元(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 243
- 図10 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004『島田Ⅱ遺跡第 2-4 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 450、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988『飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 120、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000『大向上平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 335
- 図11 秋田県教育委員会 1988『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 堪忍沢遺跡』秋田県文化財調査報告書 172、秋田県教育委員会 2000『上野遺跡』秋田県文化財調査報告書 295、秋田市教育委員会 1984『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上 E 湯ノ沢 A 湯ノ沢 C 湯ノ沢 E 湯ノ沢 F』、秋田県教育委員会 2008『釈迦内中台Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書 426
- 図12 青森市教育委員会 2001『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書 54、青森県教育委員会 2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 287、青森県教育委員会 1998『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 243、宮城県教育委員会 1984『柳津館山館跡』宮城県文化財調査報告書 102
- 図13 青森県教育委員会 2000『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 281、青森県教育委員会 2005『山元(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 395、青森県教育委員会 1999『櫛引遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 263、青森県教育委員会 2003『尾上山遺跡・葎野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 347、宮古市教育委員会 1992『細越Ⅰ遺跡 芋野Ⅱ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 36
- 図14 青森県教育委員会 2000『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書 281、青森市教育委員会 2001『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書 54、青森県教育委員会 1986『弥栄平(4)(5)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 106、青森県教育委員会 1998『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 243
- 図15 青森市教育委員会 2001『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書 54、青森県教育委員会 2003『朝日山(2)遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書 350、青森県教育委員会 2004『朝

日山（2）遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書 368、五所川原市教育委員会 1998『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』五所川原市埋蔵文化財調査報告書 21

図 16 青森県教育委員会 2006『林ノ前遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書 415、青森県教育委員会 2004『向田（35）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 373、青森県教育委員会 1980『碓ヶ関村古館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書 54、秋田県教育委員会 1988『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 太田谷地館跡』秋田県文化財調査報告書 172

図 20 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 190

古代における鉄製鋸先の研究

鋸先出土遺跡一覧 (年代については各報告書の記載に従った)

状態	木柄	型式	A：北東北A類	年代
○：完形	残存：装着溝に木柄が残存	新U大：新U字形鋸先大型	B：北東北B類	01：第一四半期
△：一部破損	柄：鋸先装着用だいのみの出土	新U小：新U字形鋸先小型	C：北東北C類	02：第二四半期
×：破片		凹特：凹字形鉄板(山口P類)	D：北東北D類	03：第三四半期
		凹字：凹字形鋸先(松井B類)	特：上記分類以外	04：第四四半期

青森教：青森県教育委員会
市区町村名教：市区町村教育委員会

青森

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	朝日山(2)遺跡	○		D	9C後～10C前	15.9	14.7	10.5	11.7	5.4	233住	大集落、製鉄・精鉄・鍛造	青森教350 2003
2	同上	○		D	9C後～10C前	19.8	25.2	12	12.6	12.6	407号土坑	同上	青森教368 2004
3	同上	○		D	9C後～10C前	17	26.4	9.2	14	12.4	同上	同上	同上
4	大走須恵器窯跡	△		D	10C01以前	15.6	14.7	10.5	9.9	5.1	2号窯物原	須恵器窯跡	五所川原市教21 1998
5	弥采平(4)(5)遺跡	○		C	10C前	16.6	17	10.6	12	5	17住		青森教106 1986
6	岩ノ沢平遺跡	○	残存	A	10C前	18.9	18.9	13.4	11.4	7.5	B区40住	製鉄・精鉄・鍛造	青森教287 2000
7	同上	○		A	9C後葉	15	12.3	9.9	9	3.3	B区41住	同上	同上
8	大池館遺跡	○		A	10C中葉中心	17.7	18	12.3	11.1	6.9	10号土坑		青森教243 1998
9	同上	○		A	10C中葉中心	18	17.7	12	9.9	7.8	同上		同上
10	同上	○		C	10C中葉中心	16.7	18.6	11.4	11.7	6.9	同上		同上
11	同上	○		C	10C中葉中心	16.4	17	10.4	10.8	6.2	同上		同上
12	櫛引遺跡	○		B	9C末～10C初	16	16.4	10.4	10	6.4	33住		青森教263 1999
13	倉越(2)遺跡	△		特	古代	9	※	6.8	6	2.6	遺構外		青森教417 2006
14	同上	×		※	10C後～	※	8.5	※	※	※	35住		青森教389 2005
15	薮野遺跡	○		B	10C	16.2	18.6	10.2	10.6	8	25住	精鉄・鍛造	青森教347 2003
16	砂子遺跡	○		B	9C後～10C前	18.8	21.2	13.2	13.6	7.6	11住	大集落、鉄器大量、畑跡	青森教280 2000
17	高屋敷館遺跡	○		特	古代	11.8	13.6	6.2	9.8	5.8	1B住	精鉄・鍛造	青森教243 1998
18	近野遺跡	○		A	平安	16.2	13.6	11	10	3.6	38住	羽口、鉄滓出土	青森教22 1975
19	野木遺跡	○		C?B?	9C後～10C初	17.3	19.5	10.8	12	7.5	904住	大集落、製鉄、精鉄	青森教281 2000
20	同上	○		C	9C後半	14.7	15.4	10.2	10.5	4.9	928住	同上	同上
21	同上	×		※	10C初	※	※	※	※	※	931住	同上	同上
22	同上	×		※	※	※	※	※	※	※	702住	同上	同上
23	同上	○		B	9C後半	17.1	18.9	10.8	11.4	7.5	730住	同上	同上
24	同上	○		A	10C前	16.8	13.1	12	9.3	3.8	58住	同上	青森市教54 2001
25	同上	○		D?	9C後～10C初	16.2	15.1	11.3	10.5	4.5	92住	同上	同上
26	同上	○		A	9C末～10C初	13.2	11.7	9.3	8.1	3.6	109住	同上	同上
27	同上	○		C	10C01	17.7	21.3	12.2	14.1	10.5	125住(新)	同上	同上
28	同上	○		A	平安	15.6	15.3	10.5	9.1	6	234住	同上	同上
29	同上	○		C	平安	17.4	17.7	12	11.7	5.6	234住	同上	同上
30	同上	○		A	平安	15.3	14.1	10.7	9.9	4.1	243住	同上	同上
31	林ノ前遺跡	○		特	10C03～11C末	17.1	24.6	12	16.8	7.8	遺構外	防禦性、精鉄・鍛造	青森教415 2006
32	同上	○		特	10C03～11C末	16.8	22.2	11.6	14.4	7.8	SK636土坑	同上	同上
33	同上	×		※	10C03～11C末	※	9.6	※	※	※	SD2塚址	同上	同上
34	同上	×		※	10C03～11C末	※	8.2	※	※	※	SK163土坑	同上	同上
35	ふくべ(3)遺跡	○		特	9C前～中葉	11.8	10.2	8.4	8.3	1.9	25住	大集落	青森教392 2005
36	古館遺跡	○		特	11C～12C	15.4	18	10.4	11.6	6.4	1号跡	防禦性集落、製鉄、鍛造	青森教54 1980
37	同上	○		特	同上	11.4	11.2	6.8	7.4	3.6	同上	同上	同上
38	同上	×		不明	同上	※	12.8	※	※	※	137号跡	同上	同上
39	同上	×		不明	不明	※	12.2	※	※	※	遺構外	同上	同上
40	宮田館遺跡	○		特	10C後～11C	18.6	17.5	12	13.8	3.7	14号土坑	精鉄?	青森教411 2006
41	向田(35)遺跡	×		※	11C前	※	13.7	※	※	※	130住	防禦性?精鉄?精鉄・鍛造	青森教373 2004
42	同上	○		特	11C前	17.1	19.5	11.1	12.9	6.6	136住	同上	同上
43	同上	×		※	11C前	※	12.3	※	※	※	132住	同上	同上
44	山元(1)遺跡	○		不明	10C中葉	16.4	17.1	12	11.3	5.8	1住	46に隣接	青森教395 2005
45	同上	○		B	10C	17.1	18.9	11.9	11.1	7.8	5住	同上	同上
46	山元(2)遺跡	○	残存	A	9C末～10C初	14.7	11.6	10.6	8	3.6	3住	大集落、精鉄・鍛造	青森教171 1994
47	同上	△	残存	A	10C中葉	15.6	15.4	10.8	9	6.4	97住	同上	同上
48	山元(3)遺跡	○		B	9C後～10初	13.6	14.9	8.5	10.2	4.7	1住	46に隣接	青森教159 1993

林 正 之

岩理セ:岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	飛鳥台地 I 遺跡	○		A	10C中葉	14.4	13	10	8.5	4.5	DIII-5住	大規模鉄関連	岩理セ120 1988
2	胆沢城跡	○	柄	新U大	9C後	※	※	15	18.3	※	SB3145建物	胆沢城	水沢市教 1998
3	石田遺跡	○		特	平安	12.8	14.8	9.2	10	4.8	Cg56住	同上	同上
4	稲村遺跡	○		新U大	8C末-9C初	15.8	19.1	11.2	14.1	5	H-10住	大集落 徳丹城	岩理セ19 1981
5	稲村 II 遺跡	○		特	8C前半	17.4	15	12	12	3.6	23住	大集落 徳丹城	岩理セ348 2001
6	江刺家遺跡	○		A	平安	18.3	16.2	12	9.3	6.9	I II-6住	製鉄?製鉄・鍛造	岩理セ70 1984
7	大向上平遺跡	○		A	10C中葉	18.5	15.6	12.9	9.7	5.9	9号土坑	小鍛冶	岩理セ335 2000
8	落合 I 遺跡	○		特	平安?	11.4	14.4	8.4	12.4	2	CA06住	同上	同上
9	上川岸 II 遺跡	○		特	9C後葉-10C代	17.1	16.5	12	10.9	5.6	VIII E-2住	小鍛冶	岩理セ153 1991
10	上八木田 I 遺跡	○		A	9C末-10C初	15.6	12.9	10.4	9.6	3	XIE2b住	山間小規模集落	岩理セ227 1995
11	源道遺跡	○		特	10C後-11C	16.5	16.4	12.4	11.7	4.7	NB-2住		岩理セ138 1989
12	鴻ノ巣館遺跡	○		A	平安	16	12.4	11.4	8.9	3.5	FA06住		同上
13	五条丸51号墳	△		凹字	7-8世紀	19.5	11.4	14.4	7.5	5.1	主体部副葬品	大古墳群	松井1987
14	島田 II 遺跡	○		A	10C01	15.3	13.9	11.1	9.3	4.5	44住	大集落・製鉄・鍛造	岩理セ450 2004
15	同上	○		A	10C01	16.6	14.5	12	9.5	5.1	69住	同上	同上
16	同上	○		A	10C02	18	15.6	12.3	10.8	4.8	76住	同上	同上
17	同上	○		A	10C01	15.8	12.1	11.4	7.6	4.5	94B住	同上	同上
18	同上	○		A	10C01	17.8	16.1	12.4	10.6	5.5	160住	同上	同上
19	台太郎遺跡	×		※	平安?	※	※	※	※	5.4	遺構外	大集落 志波城	岩理セ369 2001
20	同上	○		A	9C後?	13	11.6	8.7	6.6	5	RA401住	同上	岩理セ416 2002
21	同上	○		A	9C後-10C前	14	11.4	9.4	6.4	5	RA291住	同上	同上
22	同上	○		A	9C後-10C前	15	11.4	10.4	7.8	3.6	同上	同上	同上
23	同上	△		A	9C後-10C前	14.8	10.8	9.4	7	3.8	同上	同上	同上
24	高屋敷遺跡	○		特	9C後半?	18.4	17.2	12	11.6	5.2	AA11住		山形村教5 1995
25	百目木遺跡	○		特	平安?	17	17.6	11.9	12.4	5.2	30住	大集落	都南村教 1979
26	長瀬C遺跡	△		A?	9C代	16.5	13.5	11.9	9.5	4	10A住	集落群内	岩理セ22 1981
27	中曾根 II 遺跡	○		特	奈良	14.4	11.6	11.6	9.2	2.4	130住	集落群内	高橋義介 1984
28	野古A遺跡	△		A	9C後-10C初	13.5?	10.6	10.0?	6.6	4	RE002住居状	大集落 志波城	岩理セ501 2007
29	馬場遺跡	○		特	7C末-8C前	18.4	18.8	12.4	15.2	3.6	E II-01住	集落群内	岩理セ137 1990
30	同上	○		特	7C末-8C前	17.2	18.2	12	14.4	3.8	同上	同上	同上
31	府金橋遺跡	△		特	10C前葉	※	20	※	14.6	5.4	KId6住		岩理セ72 1984
32	房の沢IV遺跡	○		A	不明	16.5	18.6	12	10.8	7.8	RT14古墳周濠	大古墳群。付近に8C製鉄沢田遺跡、	岩理セ287 1998
33	同上	○		A	不明	15.9	17.4	14	12.2	5.1	RT17古墳遺構外	同上	同上
34	細越 I 遺跡	○		特	古代	16.8	16.7	10.3	10.6	6.1	1号土坑	鉄関連	宮古市教36 1992
35	本宮堂B遺跡	○		A	9C後-10C前	14.6	11.4	9.9	8.5	2.9	RA05住	大集落 志波城	岩理セ226 1995
36	同上	○		A	9C後	16.8	14.8	11.4	8.4	6.4	RA050住	同上	岩理セ470 2006
37	同上	×		特	7C末-8C前	※	10.8	※	※	※	RA085住	同上	岩理セ487 2006
38	同上	×		特	7C末-8C前	※	7.2/6.6	※	※	※	同上	同上	同上

秋県教:秋田県教育委員会
友の会:秋田城を語る友の会

秋田

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	秋田城跡	○		新U大	8C中葉	18	23.7	13	16	7.7	1595住	秋田城	友の会2000
2	池内遺跡	図無		※	-10C前	※	※	※	※	※	423住		秋県教268 1997
3	上野遺跡	○		A	10C前	14.3	11.4	10.2	8.6	2.8	28住	精鉄・鍛造	秋県教295 2000
4	餌釣遺跡	×		※	平安	※	5.7	※	※	※	91住		秋県教210 1991
5	太田谷地館跡	○		特	平安末葉?	18.3	18.5	12.6	14.8	3.7	27住	防禦性?、製鉄・鍛冶	秋県教172 1988
6	大見内遺跡	○	柄	新U大	9C-10C初	※	※	13.8	16.1	※	SK81土坑	窯跡・製鉄工房付近	秋県教386 2005
7	開防遺跡D地区	△		特	9C-10C	※	16.8	※	11.7	5.1	SX200	秋田城・秋田郡衙付近	秋県教361 2003
8	藁忍沢遺跡	○		A	10C前	15.3	11.7	10.8	8	3.7	04住	製鉄・精錬・鍛造	秋県教152 1987
9	同上	○		A	10C前	15.9	12.1	11.1	9	3.1	同上	同上	同上
10	地藏傍遺跡	○		特	古代	10.4	13.8	5.4	7.3	6.5	20400住	山間地、製鉄	秋県教434 2008
11	釈迦内中台 I 遺跡	○		A	10C半ば	17.1	14.7	11.7	9.3	5.4	52A住	製鉄	秋県教426 2008
12	同上	△		A	10C01	18.5?	15.7	12.3	10.8	4.9	28A住	同上	同上
13	中の崎遺跡	○		A	10C前	14	12.4	9.7	9.6	2.8	001住	大集落、小鍛冶程度	秋県教106 1984
14	同上	○		A	9C末-10C前	15.2	12.8	11.3	8.6	4.2	012住	同上	同上
15	中谷地遺跡	○	柄	新U大	不明	※	※	16.3	17	※	SL17河川跡	秋田城・秋田郡衙?	秋県教316 2001

古代における鉄製鍬先の研究

16	法泉坊沢Ⅱ遺跡	○		新U大?	9C後～10C初	21.4	26.2	13.9	17	9.2	21住	製鉄・製鉄・鍛造	秋県教278 1998
17	払田柵跡	○		新U小?	9C前半	11.3	9	6.7	6.2	2.8	1116住	払田柵周辺	秋県教258 1995
18	湯ノ沢F遺跡	△		A	10C代	13.5	9.6	9.3	6.6	3	16号土墳墓	平安時代の土壇墓群	秋田市教 1984

宮県教:宮城県教育委員会
多賀城研:宮城県多賀城調査研究所

宮城

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	一里塚遺跡	○	柄	A?	不明	※	※	10.2	8.2	※	SD33溝跡	城柵・官衙・寺院付近	宮県教179 1999
2	欠ノ上Ⅱ遺跡	△		凹字	7C末～8C初	13.5	11.5	8.4	7.1	4.4	6住	官衙遺跡付近	仙台市教264 2000
3	鴻ノ巣遺跡	○	残存	凹特	8C後～9C	10	10.2	5.9	6.3	3.9	SD7溝跡	多賀城3km	仙台市教280 2004
4	郷楽遺跡	○		新U大	9C前～後	18	25.3	13.6	16.3	9	8住	多賀城付近	宮県教134 1991
5	沢田山西遺跡	△		新U大	9C	19.6	19.5	15.6	15		28住	桃生城周辺	宮県教196 2004
6	清水遺跡	○		新U小	平安	10.3	13.9	6	8.4	5.5	7住	大集落、硯出土	宮県教77 1981
7	同上	○		新U大?	平安	18.8	16	14.6	11.3	4.7	18住	同上	同上
8	同上	△		新U小	不明	※	※	※	※	3.6	遺構外	同上	同上
9	多賀城跡	△		新U大	不明	※	19	※	※	※	9次発掘瓦溜	多賀城	多賀城研1970
10	同上	○		新U小	9C前葉	9.3	11.7	6.4	7.8	3.9	2164住	多賀城	多賀城研1992
11	新田柵跡推定地	△		新U大	8C?	16.4?	22.4	12.5	16.8	5.6	SK02土坑	新田柵	田尻町教3 1998
12	南小泉遺跡	×	残存	新U大	10C前後	※	18	※	14.6	3.4	1住	官衙遺跡、国分寺付近	仙台市教55 1983
13	同上	×	残存	※	10C前後	※	※	※	※	※	同上	同上	同上
14	同上	×		※	不明	※	※	※	※	※	遺構外	同上	同上
15	柳津館山館跡	○		A	10C前半	18.1	15.1	13.1	10.6	4.6	1住	桃生城付近	宮県教102 1984

山県教:山形県教育委員会
山理セ:山形県埋蔵文化財センター

山形

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	浮橋遺跡	△	柄	新U大	10C前半	※	※	12.0?	12.2	※	SE11-F	城柵付付近	山県教141 1989
2	上高田遺跡	△	柄	新U大	10C01	※	※	16.8?	16.8	※	SG1河川跡	城柵付付近	山理セ57 1998
3	笹原遺跡	○	柄	新U大	8C中～9C後	※	※	13.4	16.1	※	SD3内RW117	広瀬郷衙	米沢市教1981
4	三条遺跡	△		新U大	古代～中世	16.2?	16.5	12.2?	10.8	5.7	SP3434F	最上郡中心地	山理セ93 2001
5	依田遺跡	○	柄	新U大	8C末葉	※	※	13.5	15.6	※	遺構外	城柵付付近	山県教77 1984
6	西沼田遺跡	○	柄	凹字?	古墳中期	※	※	7.2	4.8	※	31-25-Ⅲ下		山県教101 1986
7	同上	○	柄	凹字?	古墳中期	※	※	6.0?	4.8	※	32-27-Ⅲ下		同上
8	同上	○	柄	凹字?	古墳中期	※	※	8.7	6.9	※	35-28-Ⅲ下		同上
9	同上	○	柄	凹字?	古墳中期	※	※	9.3	5.1	※	36-30-Ⅲ下		同上
10	沼田遺跡	○	柄	新U大	9C後半	※	※	13.8	18.1	※	SK43土坑	城柵付付近	山県教78 1984
11	宮の下遺跡	○	柄	不明	9C後半以前	※	※	12.4	9.2	※	SG1200河川	城柵付付近	山理セ 1996

福県教:福島県教育委員会

福島県

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	石坂遺跡	△		新U小	平安～中世	14.1	14.2	8.2	7.8	6.4	2住外		いわき市教17 1987
2	江平遺跡	○	柄	新U大	8C中葉	※	※	11.2	14.4	※	小流沢3	大集落、内部に寺院的施設	福県教394 2002
3	大猿田遺跡	○	柄	新U大	8C中葉	※	※	14.5	15.5	※	21号溝	磐城郡衙隣、木工工房	福県教341 1998
4	鍛冶屋遺跡	×		新U大	9C後半		10.8		3.6	7.2	88住	官衙の大集落 郷衙	福県教377 2001
5	上宮崎A遺跡	○		新U大	8C後半	18.1	21.5	14.9	16.3	5.3	8住	白川郡衙隣接	福県教352 1998
6	上宮崎B遺跡	○		凹字	～6C前	9.2	6.3	6.8	7.8	2.5	13号墳	同上	同上
7	白穴横穴群	○		凹字	古墳後期	13.8	6.6	11	4.4	2.2	南14号墳	横穴群	いわき市教 1977
8	関林D遺跡	○		新U大	9C後半	17.7	18.7	13.2	13.2	5.5	4住	須惠器窯付近、小鍛冶跡、郡衙支所?	福県教358 1999
9	滝原前山C遺跡	○		(古)新U大	7C03	16.8	17.1	12.3	11.1	6	8住	白川郡衙に近い	福県教206 1989
10	同上	○		(古)新U大	7C03	16.2	18.3	12.1	12.7	5.6	同上	同上	同上
11	鳥打沢A遺跡	○		新U大	8C前半	18.2	18.9	14.9	14.9	4.1	13号木炭窯	製鉄・炭焼き窯	福県教297 1994
12	深作B遺跡	○		新U大	9C前～中葉	15	16.4	11.1	11.3	5.1	1住	丘陵小規模集落	三春町教委21 1995

林 正 之

13	弥明遺跡	○		(古)新 U大	7C後～8C	17.6	18.8	13.7	14.1	4.7	19住		郡山地域中心	福県教278 1992
----	------	---	--	------------	--------	------	------	------	------	-----	-----	--	--------	-------------

下野古研:下野古代文化研究所
日竈研:日本窯業史研究所
山武:山武考古学研究所

栃木県

遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	井頭遺跡	○	新U小	奈良～平安	9	9.4	6	6.6	2.8	16住	芳賀郡衙・大内庵寺近	下野古研 1975
2	金山遺跡	×	新U大	9C	※	19.5	※	16	※	033住	精鉄工房、須恵器窯・製鉄工房付近	栃県教148 1994
3	同上	△	新U小	9C中	8	12.8	4.2	8.2	4.6	154C住	同上	栃県教179 1996
4	蟹が入遺跡	×	大	平安	※	10.9	※	※	※	63B住	常陸・下野の境界。「子朝日家」墨書土器	日竈研1990
5	下野国分寺跡	○	新U大	9C後	17	18.8	12.8	14.9	3.9	SD-1111B	下野国分寺	栃県教123 1992
6	同上	○	新U小	9C後	10	14.1	6.9	8.8	5.3	同上	同上	同上
7	砂田遺跡	×	新U大	8C後	※	19.6	※	16.1	※	161住	上神主庵寺・推定河内郡衙(多巧南原)付近	栃県教305 2007
8	辻の内遺跡	○	新U大	8C後	17.4	25.4	12.9	16.8	8.6	29住	里の中心、付近に村落内寺院	栃県教127 1992
9	殿山遺跡	○	(古)新 U小	7C代	12.7	14.6	7	9.1	5.5	KT114住		日竈研1995
10	那須官衙関連遺跡	○	(古)新 U大	7C末～8C前	17.7	22.7	11.9	14.7	8	5住	那須官衙正倉院隣	栃県教235 2000
11	古橋 I 遺跡	○	新U小	9C後	10.8	14.7	6.9	9.2	5.5	15住	周辺調査事例僅少	栃県教247 2001
12	宮の内B遺跡	○	新U小	平安	9.7	7.2	5.6	4.2	3	04住	上神主庵寺・東山道付近 石帯出土	栃県教175 1996
13	向原南遺跡	○	新U大	平安	20.1	22.2	15	14.2	8	HT32住	上神主庵寺・河内郡衙周辺	日竈研1992
14	免の内台遺跡	○	凹字	古墳後期	実測無	※	※	※	※	147住	付近に官衙関連大集落。芳賀郡衙から7.5km	芳賀町教1985
15	同上	○	新U小	9C後	11.7	14.4	6.8	9.5	4.9	4住	付近に官衙関連大集落。芳賀郡衙から7.5km	山武 1994

郡埋文:群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬

遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	赤堀村19号墳	○	残存	新U大?	不明	15.5	17.4	11.6	12.9	4.5	19号墳	赤堀村教8 1978
2	上百駄山遺跡	○	新U大	平安	18.6	26.4	12.9	17.6	8.8	6住	大集落芳賀東部団地遺跡より1.5km	富士見村教 1995
3	黒井峯遺跡	○	凹字	6C前	11.3	7.9	8	4.9	5	C49平地住		子持村教11 1990
4	同上	○	凹字	6C前	11.5	7.4	8.6	5.4	2.2	C78平地住	同上	同上
5	上野国分僧寺・尼寺中間地域	○	新U大	11C前半	21.8	26.4	15.9	17.4	9	C区50住	上野国分寺隣接	群馬埋文126 1992
6	同上	△	新U大	10C	17.9	15.8	12.6	10.3	5.5	Z区4住	同上	同上
7	下芝五反田遺跡	○	新U大	不明	16.8	21.3	10.4	12.9	※	遺構外	群馬郡衙別院(八木院)付近	群馬埋文250 1999
8	村主遺跡	○	(古)新 U大	7C末～8C前	16.9	21.5	12.3	15.3	6.2	20住	付近に日夜野古窯跡	群馬埋文1986
9	高浜広神遺跡	○	新U小	10C前	9.6	11.2	5.5	7.4	3.8	32住	里見庵寺付近	群馬埋文252 1999
10	富田下大日遺跡	○	新U大	9C中	19.9	23.5	15	15.3	8.2	21住	付近集落より灰釉陶器	群馬埋文372 2006
11	中林遺跡	○	凹字	6C初	11.7	9.2	7.6	6	3.2	48住		群馬町教6 1983
12	同上	○	凹字	6C初	11.5	8.4	7.3	5.2	3.2	同上		同上
13	成塚住宅団地遺跡	○	新U大	不明	21.1	24.8	15.4	16.8	8	AX2	新田駅家・寺井庵寺隣接	太田市教 1992
14	同上	○	新U大	9C後半	21.2	23.2	14.8	17	6.2	AH129住	同上	同上
15	西三社免遺跡	○	新U大	9C04	20.6	22.4	14.9	15	4.4	H32住	国分寺から1km	群馬町教29 1990
16	二の宮遺跡	○	新U小	10C前半	8.8	10.4	5.8	7.2	3.2	D区1住	山田郡中心、製鉄工房・須恵器窯付近	太田市教 1986
17	半田中原・南原遺跡	×	大	奈良	※	16.9	※	※	※	45住	大集落、有馬島牧?	渋川市教 1994
18	東今泉鹿島遺跡	○	新U小	9C中	10.6	11.8	6	9	2.8	58住	山田郡中心、製鉄工房・須恵器窯付近	群馬埋文403 2007

古代における鉄製鍬先の研究

19	平井地区1号古墳	△		回特	古墳	※	3.4	※	2.3	1.9	1号古墳		藤岡市教 1993
20	不動山古墳	○		U字	5C末～6C初	12.7	12.2	9.2	8.4	3.8	古墳円筒埴輪列より出土		赤堀村教30 2005
21	町田十二原遺跡	○		新U大?	平安?	19.4	25.2	14.4	16.4	7.8	3住	平安期村落内寺院「宮田寺」	沼田市教 1993
22	嶺・下原遺跡	×		※	不明	※	3.9	※	※	※	H-5住		安中市教 1991
23	宮田諏訪原遺跡	○		U字	5C末	12	10.8	8.4	7	3.8	祭祀遺構		同上
24	同上	○		U字	5C末	12.6	11.2	7.6	8.4	3.8	祭祀遺構		同上
25	同上	×		U字	5C末	※	6.8	※	※	※	祭祀遺構		同上
26	同上	△		U字	5C末	※	※	※	※	※	祭祀遺構		同上
27	同上	△		U字	5C末	※	※	※	※	※	祭祀遺構		同上
28	同上	△		U字	5C末	12.4	13.2	※	8.8	4.4	祭祀遺構		同上
29	同上	○		U字	5C末	10.4	9	8	6.4	2.6	祭祀遺構		同上
30	森下中田遺跡	○		新U大	8C	18.2	20	12.4	12.4	7.6	3住	大水田跡近。布目瓦、瓦塔出土。郡衙推定地	昭和村教8 1998

茨城県財:茨城県教育財団
勝田市文公:勝田市文化・スポーツ振興公社

茨城

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	上野陣場遺跡	△		新U小	9C中～後葉	5.1?	9.3	※	6.4	2.9	173住	河内郡衙中心	茨城県財182 2002
2	同上	×		新U小	9C中～後葉	※	8.4	※	※	※	同上	同上	同上
3	大塚遺跡	×		大	9C前	※	12.7	※	※	※	6住	官衙関連集落「曹子」墨書土器 掘立建多数	茨城県財242 2005
4	鹿島市内No.82遺跡	○		新U小	8C前半	8.4	10.7	3.6	7.3	3.4	SB1住	鹿島郡衙(神野向遺跡)3km 柵列囲む掘立建	鹿嶋市教105 1998
5	同上	×		新U大	8C前半	※	14.8	※	※	※	同上	同上	同上
6	鹿の子C遺跡	×		新U大	8C後～	※	15.4	※	※	※	61住	8C後操業の国衙工房 鍛造鍛冶(精鉄も?)	茨城県財20 1983
7	同上	×		新U小	8C後～	※	9.9	※	※	※	178-A住	同上	同上
8	同上	△		新U大	8C後～	16	26	※	22	4	4号連房堅穴	同上	同上
9	島名熊の山遺跡	○		新U大	8C中	18.6	19.5	13.7	13.5	6	2077住	島名郷行政中心地? 工房的性格	茨城県財264 2006
10	同上	×		※	9C後	※	7.7	※	※	※	2117住	同上	同上
11	同上	△		新U小	9C後	8.6?	9.9	4.8	6	3.9	2620住	同上	茨城県財280 2007
12	武田西塚遺跡	○		新U小	平安	8.3	8.9	5.1	5	3.9	63住		勝田市文公8 1993
13	中原遺跡	○		新U大	9C前葉	18.2	22.8	13	17.6	5.2	262住	河内郡衙1km. 鍛冶遺構 区画掘立建 緑釉	茨城県財170 2001
14	二の沢B遺跡	○		新U小	9～10C	7.7	8.7	4	5.3	3.4	2号周溝墓周溝西くびれ部	那珂郡衙・群寺周辺	茨城県財208 2003
15	原畑遺跡	○		新U大	9C～10C中	20.1	22.6	15.9	15.1	7.5	3住	周辺遺跡調査なし	三浦村教7 1996
16	宮後遺跡	×		(古)新U大	8C前葉	※	12.8	※	※	※	115住	官衙関連集落大塚遺跡(茨木4)付近 緑釉出	茨城県財241 2005
17	同上	○		新U大	8C後	16.2	21.4	10.8	14.3	7.1	118住	同上	同上
18	同上	×		小?	不明	※	5.9	※	※	※	遺構外	同上	同上

埼玉文:埼玉県埋蔵文化財調査事業団
大宮遺跡会:大宮市遺跡調査会
埼玉遺跡会:埼玉県遺跡調査会

埼玉

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	飯積遺跡	△		凹字?	6C03	6.8?	5.6	4.4	3.7	1.9	SJ138住		埼玉文334 2007
2	同上	○		凹字	古墳後期	13.2	8	8.8	4.8	3.2	遺構外		同上
3	稲荷前遺跡	△		新U小	不明	5.8	6.2	2.6	3.7	2.5	遺構外		埼玉文145 1994
4	御伊勢原遺跡	○		U字	古墳中期	9.3	10.6	6	8.7	1.9	59住		埼玉文79 1989
5	熊野遺跡B区	○		新U小	9C後半	9.6	9.4	6.4	6.6	2.8	16住	榛沢郡衙(中宿遺跡)付近	埼玉文251 2000

林 正 之

6	将監塚・古井戸遺跡	×		新U大	9C02	※	15.3	※	※	※	H-112住	拠点の集落「厨」「大 家」墨書土器	埴埋文71 1988
7	同上	×		埴?	8C末-9C01	※	8.2	※	※	※	H-145住	同上	同上
8	台耕地(Ⅱ)遺跡	○		新U小	10C01	7.6	10.2	3.9	5.6	4.6	3住	製鉄工房、9C03- 10C01操業	埴埋文33 1984
9	同上	×		新U小	10C01	※	9.7	※	※	※	49住	同上	同上
10	中堀遺跡	○		新U大	10C03	18.6	25.1	12.8	14	11.1	121住	勸旨田?大集落、総合 的工房群・寺院施設	埴埋文190 1997
11	同上	○		新U大	10C03	20.6	23.5	15	12.9	10.5	同上	同上	同上
12	同上	○		新U大	10C03	22.4	22.5	16.7	14.1	8.4	同上	同上	同上
13	同上	○		新U大	10C03	20.1	21.8	14.9	15.5	6.3	同上	同上	同上
14	同上	○		新U大	10C03	18.3	22.8	12.6	14.9	7.9	同上	同上	同上
15	中宿遺跡	○		凹字	古墳後期	12.3	8.4	8.7	5.1	3.3	32住		岡部町教4 1999
16	西浦遺跡	△		新U小	不明	6.5	10.4	5.2	7.2	3.2	遺構外	付近集落より円面硯、 帯飾。勝呂虎寺近し	埴埋文184 1997
17	沼下遺跡	△		新U小	9C末-10C初	8.2	8.7	4.5	4.5	4.2	21住	台耕地遺跡(15)の北 方敷キロ	埴埋文16 1982
18	根切遺跡	△		凹字	不明	12.3	9.2	10.8	6.2	3	43号土坑		大宮遺跡会別11 1994
19	鳩山窯跡群	△		新U大	8C03	18.0?	21.6	12.8	17.8	3.6	小谷B1住	窯跡・工人集落	同調査会3 1991
20	同上	△		新U大	8C末-9C前	※	19.8	※	16	※	広町A6住	同上	同調査会4 1992
21	伴六遺跡	○		新U小	10C前	7.8	8.6	4.7	6.1	2.5	19住	窯跡関係?	埴埋文11 1982
22	氷川神社東遺跡	○		新U大	9C中-後	19.1	24.7	15.2	17	7.4	10号住	氷川神社隣接	大宮遺跡会42 1993
23	樋詰遺跡	○		凹字	古墳後期	11.9	10.4	8.2	6.9	3.5	C区6号溝		埴埋文102 1991
24	宮ノ越遺跡	△		新U小	平安?	10.0?	10.3	6.8	5.4	4.9	遺構外	窯跡群対岸	埴遺跡会44 1982
25	吉野原遺跡	○	残存	新U小	10C後	8.6	13.6	5.4	8	5.6	9住		大宮遺跡会別3 1986
26	若葉台遺跡群	○			10C-	実測 無	※	※	※	※	J地点1住	勝呂虎寺付近	鶴ヶ島町教 1984

赤羽調査会:東北新幹線赤羽地区遺跡調査会
 造大調査団:東京造形大学宇津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団
 都府病調査:都立府中病院内遺跡調査会
 都埋セ:東京都埋蔵文化財センター

東京都

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体 幅	全体 長	風呂 幅	風呂 長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	赤羽台遺跡	×		新U大	平安	※	12.6	※	※	※	HK13住	豊島郡衙付近	赤羽調査会 1992
2	落川遺跡	×		新U大	10C04	※	18.6	※	※	※	238住	拠点の集落	同調査会1986
3	同上	×		新U小	9C04	※	7.6	※	※	※	430住	同上	同上
4	同上	○		新U大	12C前半	21	24.8	15	13.8	11	SD32A溝	同上	守屋栄介2001
5	多摩ニュータウン No.325遺跡	○		新U大	10C後	20.3	21.3	15	14.6	6.7	2住	丘陵地単独集落	都埋セ9 1988
6	多摩ニュータウン No.362 363遺跡	△		(古)新 U大	8C前	16.6	19.8	12.4	14.1	5.7	1住	丘陵地単独集落	都埋セ4 1983
7	鶴川遺跡群K地点	○		新U小	9-10C	10.4	10.3	7.6	6.5	3.8	K-1住	多摩丘陵上	町田市教 1972
8	都営府中美好町一 丁目第5アパート 地区	△		特?	平安	7.2	8.8	5.4	6.4	2.4	32住	国府	府中市教 1999 a
9	中里峽上遺跡第12 地点 北区	△		新U小	10C半	※	11.8	※	7.8	4	1号特殊遺構	豊島郡衙	北区教28 2000
10	中田遺跡	×		大	8C前	※	※	※	※	※	D北区52住		同調査会 1967
11	なすな原遺跡	△		新U小	10C01	5.8	8.4	3.6	6.2	2.2	58住		同調査団 1996
12	No.16遺跡	△		新U小	古代-中世	8.8	10.5	6.5	6.5	4	遺構外	落川遺跡付近	都埋セ312 2007
13	船田遺跡	○	残存	新U小	平安	8.5	9.1	4.6	5.6	3.5	SB02住	南多摩瓦窯群隣接	同調査会 1972
14	南多摩窯跡群御殿 山地区	○	柄	新U大	9-10C	※	※	13.3	15	※	A北区SK208	古代窯跡	造大調査団1992
15	美好町一丁目第 6AP地区	×		新U大	不明	※	11.7	※	※	※	遺構外	国府	府中市教 1999 b
16	武蔵国府関連遺跡 調査報告	○		新U大	9C後-10C前	17.8	14.4	12	11.8	2.6	9住	国府	野村不動産 2008
17	同上	△		新U大	9C前	※	21.9	※	18	※	13住	同上	同上
18	武蔵国分寺	△		新U小	10C?	7.4	8.5	※	5.7	2.8	溝覆土	国分寺	市調査会2001
19	武蔵台遺跡	×		新U大	不明	※	12.1	※	※	※	85住	国分寺付近	都府病調査1995

古代における鉄製鋏先の研究

印文セ:印旛郡市文化財センター
 香文セ:香取郡市文化財センター
 君文セ:君津郡市文化財センター
 山文セ:山武郡市文化財センター
 常工調査:日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
 東大考研:東京大学考古学研究室

千都公:千葉県都市公社
 千文セ:千葉県文化財センター
 日鉄公:日本鉄道建設公団
 日文研:日本文化財研究所
 日住公団:日本住宅公団東京支社

千葉

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	我孫子中学校校庭遺跡	×		※	不明	※	10	※	※	※	0住		東大考研1969
2	岩井安町遺跡	○	残存	新U大	8C後	18.6	24.2	13.5	15.7	8.5	006住	「謹種〇植」墨書土器	千文セ247 1994
3	印内遺跡第1地点	○		新U大	奈良末～平安	18.2	22.4	13.6	16.1	6.3	6住	栗原郷 印内台遺跡 平安期漆紙文書出土	日鉄公 1973
4	上の台遺跡	○		凹特	8C中	10.8	11.6	6.4	7.1	4.5	4住	村神郷中心の一角	千文セ245 1994
5	江原台遺跡	×		新U小	11C	※	11.2	※	8.1	※	24住	中心的集落 灰釉、鉄器、墨書土器多数	千文セ 1977
6	江原台第一遺跡	×		新U大	不明	※	11.5	※	※	※	45住	同上	同調査団 1979
7	同上	○		新U大	8C末～9C	17.8	22.4	12.9	15.5	6.9	061住	同上	同上
8	菊間遺跡	○		新U大	8C後半～9C	21	19.2	15.6	15.2	4	44住	出土住居竈に瓦、瓦多数出土 菊間廃寺付近	千都公 1974
9	久我台遺跡	○		新U小	8C後半	8.7	9	4.5	6.5	2.5	210住	管屋郷道庭遺跡側。鉄滓、大小羽口片大量	千文セ 1988
10	高岡大山遺跡	×		新U大	平安前期	※	20.6	※	17.4	※	8号土坑	コの字形掘立建 郡衙出先?	印文セ71 1993
11	中馬場遺跡	×		特	国分	10.3	7.1	※	※	4.5	27住	於賦駅付近か	常工調査 1972
12	同上	○		凹字	古墳後期?(報告書では国分)	15.4	12.8	10.8	9.1	3.7	83住	同上	同上
13	長部山遺跡	○		新U小	10C	7.2	10.4	4.4	6.8	3.6	045住	香取神宮隣接	香文セ 1991
14	永吉台遺跡遠寺原地区	○		新U大	9C前	20.8	21.3	17	15.8	4.7	2住	土器生産工房。萩ノ原遺跡付近	君文セ12 1985
15	同上	×		※	10C中	※	7.2	※	※	※	24住	同上	同上
16	同上	○		新U小	9C後	7.9	9.4	5.4	5.8	4.6	37住	同上	同上
17	永吉台遺跡西寺原地区	×		新U小	9C中	※	13.8	※	12	※	49住	土器生産工房。萩ノ原遺跡付近	同上
18	同上	×		新U大	9C後	※	13.2	※	※	※	64住	同上	同上
19	同上	×		新U小	10C後	※	4.3	※	※	※	86住	同上	同上
20	同上	×		※	9C末～10C初	※	10.8	※	※	※	89住	同上	同上
21	同上	×		新U大	10C前	※	10.5	※	※	※	130住	同上	同上
22	夏見大塚遺跡	○	残存	凹特	8C代	11.3	11.3	5.4	7	4.3	4号住	夏見台遺跡群 栗原郷	同調査団 1975
23	萩ノ原遺跡	○	残存	新U大	奈良末～平安前	20.7	20.6	15.6	15.6	5	K-2址	古代寺院川原井廃寺(東郷台遺跡)付近 製鉄工房	日文研5 1977
24	花山遺跡	×		※	8C	※	6.5	※	※	※	28住	付近に8Cの製鉄遺跡、瓦窯群	君文セ38 1988
25	同上	○		新U大	8C	17.7	24.6	12.3	15.7	9.9	181住	同上	同上
26	同上	×		※	8C	※	19.5	※	※	※	同上	同上	同上
27	東和田遺跡	○	残存	新U大	9C中	23.8	26.5	18.8	16.8	9.7	5住	川栗郷中心 製鉄工房群周辺	印文セ152 1999
28	文臨遺跡	×		新U大	8C	※	8	※	※	※	364住	永吉台遺跡1キロ西	君文セ69 1992
29	同上	○		新U大	9～10C	13.7	14.7	10	10.4	4.3	185住	同上	同上
30	同上	×		新U大	同上	※	11	※	※	※	同上	同上	同上
31	古屋敷遺跡	×		※	9C前～中	※	3.9	※	※	※	9住	山幡郷中心地?	香文セ1999
32	同上	△		新U小	9C前～中	6	8.5	3.4	6	2.5	12住	同上	同上
33	南借当遺跡	△	残存	新U大	不明	18	21.3	15.2	14.2	7.1	遺構外	富寿神宝出土 「神奉」「奉玉泉」墨書土器	千文セ195 1991
34	南外輪戸遺跡	△		新U大	9C後半	16.5	20.1	12	13.3		2住	1キロ南西に岡山郷中心集落作畑遺跡。	同調査会1985
35	南麦台遺跡	○		新U大	8C中葉	21.2	24	16.4	17.5	6.6	H-047住	草野郷中心砂田中台付近。2キロ北、鍛造粘土採掘窯業工房群	山文セ18 1994
36	村上込の内遺跡007	×		※	奈良末?	※	※	※	※	※	006住	村神郷中心 帯方出土墨書土器・鉄製品多数	日住公団 1974

林 正 之

37	同上	×	※	奈良末?	※	7.2	※	※	※	同上	同上	同上
38	同上	○	新U大	奈良末?	19.2	23.1	14.5	16.3	6.8	156住	同上	同上
39	山田虎ノ作遺跡	×	新U小	平安	※	7.7	※	6.6	※	6住	鋼鉄製鉤出土	印文セ81 1994
40	山田水呑遺跡	×	※	8C前	※	6.6	※	※	※	010住	山口郷中心	同調査会 1977

神考財:神奈川考古学財団
 横歴財:横浜市ふるさと歴史財団
 神埋セ:神奈川県立埋蔵文化財センター
 相考研:相武考古学研究所
 法大調査委:法政大学多摩校地域城山地区遺跡調査委員会

神奈川県

	遺跡名	状態	木柄	形式	年代	全体幅	全体長	風呂幅	風呂長	刃幅	出土遺構	遺跡性格	文献
1	池子遺跡群	○	柄	新U大	不明	※	※	13.2	12.6	※	1号溝状遺構	丘陵奥地	神考財44 1999
2	池ノ辺遺跡	○		新U大	不明	20.6	23.1	14.4	15.1	8	遺構外	金銅製帯金具 灰釉陶器出土	同調査会 1980
3	大谷向原遺跡	○		新U大	9C01	21.1	22	16.6	16.6	5.4	33住	国分寺付近	市調査会 1992
4	笠間中央公園遺跡	○		新U小	8-9C	9.8	10.8	6.2	6.4	4.4	遺構外	精錬工房。付近に製鉄・精錬工房	横歴財 2003
5	構之内遺跡	○	残存	新U大	9C中-後	21.2	19.2	17.2	14.2	5	26住	相模国府推定地隣接	同調査団 1994
6	上浜田遺跡	×		新U大	10C代	※	11	※	※	※	006住	国分寺付近	神県教15 1979
7	草山遺跡	×		新U小	9C中	※	10.4	※	8.1	2.3	054住	秦野盆地最大級集落 緑釉陶器出土	神埋セ18 1990
8	同上	×		新U小	不明	※	9.4	※	7.7	1.7	遺構外	同上	同上
9	同上	×		新U小	不明	※	8.3	※	※	※	遺構外	同上	同上
10	倉見才戸遺跡	○	残存	新U大	10C後	20.7	23.7	16.2	14.2	9.5	8号土坑	本郷遺跡1km。国分寺周辺	同調査団 2001
11	相模国分尼寺関連遺跡	○		新U大	9C	実測無	※	※	※	※	04住	国分寺隣接	相考研 1989
12	下大槻峯遺跡 (No.30)	×		新U大	9C初-9C02	※	13	※	※	※	022住	道状遺構と大溝により区画 大集落	神考財35 1998
13	天神谷戸遺跡	○		新U小	8C前	7.3	7.4	5.9	3.7	3.5	37住	交通の要衝。相模最後の国府所在地より2km	神考財75 2000
14	彦尾遺跡	△		新U小	奈良-平安	8.9	9	6	6	3	表採	国分寺付近、丘陵地開発	神県教7 1975
15	成瀬遺跡群下槽屋C地区第1地点	△		新U小	古代	10	8.1	6.9	6.2	1.9	古代包含層	多数の墨書土器(大半は「万」)	同調査会2002
16	風間遺跡群第4地区	○		新U大	10C04	21.2	24	15.6	15.3	8.7	25住	南多摩瓦窯群対岸	法大調査委1989
17	本郷遺跡	×		新U大	8C中-9C	※	11.7	※	※	※	2住	国分寺5km 国分寺周辺集落南端	同調査団 1988
18	同上	○		新U小	不明	9.7	7.9	7.3	5.7	2.2	遺構外	同上	同調査団 1989
19	同上	×		新U大	9C?	※	10.4	※	※	※	20住	同上	同調査団 1996
20	望地遺跡	○	残存	凹特	不明	11	10.5	4.4	7.6	2.9	1住	国分寺付近	同調査団 1984
21	谷原遺跡	○		凹字	7C	16.7	11.2	11.9	6.7	4.4	2号墳	終末期古墳群	同調査団 1972
22	藪根不動原遺跡	×		新U小	9C04-10C初	6.9	8.1	4.5	6.2	1.8	H9住	都築郡街3km 10Cの方形館3km	同調査団 2007
23	影向寺遺跡	○		凹字	古墳後期	9.8	7.4	6.7	5	2.4	不明		同調査団 1986

Iron edges of plows in ancient Japan In Kanto and Tohoku district, from latter 7 century to 11 century

In this paper I collected metal edges of plows in Kanto and Tohoku district from latter 7 century to 11 century to compare the shape and size of them. I also analyzed the type of sites where those plow edges are excavated, and examined the structure of production and distribution of those edges. In Kanto and southern Tohoku district, plow edges were newly standardized in latter 7 century by Japanese ancient nation, and from 8 to 11 century shapes and sizes of all the plow edges were united. The ancient nation system of manufacture and trade played great roles in production and distribution of plow edges in this area. On the other hand in northern Tohoku district, different types of plow edges were produced from latter 7 century. In latter 9 century, as this area became a great iron-manufacturing region, a lot of plow edges were produced and new standards of plow edges, which is very different from southern area, were appeared. But in latter 10 century, these standards were disappeared, and various shapes and sizes of plow edges were made in fortified colonies, which have iron mills insight of them. This paper concludes that there are great difference between Kanto/southern Tohoku district and northern Tohoku district about the standards of shape of plow edges and the system of production and distribution of the plow edges.